

消防年報

令和6年版



令和6年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練(田貫湖)

富士宮市消防本部

令和7年発行



富士宮市民憲章

(昭和42年11月1日制定)

わたくしたちは、富士宮市民であることに誇りをもちお互いのしあわせをねがい、よい市民となるために、この憲章を定めます。

- 1 わたくしたちは、富士山を仰ぎ文化を高め、ゆたかな教養を身につけましょう。
- 1 わたくしたちは明るい家庭をつくり、健康な青少年を育てましょう。
- 1 わたくしたちは、恵まれた自然を愛し、清潔な美しいまちをつくりましょう。
- 1 わたくしたちは、社会のきまりを守り、人に迷惑をかけないようにつとめましょう。
- 1 わたくしたちは、心身をきたえ仕事にはげみ、郷土の発展につくしましょう。

市長あいさつ



近年、災害の激甚化、頻発化や救急業務の逼迫が顕著となっており、「南海トラフ地震」をはじめとした大規模な自然災害の発生が危惧される中、市民の生命、身体及び財産を守るという消防の果たす役割は、より一層重要なものとなっております。

このような激甚化、頻発化している災害に対し、迅速かつ的確な対応をしていくため、さらには将来的な人口減少や高齢化の進展等社会の諸情勢を捉えながら、消防・救急需要に的確に対応するため、消防力の基礎となる人的確保や消防車両、消防資機材等の装備の充実、消防庁舎の整備等を積極的に取り組み、消防力の強化に努めてまいりました。

今後も引き続き、消防力の強化を図りながら第5次富士宮市総合計画後期基本計画の目標である「災害に迅速に対応する体制が充実したまち」の締めくくりの年として、また、新たに始まる第6次富士宮市総合計画に向け、行政と消防が一体となり、連携を深めながら、市民の安全・安心を確保するべく、地域防災力の向上に努めてまいります。

富士宮市長

須藤秀忠

消防長あいさつ



令和6年版消防年報の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

市民の皆様には、平素から消防行政並びに火災予防に対し、格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

私は、令和6年4月1日に消防長に就任し、今年で2年目を迎えました。本年は、消防行政のさらなる充実強化に向けて、今一度原点に立ち戻り、全力を挙げて取り組む所存でございます。

近年、消防を取り巻く環境は大きく変化し、林野火災や地震、風水害、老朽化したインフラによる事故など、災害は激甚化、大規模化かつ複雑化の様相を呈しております。令和6年1月に発生した能登半島地震では、当消防本部からも緊急消防援助隊静岡県大隊として延べ48人が出動いたしました。本市においても南海トラフ地震や首都直下型地震などは、いつ発生してもおかしくない状況にあります。

また、高齢化等の社会状況の変化に伴い救急出動件数は年々増加しており、市民の皆様からの消防に対する期待と需要の高まりを実感しております。

このため、災害に対応する市民の安心・安全の負託に応えるべく、迅速かつ的確に対応し富士宮市が掲げる「災害に迅速に対応する体制が充実したまち」の実現に向けて職員一丸となり職務に精励し、最善を尽くしていく所存でありますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

富士宮市消防長

菅原一朗

目 次

概 要

富士宮市の案内（位置）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
富士宮市の面積・人口・世帯数・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
消防本部・署（分署）の配置・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
富士宮消防の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
主な災害歴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

総務関係

組織機構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
消防本部事務分掌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
消防署事務分掌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
住民と常備消防力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
歴代消防長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
消防職員の階級別構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
階級別年齢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
階級別勤続年数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
消防職員各種免許取得状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
職員研修状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
年度別消防予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
人口と当初予算の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

火災関係

火災の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
火災の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
過去10年間の火災発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
月別火災の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
建物火災の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
出火原因別火災件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
出火原因別の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

予防関係

予防行政の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

建築確認消防同意等件数	27
防火対象物に関する調べ（延面積150㎡以上）	28
防火対象物査察及び防火管理者選任届出状況	29
消防用設備着工・設置届出及び完成検査数	30
防火・防災管理届出・消防計画届出・各点検結果報告数	30
煙火消費許可件数	30
各種届出件数	31
防火管理新規講習実施状況及び再講習	32
火災予防広報	32
住民指導実施状況	33
製造所等の許可、完成検査及び廃止届等の数	34
危険物施設立入検査等件数	34
数量別危険物施設数	35
類別危険物施設数	36

警防関係

各種出動状況及び教育・訓練状況	37
消防車両配置状況	38
消火薬剤備蓄状況	39
消防水利の現況及び新設基数	40

通信・気象関係

119番の受信状況	41
富士市・富士宮市消防指令センター 応援指令状況	41
映像通報システム（Live119）使用件数	41
通信施設の状況	42
富士市・富士宮市消防指令センター系統図	43
無線配置状況	44
富士宮市気象観測結果	46

救助関係

発生場所別事故件数及び月別・事故別出動件数	47
事故別出動車両、出動・活動・救出人員	48
救助資機材の配置状況（省令指定物品等）	49

救急関係

月別事故活動状況	5 2
出動件数の推移と事故種別による出動割合	5 3
出動から現場到着までの所要時間と出動件数	5 4
出動から医療機関収容までの所要時間と搬送人数	5 4
救急講習件数・受講人員	5 4
応急処置別 事故種別実施数	5 5
覚知時間別 事故種別出動回数	5 6
曜日別救急出動件数	5 7
月別救急出動件数	5 7
救急関係資器材の配置状況	5 8

応援協定関係

消防相互応援協定及び覚書、その他の協定	5 9
静岡県内の消防の現況	6 0

消防団関係

消防団組織図	6 1
消防団の定員及び実員	6 1
歴代消防団長	6 2
消防団員配置状況（実員数）	6 3
年度別消防団員入団及び退団の推移	6 4
消防団員階級別年齢及び在職年数	6 5
消防団消防車両配置状況	6 6
消防団詰所一覧表	7 0
水防倉庫・資機材倉庫配置図	7 2
消防団車両配置図	7 3
消防団協力事業所表示証交付団体	7 4

防火協力団体関係

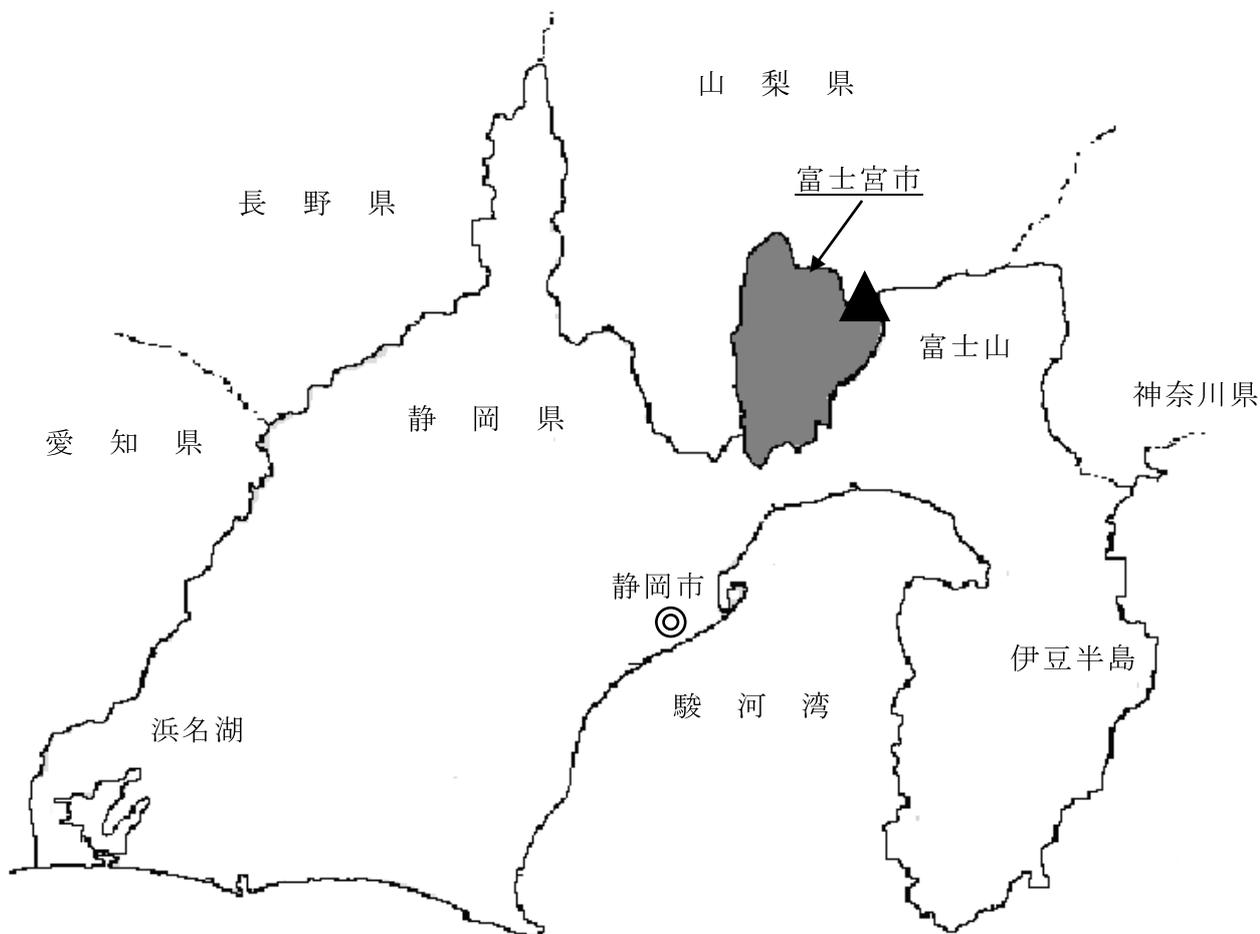
富士宮市防火安全協会	7 5
婦人防火クラブ	7 6
少年消防クラブ	7 7
幼年消防クラブ	7 8

概要



富士宮市と富士山

富士宮市の案内（位置）



富士宮市は、富士山の西南麓に位置し、広大な森林や豊富な清流、湧水等の自然の中で文化と歴史が育まれ、市域の46パーセントが富士箱根伊豆国立公園に指定されています。市域は、東から南は富士市に接し、北から西は富士山頂から毛無山系を隔て山梨県に接し、北方に世界文化遺産である富士山を有している。また、その構成資産（富士山信仰の対象と芸術の源泉）である富士山本宮浅間大社・山宮浅間神社・村山浅間神社・人穴富士講遺跡・白糸ノ滝といった文化的資産を有するまちである。

本市は、世界遺産のまちづくりとして、浅間大社を中心とした信仰の地にふさわしい文化的空間の創出、「清流の美」「空間の美」「庭園の美」をコンセプトにした豊かな自然を生かした癒しの創出、門前町としてのにぎわいの創出を基本方針にまちづくりを進めている。

概要

総務

火災

予防

警防

通信・指令

救助

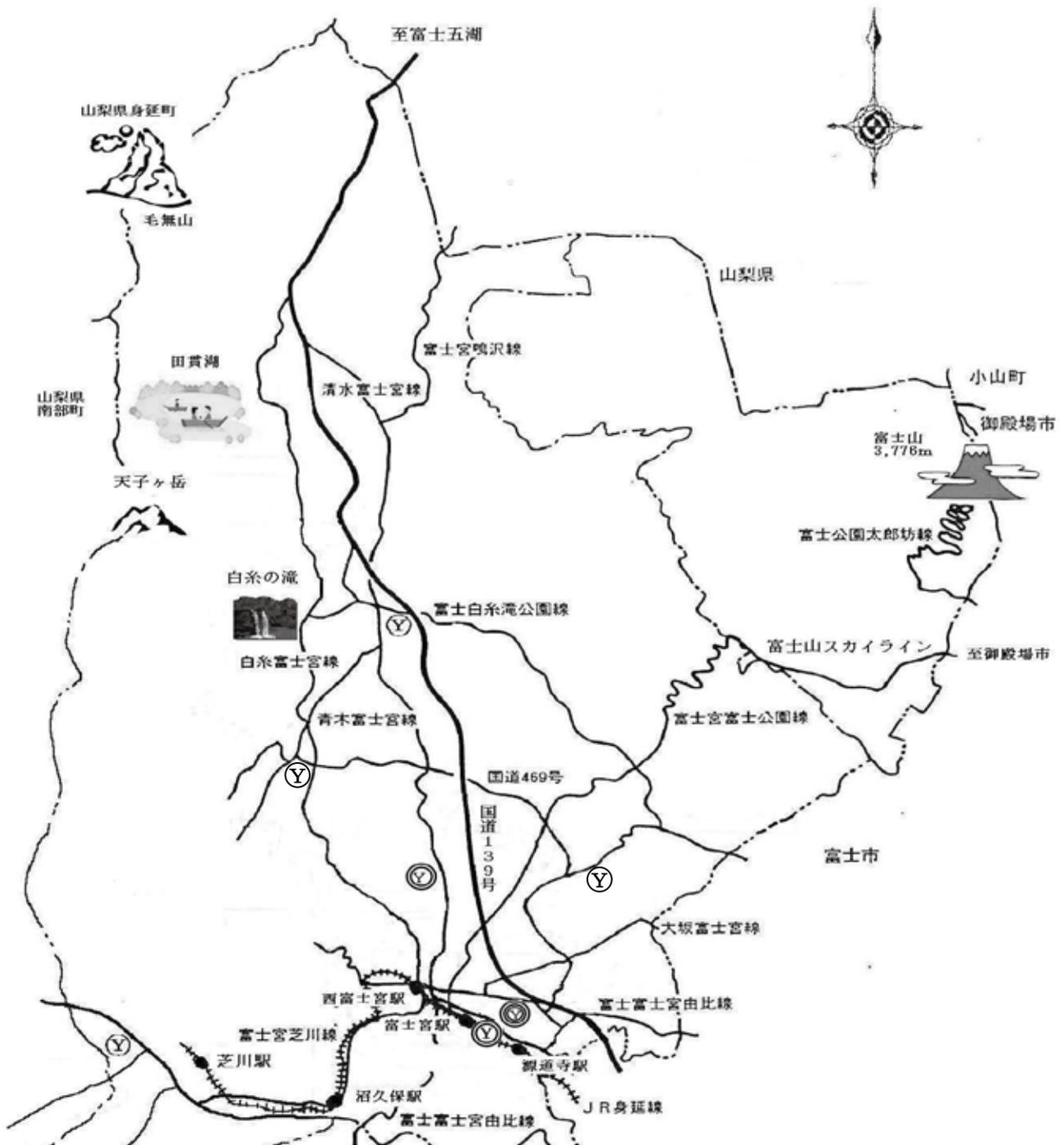
救急

応援協定

消防団

防火協力団体

富士宮市の面積・人口・世帯数



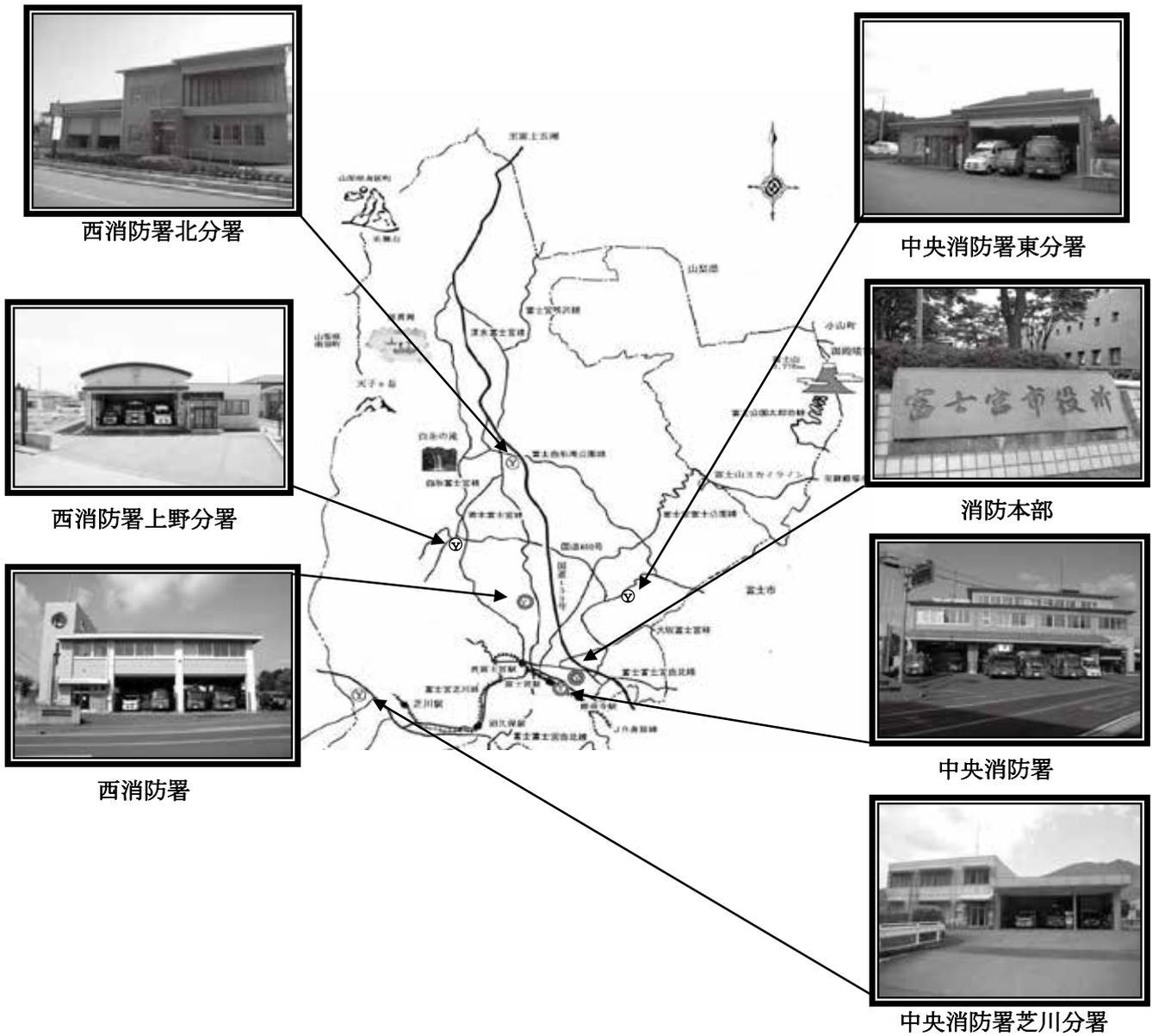
富 士 宮 市			
形状	東西 20.92km	南北 32.63km	
海拔	最高 3,776m	最低 35m	

面積・人口・世帯数

令和7年4月1日現在

面 積	人 口			世帯数
	男	女	合計	
389.08km ²	62,849人	63,500人	126,349人	59,460世帯

消防本部・署（分署）の配置



種別	名称	富士宮市役所 (消防本部)	中央消防署	西消防署	芝川分署	北分署	東分署	上野分署
所在地		弓沢町150	源道寺町5-1	宮原1-22	長貫756-1	上井出2256	栗倉334-1	下条140-3
敷地面積		18,836.03 m ²	1,541.65 m ²	1,840.25 m ²	3,046.73 m ²	5,996.08 m ²	2,322.43 m ²	1,511.99 m ²
建築面積		4,937.71 m ²	729.63 m ²	439.85 m ²	349.02 m ²	495.24 m ²	293.81 m ²	321.99 m ²
延べ面積		21,014.11 m ² (内 459.58 m ²)	1,606.78 m ²	724.22 m ²	503.27 m ²	650.47 m ²	293.37 m ²	340.27 m ²
建築年月日		H 3.11.1	H12. 5.20	H 7. 2.27	H 3. 3.28	H28.3.11	H 9. 2.28	H16. 3.31
電話		0544-22-1198	0544-26-5119	0544-27-0019	0544-65-1219	0544-54-1771	0544-22-8880	0544-59-1119

概要
 総務
 火災
 予防
 警防
 通信・指令
 救助
 救急
 応援協定
 消防団
 防火協力団体

富士宮消防の沿革

富士宮市の消防の発祥は、明治8年8月に初音町（元城町）から出火し、神田町（大宮町）・仲宿（中央町）・連尺（東町）・青柳（東町）・伝馬町（東町）の330戸を焼失する大火があり、つづいて同年9月にも新立町（西町）から出火、西町の250戸を焼失し大きな損害を出しました。このことにより住民自ら無防備の非を深く反省し、防火消防団体の必要性を痛感し、当時の神田川東の魚屋業者が「酔狂連同盟社」という消防組を結成して活動を開始しました。これが富士宮市消防のはじまりとされております。

明治 9年 9月	神田川東の魚屋業者が消防組「酔狂連同盟社」を結成する。
明治13年	西町の魚屋業者が「魚屋連中非常隊」を結成する。
明治15年 3月	阿幸地・源道寺の住民が合同して「阿源組」を結成する。
明治15年 4月	西町「魚屋連中非常隊」が「神立組」に改称、組員31名。
明治15年10月	ドイツ製腕用ポンプを2台購入。
明治18年	東町「酔狂連同盟社」が「巴組」と改称。
明治27年 2月 9日	勅令第15号消防組規則をもって当時の消防組制度を変更する。「巴組」を「大宮町消防組第1部」「神立組」を同じく「第2部」に改称。
明治38年 3月	「阿源組」を「第3部」として編入、総員150名。
大正 3年	富士郡北部6ヶ町村が士気高揚と防火心の普及のため大演習を実施する。
大正 5年 1月13日	大宮町消防組に当時第一の名誉とされていた「金馬廉」一条を授与される。
大正 9年10月	大阪森田ポンプ会社から4千円を投じて、20馬力手挽ガソリンポンプ3台を購入し、大宮町消防組第1部・第2部・第3部に配置。
大正14年 6月25日	大宮町消防組を6部制とし、組頭以下246名。
大正15年 5月 1日	再度、金馬廉授与の栄誉を受ける。
昭和 3年 5月 5日	自動車ポンプ「チャンドラ号」100馬力を購入、第1部に配置。
昭和 7年 4月21日	大宮町が大火になり、常備消防の必要性を痛感し、夜間常備班を仲宿（中央町）に設置、編成は2部制とし、各部21名が交互に勤務する。
昭和 7年 6月20日	自動車ポンプ、フォード24馬力を購入、第2部に設置。
昭和11年 8月20日	本町第2部消防組詰所に常備消防員10名をおき、5名ずつ昼夜24時間交代の隔日勤務制となる。
昭和12年 4月 5日	防護団令が公布され、全国の市町村に防護団が新設される。
昭和14年 1月24日	勅令第20号をもって警防団令が發布される。
昭和14年 4月 1日	大宮町消防組を解散し、「大宮町警防団」を設置。その組織は本部及び11個分団、定員495名、翌15年505名に増員。
昭和15年11月	自動車ポンプ、シボレー100馬力を購入。
昭和17年 6月 1日	大宮町と富丘村が合併して市制を施行し「富士宮市警防団」となる。
昭和18年10月	富士急行（当時富士山麓バス会社）から乗用車フォード80馬力を購入、市原ポンプで、消防ポンプに艀装して運用開始。
昭和22年11月 1日	「富士宮市消防団」と改称。
昭和22年12月23日	消防組織法の公布により、自治体消防発足。
昭和25年11月 1日	富士宮市消防本部（署）の発足、署長以下23名。 水槽付消防車いすゞ80馬力を購入。
昭和30年 4月 1日	富士宮市と富士根村が合併。
昭和32年12月26日	可搬ポンプ積載消防車いすゞ130馬力を購入。
昭和33年 4月 1日	北山・上野・上井出・白糸の4ヶ村が富士宮市と合併、分団数36。
昭和34年 3月30日	災害現場連絡用として、消防用短波無線（基地局・移動局各1）を購入。
昭和34年 5月22日	日本損害保険協会から、普通消防車、ニッサン105馬力が寄贈され、のち水槽車に改造。
昭和35年 6月	消防団の分団を一部統合させ、22個分団、定員675名。
昭和37年 3月10日	大宮45の10に鉄筋コンクリート3階建て、総面積518㎡の消防庁舎を建設する。

昭和39年 8月	危険物火災に対処するため、化学消火装置2基、薬液200ℓ、その他小型消火器10基を購入。
昭和39年 9月	普通消防車ニッサン130馬力、中型車を購入。
昭和39年12月	消防本部に、庶務・消防・予防の3係の日勤5名をおく。
昭和42年 3月20日	富士宮市危険物安全協会から、ホンダ125ccの赤バイが寄贈された。
昭和42年11月 1日	救急業務を開始する。
昭和43年 2月 8日	救急第1号車、トヨタ125馬力を購入。
昭和43年 3月20日	光町16番5号に鉄筋コンクリート2階建て、総面積400㎡の消防庁舎、消防署西出張所を建設する。
昭和44年11月 7日	可搬動力ポンプ、ラビット30馬力を購入、第7号車に積載。
昭和44年11月24日	化学消防車（消火薬液300ℓ、水1,000ℓ積載）いすゞ145馬力を購入。
昭和45年 6月	消防団22個分団、定数655名。
昭和45年 6月17日	指揮連絡車、ジープJ30型車を購入。
昭和45年 7月 6日	富士宮市・富士市・御殿場市・裾野町の3市1町が「表富士周遊道路における消防相互応援に関する協定」を締結。
昭和45年 7月 6日	上野地区から救急車寄贈。救急第2号車として西出張所に配置。
昭和46年 7月29日	自動車ポンプいすゞ140馬力を購入、消防署西出張所に配置。
昭和46年 9月 1日	富士宮市・富士市、「消防相互応援協定」を締結。
昭和48年 2月14日	水槽付消防ポンプいすゞ140馬力を購入、消防署西出張所に配置。
昭和48年 4月 1日	富士宮市芝川町消防組合設立。条例定数を92名とした。
昭和49年 2月12日	芝川出張所開設に伴いトヨタ1,900cc2B型救急車購入。
昭和49年 2月27日	芝川出張所開設に伴い消防ポンプ自動車ニッサン3,950ccを購入。
昭和49年 3月20日	署指令室増築、建面積 67.74㎡ 延面積 135.48㎡ 消防・救急指令装置完成、一斉指令庁内電話及び専用電話（119番）の集中管理開始。
昭和49年 4月30日	連絡車トヨタランドクルーザー3,870cc購入。
昭和49年 5月 1日	富士宮市芝川町消防組合消防署芝川出張所開設。
昭和49年 7月 1日	富士宮市芝川町消防組合消防本部に管理課・予防課を設置。
昭和50年 3月31日	救急車トヨタ1,990cc2B型購入、西出張所に配置。
昭和51年 3月 8日	署・車庫（梯子車用）増築97.5㎡ 梯子車35メートル級本署に配置。
昭和52年 3月 1日	救助訓練塔建設。
昭和52年 3月 4日	富士宮市芝川町消防組合消防本部・富士宮市消防団は、消防庁長官から竿頭綬を授与された。
昭和52年 3月31日	救急車トヨタ1,990cc2B型購入、本署に配置。
昭和52年 3月31日	赤バイ・スズキ125cc3台 後藤誠氏寄贈、本署および2出張所に配置。
昭和52年 4月 1日	通信指令室が通信統制室に改称。
昭和52年12月21日	予防連絡車、三菱ジープJ36型購入。
昭和53年 3月13日	水槽付消防ポンプ自動車（FK115F型）日本損害保険協会寄贈、本署に配置。
昭和53年 4月 1日	条例定数を107名とした。
昭和53年 6月 1日	同報無線遠隔制御機を通信統制室に設置。
昭和53年 8月 3日	広報車三菱ギャラン 東京海上火災寄贈、消防本部に設置。
昭和53年10月27日	富士宮市芝川町消防組合消防署北出張所開設。 救急車トヨタ1,960cc2B型 富士宮市芝川町消防組合消防署北出張所建設委員会寄贈、北出張所に配置。
昭和54年 3月28日	通信統制室に地図自動検索装置設置。
昭和55年 1月 9日	消防本部車庫（公用車用）新築、建築面積57.5㎡
昭和55年 2月28日	消防ポンプ自動車いすゞCD-I型購入、本署に配置。
昭和55年 3月14日	指令車ニッサンワゴン購入。

概要

総務

火災

予防

警防

通信・指令

救助

救急

応援協定

消防団

防火協力団体

昭和55年	4月	1日	条例定数を115名とした。	
昭和55年	4月	1日	消防団22個分団、定数650名。	
昭和55年	8月27日		連絡車トヨタコロナ 富士宮市芝川町危険物安全協会寄贈、消防本部に配置。	
昭和55年	9月	1日	消防本部の住所が町名整備によって、富士宮市田中町540番地に変更。	
昭和55年	12月	6日	化学消防ポンプ自動車1型日野FD171購入、本署に配置。	
昭和56年	3月26日		連絡車ダイハツハイゼットバン 携帯局1基 滝川公夫氏寄贈、消防本部に配置。	
昭和56年	4月	1日	通信統制室を廃室し、警防課を設置。	
昭和56年	4月	1日	条例定数を130名とした。	
昭和57年	2月	9日	消防本部事務室増築、34.402㎡	
昭和57年	4月22日		救急車ニッサンキャラバン1, 980cc2B型購入、西出張所に配置。	
昭和58年	12月13日		救助工作車日野FD172購入、本署に配置。	
昭和59年	1月12日		救急車ニッサンキャラバン2B型 芝川町から贈与、芝川出張所に配置。	
昭和59年	3月15日		消防署、望楼解体。	
昭和59年	3月29日		救急車トヨタハイエース2B型購入、本署に配置。	
昭和59年	11月20日		消防用気象観測装置を設置。	
昭和59年	12月12日		水槽付消防ポンプ自動車いすゞ購入、西出張所に配置。	
昭和60年	3月22日		消防ポンプ自動車いすゞCD-I型 芝川町から贈与、芝川出張所に配置。	
昭和60年	6月29日		トラック三菱キャンター購入、消防本部に配置。	
昭和60年	11月26日		防火広報車ニッサンキャラバン、日本防火協会寄贈、消防本部に配置。	
昭和61年	2月	7日	救急車ニッサンキャラバン2B型、日本自動車工業会寄贈。北出張所に配置。	
昭和61年	2月27日		連絡車三菱軽四3台購入、各出張所に配置。	
昭和61年	3月	8日	複信用無線機(救急波)設置、基地局1基、移動局4基。	
昭和62年	2月26日		梯子車の分解整備を実施。	
昭和62年	3月30日		赤バイ・スズキ400cc 2台購入、西出張所、芝川出張所に配置。	
昭和62年	3月31日		広報車三菱パジェロ購入、消防本部に配置。	
昭和62年	4月	1日	静岡県消防相互応援協定を締結。条例定数を138名とした。	
昭和62年	8月18日		指令車トヨタクラウン購入、消防本部に配置。	
昭和62年	9月	7日	火災発生時の電話照会に対するため、テレホンサービス(5回線)を導入。	
			昭和63年9月1日、日本損害保険協会から、水槽付消防ポンプ自動車(P-FK417F)が寄贈され、本署に配置。	
平成	元年	2月23日	連絡車トヨタカローラ購入、消防本部に配置。	
平成	元年	12月18日	救急車トヨタ2B型購入、西出張所に配置。	
平成	2年	3月	8日	富士宮市芝川町消防組合消防本部・富士宮市消防団は、消防庁長官から表彰旗を授与された。
平成	2年	8月24日	連絡車スバルを購入、本署に配置。	
平成	3年	2月20日	水槽付消防ポンプ自動車いすゞFRR32購入、北出張所に配置。	
平成	3年	3月28日	芝川出張所(延462.85㎡)が芝川町長貫756-1に移転。	
平成	3年	4月	1日	広報車トヨタスターレット 遠藤好子氏寄贈、消防本部に配置。
平成	3年	11月	1日	消防本部、市役所新庁舎に移転、業務開始。
平成	4年	3月25日	警防課指令係 消防緊急通信指令施設完成、業務開始。	
平成	5年	2月16日	救急3号車、ニッサン2B型購入、芝川出張所に配置。	
平成	5年	2月20日	大型水槽車、10,000ℓいすゞ93購入、消防署に配置。	
平成	5年	4月	1日	定数条例を160名とした。
			当直司令を廃止し副署長に、当直主任を廃止し係長とする。	
			主査制度を開始。完全週休二日制を開始。	
			高度救急処置用資器材(9項目)一式を購入。(消防署救急車に積載)	
			大型救助用器具一式を購入。	
平成	5年	10月24日	消防組合発足20周年記念フェスティバルを開催。	

平成 7年 3月 16日	消防署西出張所を光町16番5号から宮原1番地の22へ移転、消防業務開始。(鉄筋コンクリート2階建て 延面積577.2㎡)
平成 7年 3月 10日	高度救急処置用資器材(9項目)一式を購入。(西出張所及び芝川出張所救急車に積載)
平成 7年 4月 1日	主幹制度を開始。
平成 8年 1月 23日	消防ポンプ自動車いすゞ(CD-II)購入。〔更新〕 西出張所に配置。「大型救助用器具積載車」
平成 8年 1月 31日	高規格救急車(トヨタ)を購入。消防署に配置。
平成 8年 12月 20日	地震対策救助資器材(大型救助用器具)一式購入。
平成 9年 3月 6日	化学消防ポンプ自動車I型購入。〔更新〕
平成 9年 4月 1日	組織機構改革により二署制を導入し、従来の消防署本署を中央消防署とし、西出張所を西消防署とした。また、出張所の名称を分署に改めた。
平成 9年 4月 1日	富士宮市芝川町消防組合中央消防署東分署開設。 分署長以下13名。水槽付消防ポンプ自動車・救急車ニッサン2B型(財団法人日本消防協会から寄贈)・連絡車を配置。
平成 9年 12月 10日	救急車(2B型)を購入(更新)西消防署に配置。
平成 9年 12月 11日	水槽付消防ポンプ自動車(I-B型)を購入(更新)西消防署に配置。
平成 10年 2月 27日	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入(更新)中央消防署芝川分署に配置。
平成 11年 10月 20日	地震対策用50ccバイク7台を各署々に配置。
平成 11年 12月 22日	高規格救急車(ニッサン)を購入(更新)西消防署に配置。
平成 12年 4月 1日	組織機構改革により警防課指令係を警防課情報指令室と改めた。
平成 12年 6月 20日	中央消防署を田中町540番地から源道寺町5番地の1へ移転。 (鉄筋コンクリート3階建て延面積1,606.78㎡)
平成 12年 7月 10日	山岳救助隊を発足(隊員7名)。
平成 13年 3月 19日	救助工作車(II型)を購入(更新)中央消防署に配置。
平成 14年 7月 12日	指揮車(ニッサン・ADバン)を購入、西消防署に配置。
平成 15年 1月 30日	高規格救急車(ニッサン)を購入(更新)中央消防署芝川分署に配置。
平成 15年 4月 1日	条例定数を161名とした。
平成 16年 3月 8日	連絡車スバルS4WD購入、北分署に配置。
平成 16年 3月 31日	日本消防協会から指揮車が寄贈され消防本部に配置。
平成 16年 3月 31日	西消防署上野分署落成式。
平成 16年 4月 1日	条例定数を163名とした。
平成 16年 4月 1日	富士宮市芝川町消防組合西消防署上野分署開設。 分署長以下13名。水槽付消防ポンプ自動車・救急車トヨタ2B型・連絡車を配置。
平成 17年 1月 7日	梯子車(30m級)を購入(更新)中央消防署に配置。
平成 17年 1月 14日	救急車(2B型)を購入(更新)中央消防署東分署に配置。
平成 17年 12月 22日	高規格救急車を購入(更新)中央消防署に配置。
平成 18年 12月 25日	指揮車を購入(更新)中央消防署に配置。
平成 19年 4月 1日	条例定数を167名とした。
平成 20年 2月 18日	北分署水槽付消防ポンプ自動車(I-B型)を更新。
平成 20年 8月 22日	査察車を購入(更新)、消防本部に配置。
平成 21年 11月 18日	高規格救急車を購入(更新)西消防署に配置。
平成 22年 2月 5日	J A共済静岡県本部から高規格救急車2台が寄贈され西消防署及び北分署に配置。
平成 22年 3月 22日	富士宮市芝川町消防組合を解散。
平成 22年 3月 23日	富士宮市と芝川町の合併により富士宮市消防本部とした。
平成 22年 3月 23日	条例定数を163名とした。
平成 22年 3月 23日	富士宮市と芝川町の合併により富士宮市消防団は28個分団、定員810名。
平成 23年 3月 11日	東日本大震災に緊急消防援助隊静岡県隊として救急部隊・後方支援部隊、計

概要

総務

火災

予防

警防

通信・指令

救助

救急

応援協定

消防団

防火協力団体

24名を派遣。

平成23年	3月16日	大型水槽車(Ⅱ型)を購入(更新)、西消防署に配置。
平成23年	12月1日	資機材搬送車を購入、中央消防署に配置。
平成24年	2月2日	指令車を購入(更新)、消防本部に配置。
平成24年	3月8日	広報車を購入(更新)、消防本部に配置。
平成24年	4月1日	消防本部管理課を消防本部消防総務課と課名変更した。
平成24年	4月6日	富士宮市防火安全協会から寄贈。消防本部に査察車を配置。
平成24年	7月13日	富士市及び富士宮市消防救急広域化協議会設立。
平成25年	3月26日	水槽付消防ポンプ自動車(Ⅰ-B型)を購入(更新)、中央消防署に配置。
平成25年	4月1日	条例定数を168名とした。
平成26年	1月28日	高規格救急車を購入(更新)中央消防署に配置。
平成26年	3月14日	西消防署仮眠室及び女性対応施設増築。
平成26年	4月1日	富士市・富士宮市消防通信指令事務協議会設立。
平成27年	2月18日	水槽付消防ポンプ自動車(Ⅰ-B型)を購入(更新)、西消防署に配置。
平成27年	2月20日	水槽付消防ポンプ自動車(CD-Ⅰ型)を購入(更新)、中央消防署芝川分署に配置。
平成27年	4月1日	条例定数を175名とした。
平成27年	9月8日	情報指令室を弓沢町150から富士市・富士宮市消防指令センター(富士市永田町1丁目100 富士市消防防災庁舎5階)へ移転、回線切り替え及び無線のデジタル化移行。(平成27年9月10日運用開始)
平成28年	1月20日	高規格救急車を購入(更新)、中央消防署芝川分署に配置。
平成28年	2月17日	水槽付消防ポンプ自動車(Ⅰ-B型)を購入(更新)、中央消防署東分署に配置。
平成28年	3月24日	西消防署北分署を上井出890番地の1から上井出2256番地へ移転、訓練塔及び臨時ヘリポート設置。 (鉄筋コンクリート2階建て 延面積650.47㎡)
平成29年	2月27日	救助工作車Ⅲ型を購入(増強)、中央消防署に配置。
平成29年	3月21日	指揮車を購入(更新)、中央消防署に配置。
平成30年	2月8日	団指揮広報車を購入(更新)、消防本部に配置。
平成30年	3月16日	水槽付消防ポンプ自動車(CD-Ⅰ型)を購入(更新)、西消防署上野分署に配置。
平成30年	3月26日	高規格救急車を購入(更新)、西消防署に配置。
平成31年	2月19日	化学消防ポンプ自動車Ⅱ型を購入(更新)、西消防署に配置。
平成31年	2月25日	一般社団法人日本損害保険協会から高規格救急車が寄贈され、西消防署上野分署に配置。
平成31年	3月22日	高規格救急車を購入(更新)、中央消防署東分署に配置。
令和3年	3月1日	指揮車を購入(更新)、消防本部に配置。
令和3年	7月3日	熱海市伊豆山で発生した土石流災害に静岡県消防相互応援協定に基づき、延べ208人(消火小隊145人・後方支援隊63人)の隊員を派遣する。
令和4年	2月24日	高規格救急車を購入(更新)、西消防署北分署に配置。
令和5年	3月17日	高規格救急車を購入(更新)、中央消防署に配置。
令和5年	4月1日	条例定数を178名とした。
令和5年	8月28日	消防ポンプ付救助工作車を購入(更新)、西消防署北分署に配置。
令和6年	1月1日	令和6年能登半島地震に、緊急消防援助隊静岡県隊として、消火隊・後方支援部隊、計48名を派遣。
令和6年	2月9日	連絡車スズキエブリイを購入、中央消防署芝川分署に配置。
令和6年	3月18日	高規格救急車を購入(更新)、中央消防署芝川分署に配置。
令和6年	5月11日	白糸自然公園内に「宮っこ!消防わんぱく」が開設。
令和6年	11月6日	支援車Ⅲ型を購入(新規)、西消防署北分署に配置。

主 な 災 害 歴

明治 8年 8月	初音町（元城町）から出火し、神田町（大宮町）・仲宿（中央町）・連尺（東町）・青柳（東町）・伝馬町（東町）の330戸を焼失。
明治 8年 9月11日	新立町（西町）から出火し、250戸を焼失。
明治 9年11月	山道（元城町）から出火し、12戸を焼失。
明治13年 1月	神田町（大宮町）から出火し、12戸を焼失。
明治14年11月	西新町（宮町）から出火し、西町地区の大半を焼失。
大正 9年 1月23日	初音町（元城町）から出火し、196戸を焼失。
昭和 5年 2月10日	野中（現第9分団詰所付近）から出火し、50戸を焼失。なお、強風により星山部落に飛火して1戸を焼失。
昭和 7年 4月21日	「大宮町の大火」 栄町（大宮町）から出火し、神田川以東の1,102戸全焼、罹災者4,914名、死傷者4名、負傷者98名。
昭和 9年10月27日	貴船町から出火し、38戸延べ3,712㎡を焼失。
昭和26年 4月25日	淀師中村から出火し、12戸を焼失。
昭和30年 2月23日	阿幸地地先から出火し、8戸延べ1,307㎡を焼失。
昭和31年 2月22日	錦町の市立富士宮病院から出火し、延べ1,518㎡を焼失。
昭和40年 1月15日	松山町（西町）から出火し、8戸延べ1,114㎡を焼失。
昭和41年 9月25日	台風26号によって瞬間最大風速50mを記録し重軽傷者41名、住家全壊66戸、半壊2000戸の被害を受けた。
昭和47年 7月12日	梅雨前線の影響から集中豪雨が襲い、堤防決壊17ヶ所、橋梁流出11ヶ所、床下浸水363戸等の被害を受け、上井出地先の老人ホームに老人33名が取り残された。
昭和51年 9月 8日	台風17号によって河川等決壊21箇所、井之頭中学校、民家等の床上浸水30戸の被害を受けた。
昭和53年 1月 5日	貴船町から出火し、8戸延べ745㎡を焼失。
昭和53年 7月16日	富士宮市立富士宮第一中学校校舎等5棟2,490㎡を焼失。
昭和55年12月 4日	大中里地先から出火し、8戸延べ706㎡を焼失。
平成 3年 6月15日	国道139号線バイパスで大型トレーラーが暴走。車両7台が焼失、死者8名。
平成 8年 3月 6日	元城町地先から出火し、11戸延べ504㎡を焼失。
平成15年 3月 9日	大中里地先から出火し、9戸延べ279㎡を焼失。
平成15年 6月23日	大中里地先で不法に保管されていた産業廃棄物入りのドラム缶、約600本から硫酸ピッチ2,000lが漏洩、高濃度の亜硫酸ガスが発生した。
平成16年 7月30日	淀師、淀平町、大宮町地内で連続して不審火火災が5件発生。（淀平町、大宮町の火災は放火犯が逮捕された。）
平成21年 8月11日	駿河湾を震源とするM6.5の地震が発生し、市内で震度5強を観測した。
平成23年 3月15日	静岡県東部を震源とするM6.4の地震が発生し、市内で震度6強を観測し、軽症17名、一部損壊549棟。
平成27年 4月17日	国道52号線で危険物1万8千リットルを積載したタンクローリーが転覆。車両に積載していた灯油が漏れだし、境川に流出した。

概
要

総
務

火
災

予
防

警
防

通
信・指
令

救
助

救
急

応
援協
定

消
防団

防
火協
力団
体

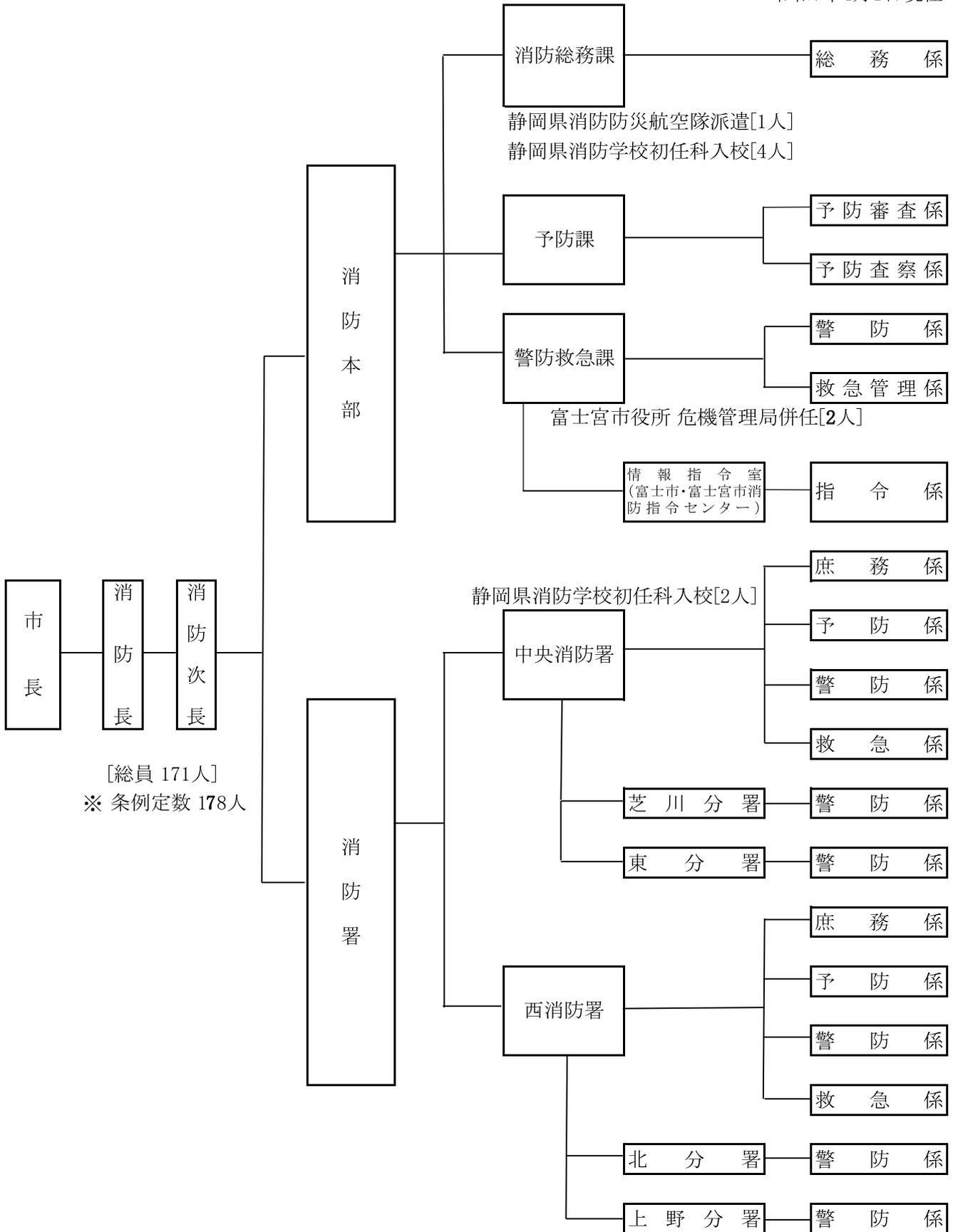
総務



支援車Ⅲ型（令和6年11月配備）

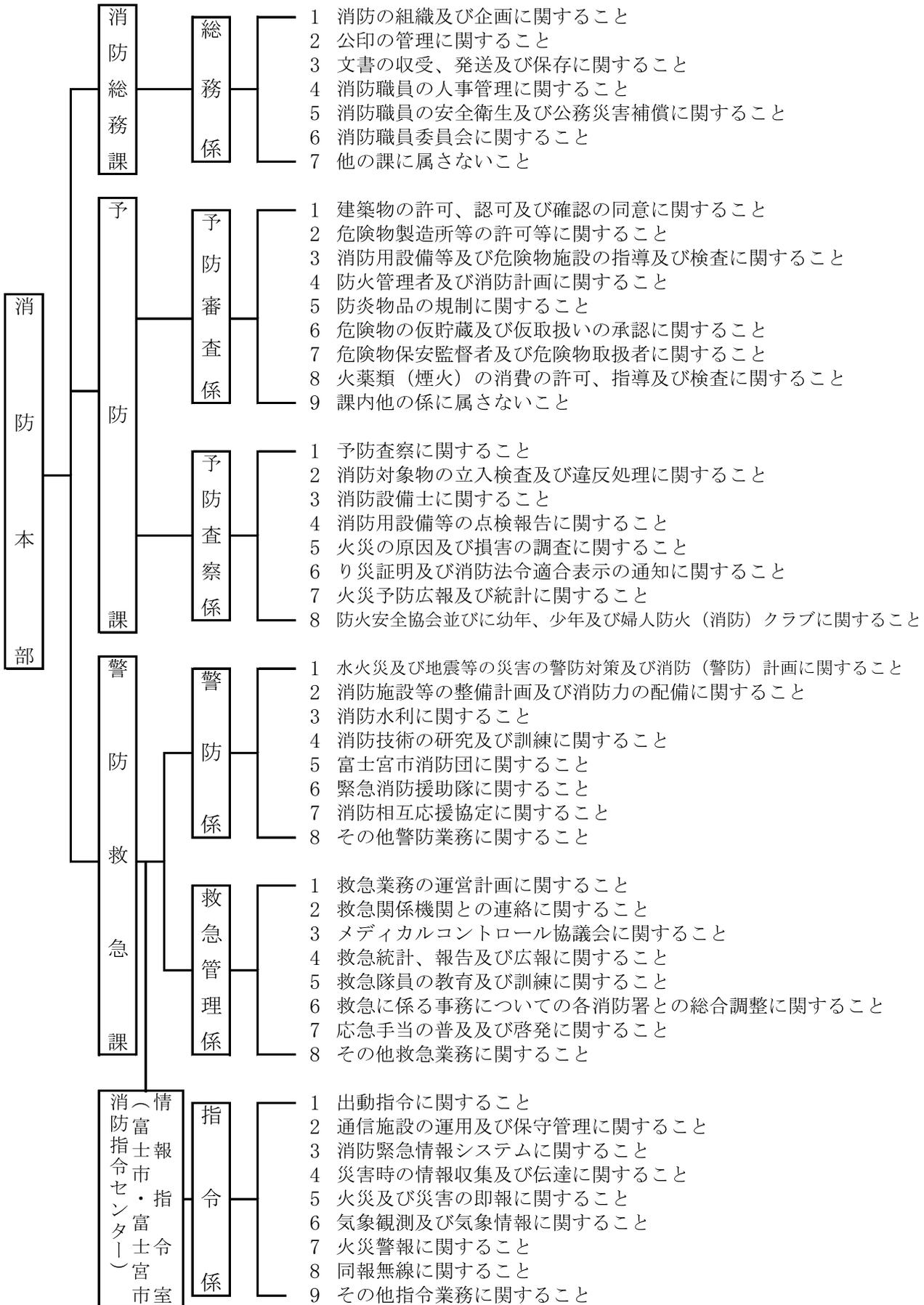
富士宮市消防本部組織機構図

令和7年4月1日現在

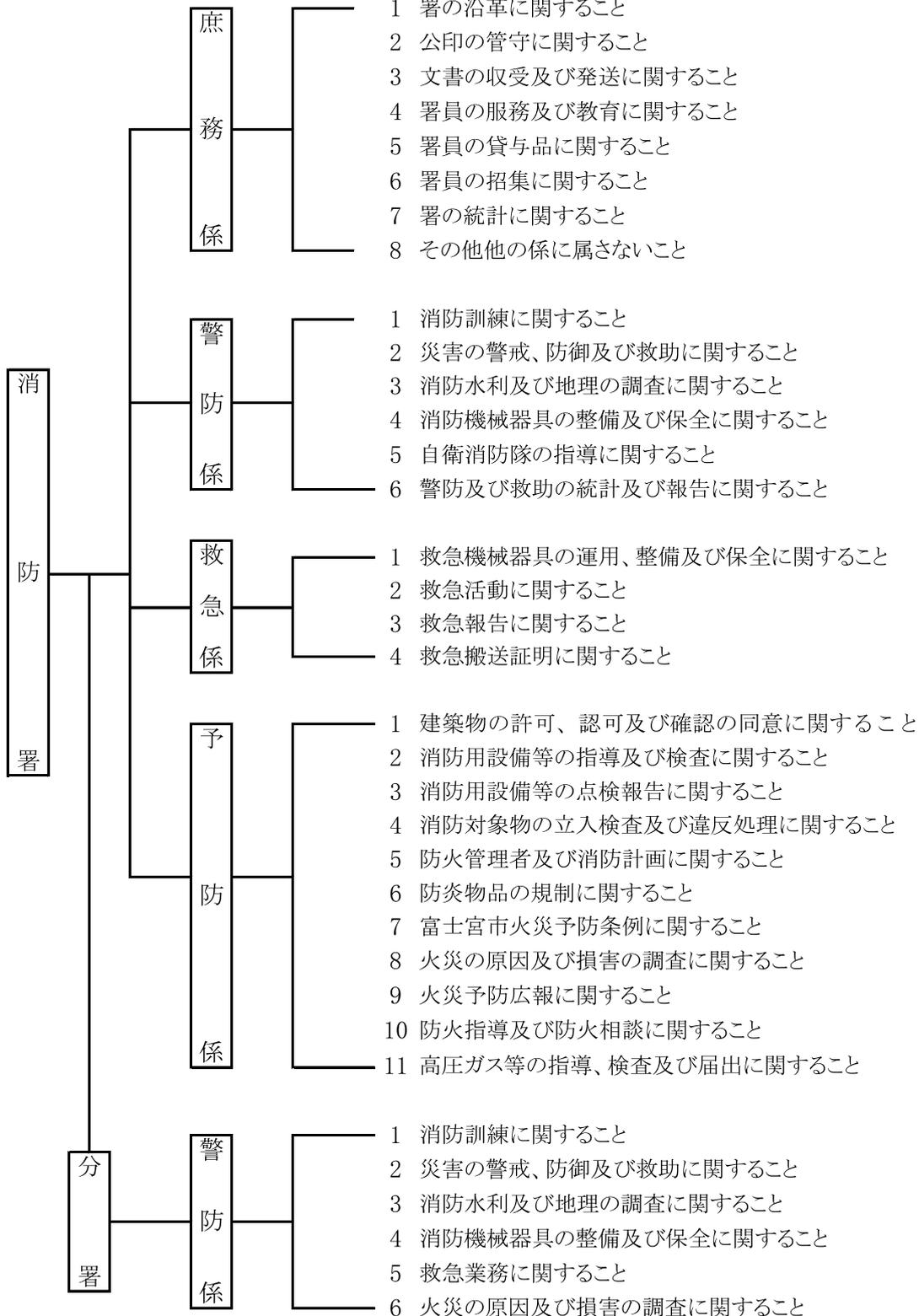


概要
総務
火災
予防
警防
通信・指令
救助
救急
応援協定
消防団
防火協力団体

消防本部事務分掌



消防署事務分掌



概要

総務

火災

予防

警防

通信・指令

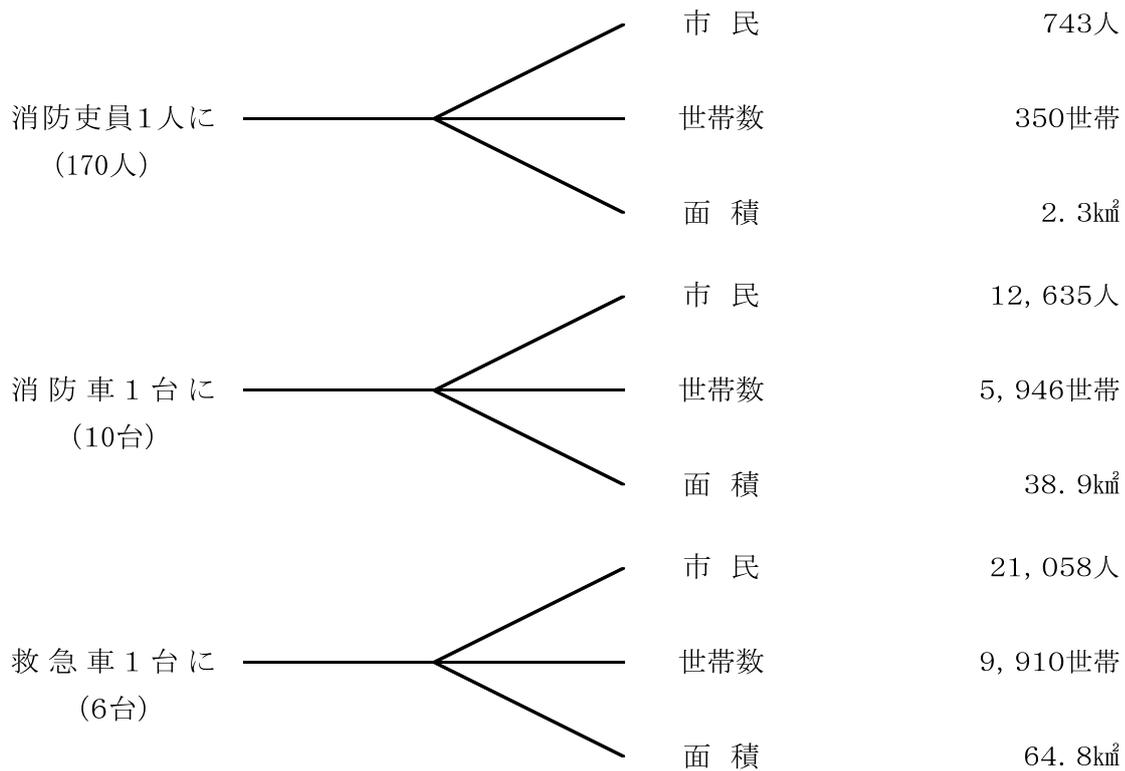
救助

救急

応援協定

消防団

防火協力団体



歴代消防長

代	氏名	在任期間	備考	代	氏名	在任期間	備考
初代 ~ 2代	小室 鶴松	自 S25.11.1 至 S30.3.31	市長兼務	17代	四條 洋成	自 H8.4.1 至 H16.3.31	
3代	上杉増太郎	自 S30.5.1 至 S33.11.14	市長兼務	18代	齋藤 吉董	自 H16.4.1 至 H19.3.31	
4代	渡辺 定信	自 S33.12.21 至 S35.2.6	市長兼務	19代	渡邊 喜哉	自 H19.4.1 至 H20.3.31	
5代	道岡 三郎	自 S35.2.7 至 S35.11.1	助役兼務	20代	佐野 裕克	自 H20.4.1 至 H22.3.31	
6代 ~ 8代	山川 斌	自 S35.11.2 至 S47.3.19	市長兼務	21代	渡辺 栄	自 H22.4.1 至 H23.3.31	
9代	植松 義忠	自 S47.3.20 至 S48.3.31	市長兼務	22代	小倉 辰彦	自 H23.4.1 至 H25.3.31	
10代	深沢 文男	自 S48.4.1 至 S48.6.30	助役兼務	23代	佐野 則男	自 H25.4.1 至 H27.3.31	
11代	山本 晃	自 S48.7.1 至 S50.3.31		24代	望月 正三	自 H27.4.1 至 H30.3.31	
12代	佐野 三郎	自 S50.4.1 至 S53.3.31		25代	蛭川 公雄	自 H30.4.1 至 R3.3.31	
13代	石川 嘉浩	自 S53.4.1 至 S59.3.31		26代	吉田 昌弘	自 R3.4.1 至 R4.3.31	
14代	佐野 久	自 S59.4.1 至 S61.3.31		27代	鈴木 英之	自 R4.4.1 至 R6.3.31	
15代	佐野 和彦	自 S61.4.1 至 H3.3.31		28代	菅原 一朗	自 R6.4.1 至 現在	
16代	八橋 俊顕	自 H3.4.1 至 H8.3.31					

消防職員の階級別構成

令和7年4月1日現在

階 級 所 属		合 計	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	そ の 他	
											職 員 合 計
消 防 長		1	1								
消 防 次 長		1		1							
消 防 本 部	消 防 総 務 課	課 長	1	1							
		総 務 係	5		1	1	3				
		課 付・研 修	5			1			4		
	予 防 課	課 長	1		1						
		予 防 審 査 係	4		1	1	1			1	
		予 防 査 察 係	5		1	1	1 [1]	2			
	警 防 救 急 課	課 長	(1)		(1)						
		参 事	1		1						
		警 防 係	7		1	1	5 [1]				
		救 急 管 理 係	3		1	1	1 [1]				
	セ ン タ ー 副 セ ン タ ー 長 指 令 係	副 セ ン タ ー 長	(1)		(1)						
		指 令 係	7		2	2	3 [1]				
	計		41	1	4(2)	7	8	14[4]	2	4	1
	中 央 消 防 署	中 央 消 防 署	41		1	9	7	8	12	4	
芝 川 分 署		13			2	4	4	2	1		
東 分 署		13			2	4	3	3	1		
計		67		1	13	15	15	17	6		
西 消 防 署	西 消 防 署	29		1	9	7	2	7 [1]	3		
	北 分 署	21			3	4	5	8	1		
	上 野 分 署	13			3	3	3	3	1		
	計	63		1	15	14	10	18[1]	5		

()は兼務 []は再任用 【 】は定年延長

概 要
総 務

火 災

予 防

警 防

通 信・指 令

救 助

救 急

応 援 協 定

消 防 団

防 火 協 力 団 体

階級別年齢

令和7年4月1日現在

平均年齢 年齢	人数	消防監	司令長	司令	司令補	消防士長	副士長	消防士	その他
	38.4	59.0	55.5	49.5	43.3	36.7	28.4	21.4	38.0
18	2							2	
19	1							1	
20	1							1	
21	3							3	
22	4							4	
23	2							2	
24	2						1	1	
25	3						2	1	
26	10						10		
27	5						5		
28	9						9		
29	3						3		
30	4						4		
31	8					6	2		
32	2					2			
33	4					4			
34	11					11			
35	8					8			
36	3				1	2			
37	3				3				
38	5				3	1			1
39	5				5				
40	6				5	1			
41	3			1	2				
42	3				3				
43	3			3					
44	6			3	3				
45	2			1	1				
46	0								
47	3			2	1				
48	2				2				
49	8			6	2				
50	5			4	1				
51	7		1	6					
52	3			2	1				
53	2			1	1				
54	4			2	2				
55	2		2						
56	3		1	2					
57	1		1						
58	2			1	1				
59	3	1	1	1					
60	0								
61	1 [1]					1 [1]			
62	4 [4]					3 [3]	1 [1]		
合計	171 [5]	1	6	35	37	39 [4]	37 [1]	15	1

[]は再任用 【 】は定年延長

階級別勤続年数

令和7年4月1日現在

平均年数 勤続年数	人数 17.7	消防監 41.0	司令長 35.5	司令 28.8	司令補 21.4	消防士長 15.9	副士長 8.3	消防士 1.9	その他 16.0
1年未満	4							4	
1	4							4	
2	5						3	2	
3	3						2	1	
4	4						2	2	
5	5						3	2	
6	4						4		
7	4						4		
8	3						3		
9	6					2	4		
10	9					4	5		
11	9					6	3		
12	4					1	3		
13	5					5			
14	9				3	6			
15	7				3	4			
16	8				3	4			1
17	5				2	3			
18	4				4				
19	5			1	4				
20	4			1	3				
21	3			2	1				
22	6			3	3				
23	1			1					
24	3			2	1				
25	0								
26	4			3	1				
27	0								
28	1				1				
29	5		1	2	2				
30	0								
31	14			11	3				
32	3			2	1				
33	2			2					
34	2			1	1				
35	2		1	1					
36	3		1	1	1				
37	2		2						
38	2 [1]			1		1 [1]			
39	1		1						
40	1 [1]					1 [1]			
41	2	1		1					
42	1 [1]					1 [1]			
43	1 [1]					1 [1]			
44	1 [1]						1 [1]		
合計	171 [5]	1	6	35	37	39 [4]	37 [1]	15	1

[]は再任用 【 】は定年延長

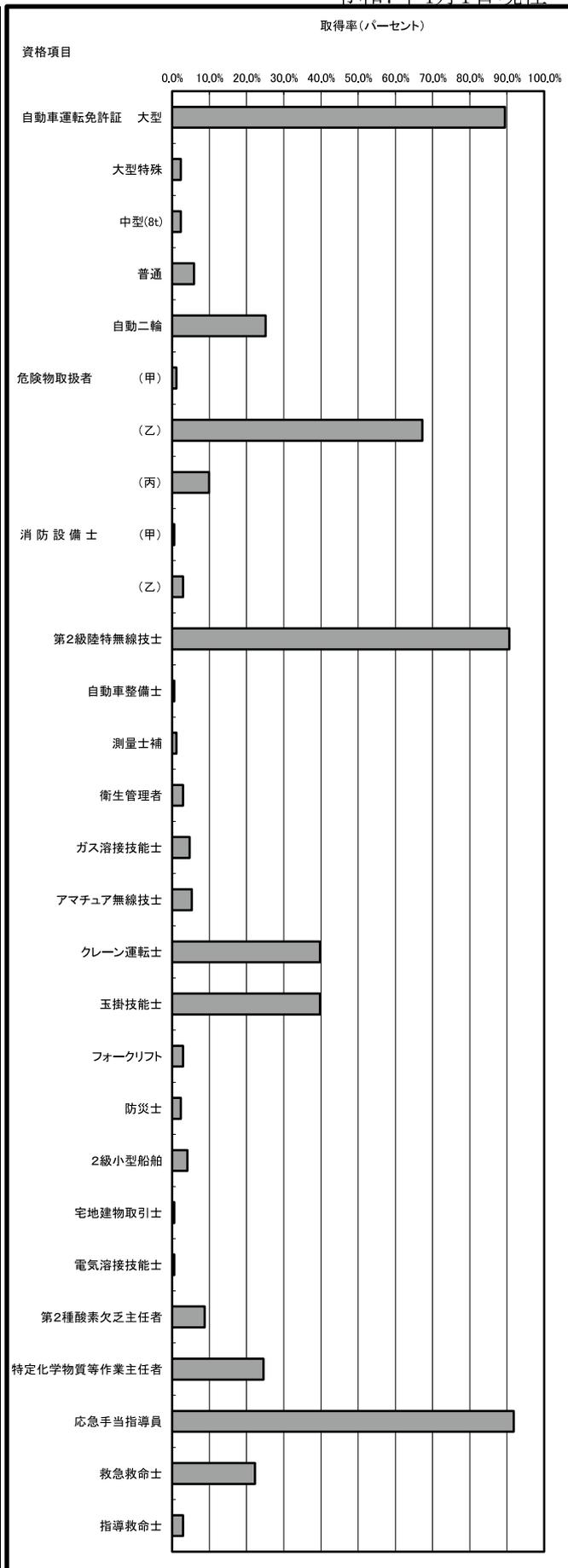
概要
総務
火災
予防
警防
通信・指令
救助
救急
応援協定
消防団
防火協力団体

消防職員各種免許取得状況

消防職員数 171 名

令和7年4月1日現在

資格	取得数・率	取得数	取得率
自動車運転免許証 大型	大型	153	89.5%
	大型特殊	4	2.3%
	中型(8t)	4	2.3%
	普通	10	5.8%
	自動二輪	43	25.1%
危険物取扱者	(甲)	2	1.2%
	(乙)	115	67.3%
	(丙)	17	9.9%
消防設備士	(甲)	1	0.6%
	(乙)	5	2.9%
第2級陸特無線技士		155	90.6%
自動車整備士		1	0.6%
測量士補		2	1.2%
衛生管理者		5	2.9%
ガス溶接技能士		8	4.7%
アマチュア無線技士		9	5.3%
クレーン運転士		68	39.8%
玉掛技能士		68	39.8%
フォークリフト		5	2.9%
防災士		4	2.3%
2級小型船舶		7	4.1%
宅地建物取引士		1	0.6%
電気溶接技能士		1	0.6%
第2種酸素欠乏主任者		15	8.8%
特定化学物質等作業主任者		42	24.6%
応急手当指導員		154	90.1%
救急救命士		38	22.2%
指導救命士		5	2.9%



職 員 研 修 状 況

静岡県消防学校

令和7年3月31日現在

科目別	年度別										合 計
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
初任科	10	6	3	5	4	5	5	3	3	4	48
水難救助科					2						2
救助科		2	2	2	1	2	2	2	1	2	16
予防査察科											0
警防科		2	2	2	2	2	2	2	1	1	16
火災調査科		3	3	2	2	2	2	2	1	2	19
危険物科											0
予防査察・危険物科		2	2	2	2	2	2	2	1	2	17
救急科	16	7	7	4	4	3	4	3	2	4	54
上級幹部科		1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
中級幹部科		1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
初級幹部科				1	1	1	1	1	1	1	7
ビデオ喉頭鏡講習	4	4	4	2							14
処置拡大追加講習	4	3	3	3	2						15

※平成28年度から予防査察科及び危険物科が予防査察・危険物科に統合

消防大学校及び救急救命研修所

令和7年3月31日現在

科目別	年度別										合 計
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
上級幹部科										1	1
幹部科		1	1	1							3
警防科											0
救助科							1				1
予防科	1	1						1			3
火災調査科			1		1						2
女性活躍推進コース				1							1
救急救命士養成課程	2	1	2	2	2	1			3	2	15
指導救命士			2		2					1	5
感染防止対策強化研修										1	1

受託研修等

令和7年3月31日現在

科目別	年度別										合 計
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
埼玉県南西部消防局			1	1	1				1	1	5
東京消防庁		1									1
山岳遭難救助研修	1				1			1	1		4
積雪期登山基礎講習会									1	1	2
緊急自動車安全運転研修		2	1	1	1						5

概要
総務

火災

予防

警防

通信・指令

救助

救急

応援協定

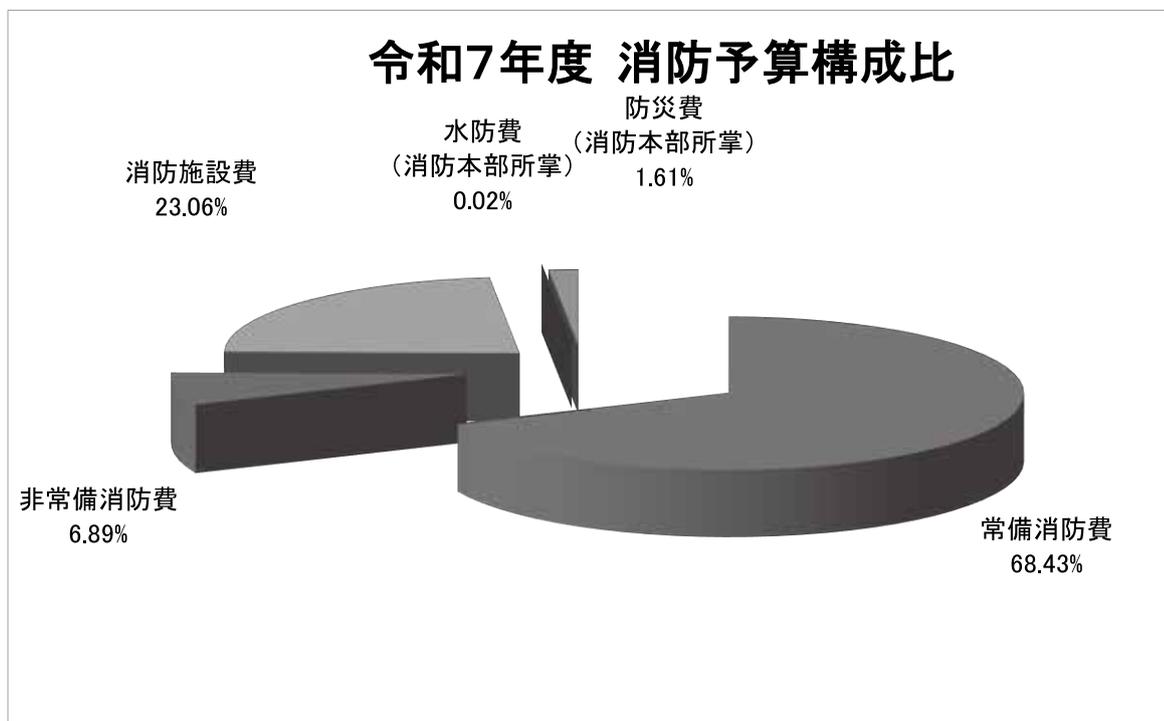
消防団

防火協力団体

年度別消防予算（当初）

単位 千円

	令和7年度	令和6年度	比較
市一般会計予算	58,470,000	52,700,000	5,770,000
消防予算	2,128,772	2,109,662	19,110
割合（%）	3.64%	4.00%	
目	令和7年度	令和6年度	比較
常備消防費	1,456,669	1,391,832	64,837
非常備消防費	146,635	134,420	12,215
消防施設費	490,834	543,848	△ 53,014
水防費 （消防本部所掌）	390	339	51
防災費 （消防本部所掌）	34,244	39,223	△ 4,979

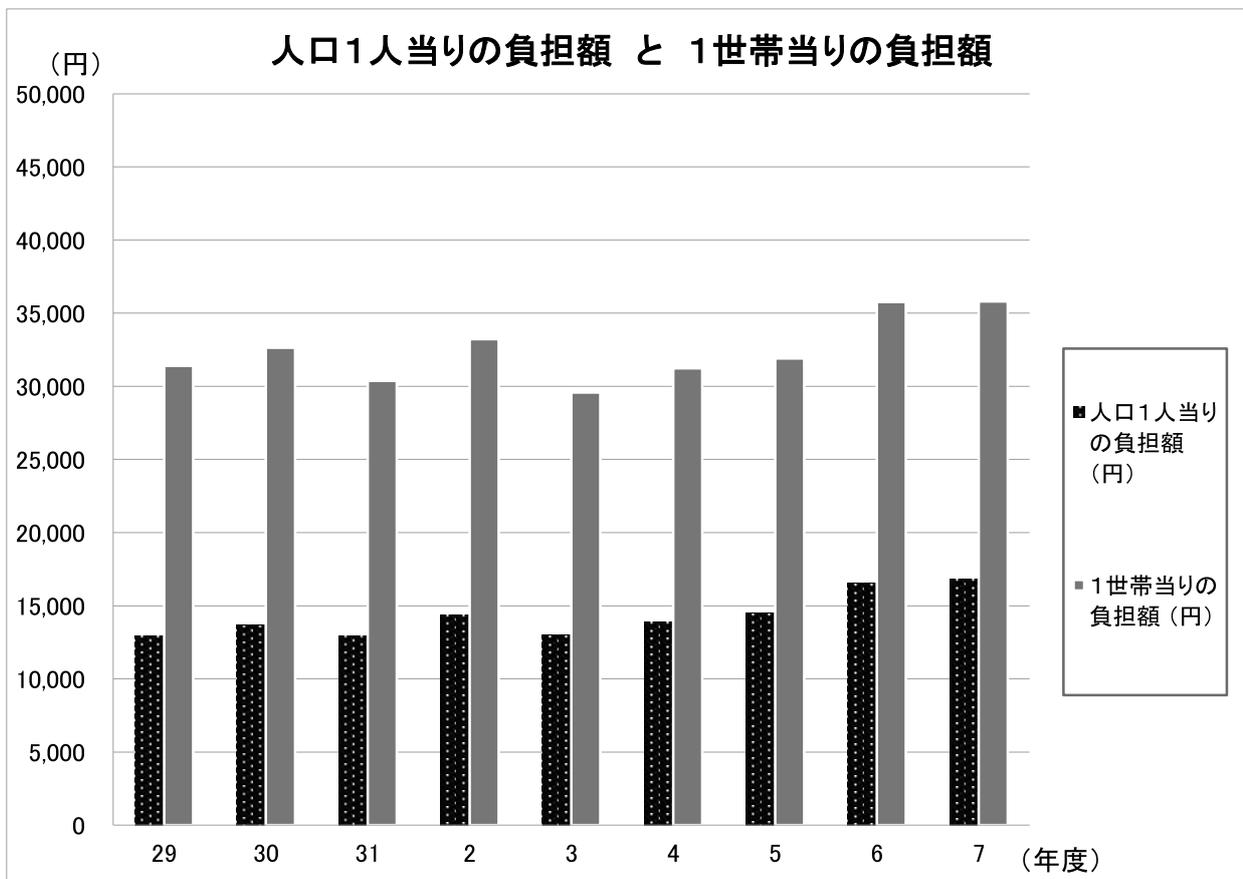


人口と当初予算の推移

各年度4月1日時点の人口及び世帯数

年度	人口 (人)	世帯数 (世帯数)	消防予算(当初) (千円)	人口1人当りの負担額	1世帯当りの負担額
				(円)	(円)
29	133,989	55,214	1,733,404	12,937	31,394
30	133,290	55,877	1,823,609	13,682	32,636
31	132,651	56,506	1,716,158	12,937	30,371
2	131,853	57,083	1,897,188	14,389	33,236
3	130,811	57,466	1,700,400	12,999	29,590
4	129,654	57,676	1,801,760	13,897	31,239
5	128,706	58,410	1,863,903	14,482	31,911
6	127,558	58,973	2,109,662	16,539	35,773
7	126,349	59,460	2,128,955	16,850	35,805

概要
総務
火災
予防
警防
通信・指令
救助
救急
応援協定
消防団
防火協力団体



火 災



令和6年度防火ポスターコンクール
中学生の部 金賞
富士宮市立富士根北中学校
3年 神戸 蒼空 さん

火災の概況

令和6年中（1月～12月）の火災概況は、火災件数46件、建物焼損床面積1105㎡、損害額89,675千円となり、死者2人、負傷者3人でした。

1 火災発生状況

令和6年中の火災件数は46件で、昨年と比較して3件減少しています。これは8日に1件の割合で火災が発生したことになります。

2 建物火災は全火災の61%

火災種別ごとの発生件数は、「建物火災」が28件（61%）で高い比率を占めています。その他は、「その他の火災」15件（32.6%）、「車両火災」3件（6.4%）となっています。

3 建物火災のうち住宅が14件（50%）

建物火災の出火件数を用途別にみると、住宅が14件（50%）を占めています。

建物火災28件中の出火箇所の構成比は、工場・作業場6件（21.4%）、店舗・事務所2件（7%）、介護施設1件（3.6%）、堆肥舎1件（3.6%）、カーポート1件（3.6%）、中学校1件（3.6%）物置1件（3.6%）、ガソリンスタンド1件（3.6%）となっています。

4 月別火災発生件数

月別火災発生件数は、12月が8件で最多となっており、以下各月ごと月別火災概要のとおりとなっています。

5 建物火災の通報は、「携帯電話」からの通報が多く、初期消火は「初期消火なし」が多い状況

火災の覚知状況をみると、建物火災では、携帯電話からの通報が16件（57.2%）、事後聞知が7件（25%）、固定電話からの通報が5件（17.8%）でした。

また、建物火災時における初期消火状況は、「初期消火なし」11件（39.3%）、「粉末消火器」8件（28.6%）、「水道等の水をかけた」6件（21.4%）、「その他」3件（10.7%）、となっています。

6 出火原因

主な出火原因は、「たき火」が8件、「配線器具」が5件、「電気機器」が3件、「電灯・電話等の配線」が3件です。

7 建物焼損面積

建物焼損床面積は1105㎡、焼損表面積は111㎡で、計50棟を焼損しました。

8 損害額

火災による損害額は、89,675千円で、前年の142,786千円より約37.2%減少しました。建物火災の損害額は86,618千円で、全体の損害額の96.6%を占めています。

概要

総務

火災

予防

警戒

通信・指令

救助

救急

応援協定

消防団

防火協力団体

火災の概要

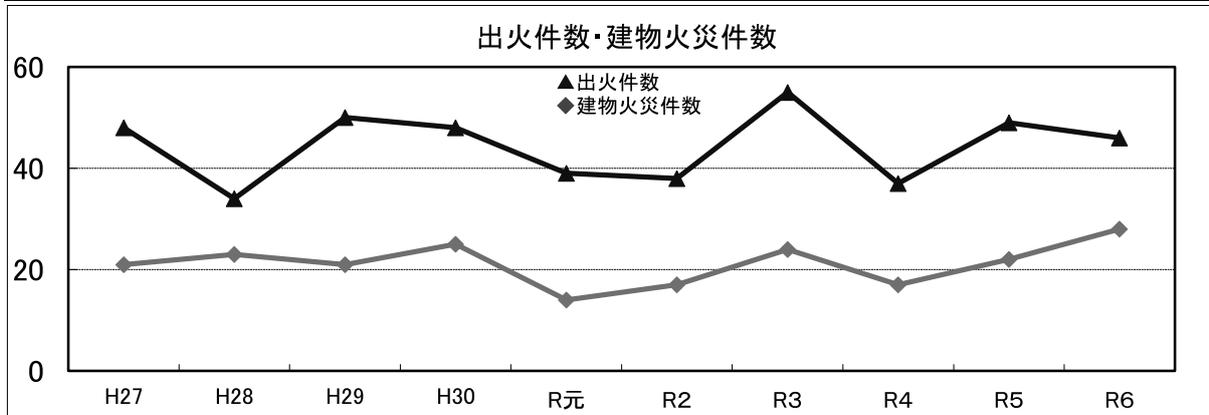
区 分	単位	(A)令和6年 (1月～12月)	(B)令和5年 (1月～12月)	(C)比較 (A)－(B)	増減率 C/B×100 (%)	
出 火 件 数	件	46	49	-3	-6.1	
種 別	建 物 火 災	〃	28	22	6	27.3
	林 野 火 災	〃	0	0	0	-
	車 両 火 災	〃	3	3	0	-
	船 舶 火 災	〃	0	0	0	-
	航 空 機 火 災	〃	0	0	0	-
	その他の火災	〃	15	24	-9	-37.5
焼 損 棟 数	棟	50	27	23	85.2	
焼 損 程 度	全 焼	〃	14	4	10	250.0
	半 焼	〃	2	2	0	-
	部 分 焼	〃	12	9	3	33.3
	ぼ や	〃	22	12	10	83.3
建物焼損面積	床 面 積	m ²	1,105	602	503	83.6
	表 面 積	m ²	111	45	66	146.7
林 野 焼 損 面 積	a	0	0	0	-	
死 者	人	2	2	0	-	
負 傷 者	〃	3	7	-4	-	
り 災 世 帯 数	世帯	22	9	13	144.4	
種 別	全 損	〃	6	1	5	500.0
	半 損	〃	0	1	-1	-
	小 損	〃	16	7	9	128.6
り 災 人 員	人	53	27	26	96.3	
損 害 額	千円	89,675	142,786	-53,111	-37.2	
種 別	建 物 火 災	〃	86,618	101,324	-14,706	-14.5
	林 野 火 災	〃	0	0	0	-
	車 両 火 災	〃	1,411	524	887	169.3
	船 舶 火 災	〃	0	0	0	-
	航 空 機 火 災	〃	0	0	0	-
	その他の火災	〃	1,646	40,938	-39,292	-96.0

過去10年間の火災発生状況

火災発生件数

(単位 件)

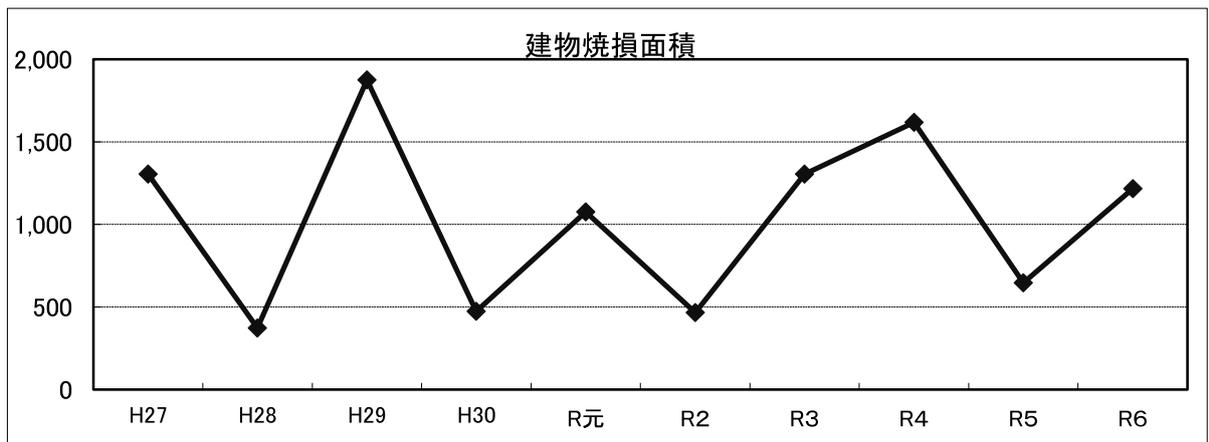
	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
出火件数	48	34	50	48	39	38	55	37	49	46
建物火災	21	23	21	25	14	17	24	17	22	28



建物焼損面積

(単位 m²)

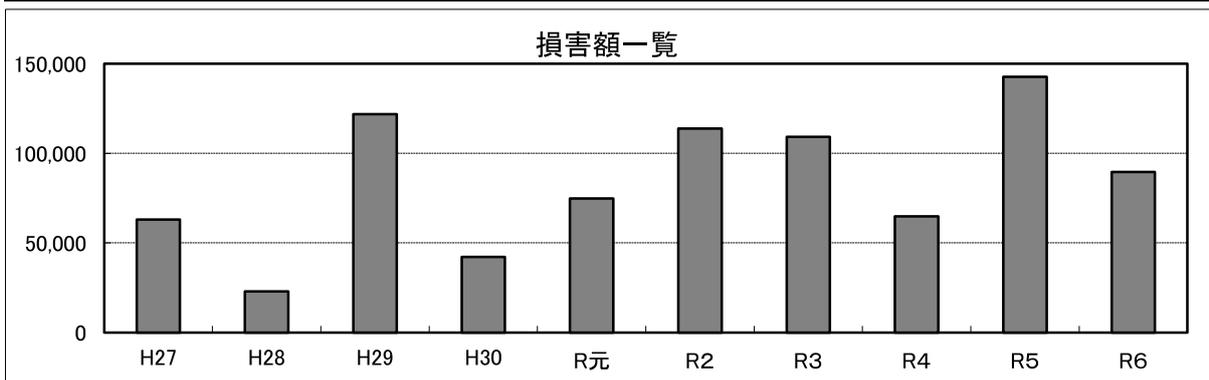
	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
焼損面積	1,305	373	1,875	474	1,076	467	1,304	1,618	647	1,216



損害額

(単位 千円)

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
損害額	62,997	22,947	121,808	42,208	74,778	113,816	109,134	64,852	142,786	89,675



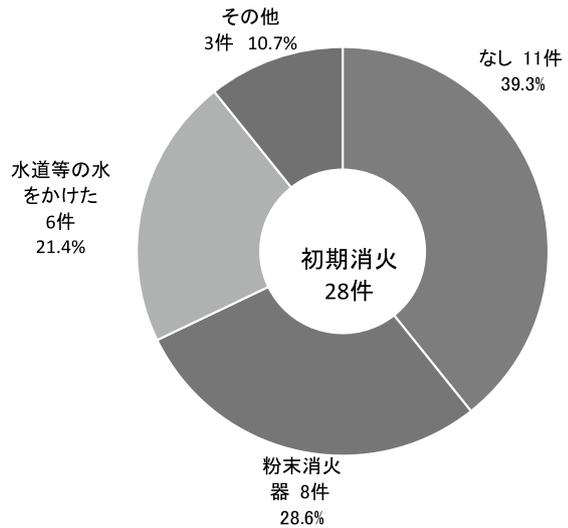
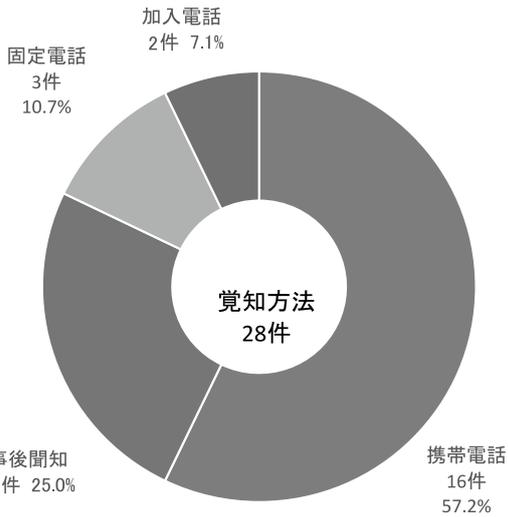
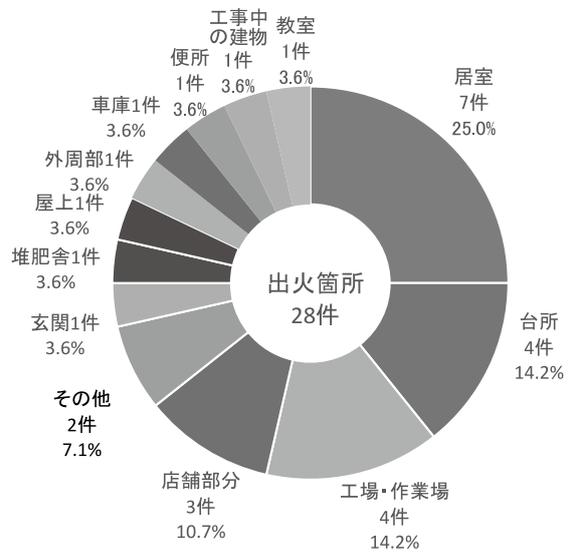
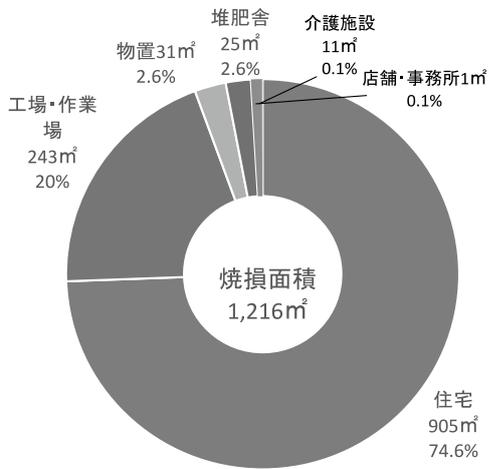
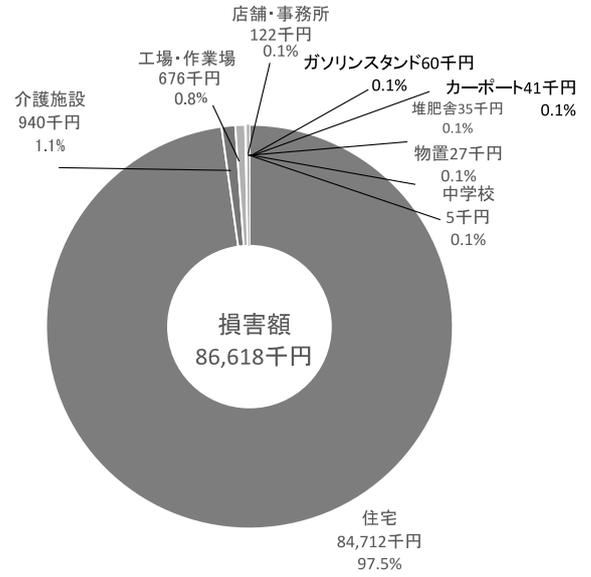
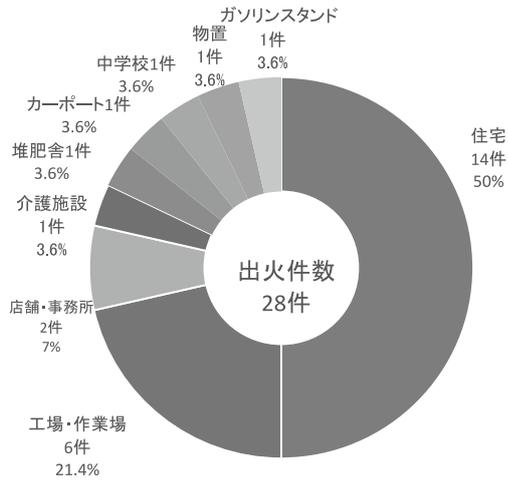
概要
総務
火災
予防
警防
通信・指令
救助
救急
応援協定
消防団
防火協力団体

月別火災の概要

令和6年中

区 分	単位	合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出火件数	件	46	5	5	7	4	2	3	1	2	3	5	1	8
種 別	建火物災	28	2	3	4	4	2	1		1	3	2	1	5
	林火野災													
	車火両災	3								1		2		
	船火舶災													
	航火空機災													
	その他火災	15	3	2	3			2	1			1		3
焼損棟数	棟	50	6	3	11	14	2	1		1	3	2	1	6
焼 損 程 度	全 焼	14	3		4	6								1
	半 焼	2			1									1
	部 分 焼	12	1	2	1	5	1				2			
	ば や	22	2	1	5	3	1	1		1	1	2	1	4
建表物面焼損積	m ²	1,105	154	11	468	447	2							23
建床物面焼損積	m ²	111	2	25	27	36					12			9
林野焼損面積	a													
死 者	人	2	1		1									
負 傷 者	人	3										1		2
り災世帯数	世帯	22	2	1	5	9	1	1				2		1
種 別	全 損	6	1		2	3								
	半 損													
	小 損	16	1	1	3	6	1	1				2		1
り災人員	人	53	3	2	10	28	1	1				5		3
損 害 額	千円	89,675	6,799	2,527	16,504	61,653	288	18		580	313	856	4	133
種 別	建火物災	86,618	6,772	976	16,504	61,653	288	14			313	6	4	88
	林火野災													
	車火両災	1,411								580		831		
	船火舶災													
	航火空機災													
	その他火災	1,646	27	1,551				4				19		45

建物火災の状況(令和6年中)



出火原因別火災件数

令和6年中

原因別		月別												合計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
出火原因	たばこ					1						1		2	
	こんろ										1		1	2	
	炉		1											1	
	ストーブ														
	こたつ														
	煙突・煙道														
	排気管				1										1
	火あそび			1											1
	電灯・電話等の配線				1			1	1						3
	配線器具	1			1	1	1						1		5
	電気機器			1			1						1		3
	電気装置									1					1
	内燃機関										1		1		2
	マッチ・ライター														
	たき火	3	1	1			1							2	8
	火入れ			1											1
	溶接機・溶断機														
	放火				1										1
放火の疑い											1			1	
その他		3	2							2	2		2	11	
不明	1		1						1					3	
合計		5	5	7	4	2	3	1	2	3	5	1	8	46	

出火原因別の推移

年 順位	令和6年		令和5年		令和4年		令和3年		令和2年	
	出火原因	件数	出火原因	件数	出火原因	件数	出火原因	件数	出火原因	件数
1	たき火	8	たき火	7	たき火	7	たき火	11	たき火	3
2	配線器具	5	こんろ	6	電灯・電話等の配線	6	たばこ	5	排気管	3
3	電灯・電話等の配線	3	電灯・電話等の配線	4	排気管	3	こんろ	5	放火の疑い	3
	電気機器	3	配線器具	3	配線器具	2	放火の疑い	4	こんろ	2
4	たばこ	2	排気管	3	焼却炉	1	電気装置	3	たばこ	1
	内燃機関	2	電気機器	3	ストーブ	1	排気管	2	ストーブ	1
	こんろ	2	ストーブ	2	煙突・煙道	1	ストーブ	1	電灯・電話等の配線	1
5	炉	1	電気装置	2	取灰	1	配線器具	1	配線器具	1
	電気装置	1	溶接機・溶断機	2	たばこ	1	火あそび	1	溶接機・溶断機	1
	火あそび	1	放火の疑い	2	電気機器	1	放火	1	放火	1
	排気管	1	たばこ	1	溶接機・溶断機	1				
	火入れ	1	内燃機関	1	放火	1				
	放火	1	火入れ	1	放火の疑い	1				
	放火の疑い	1	放火	1						
	上記以外	11	上記以外	9	上記以外	5	上記以外	14	上記以外	10
	不明	3	不明	2	不明	5	不明	7	不明	3
	合計	46	合計	49	合計	37	合計	55	合計	30

予 防



令和6年度防火ポスターコンクール
小学校の部 金賞
富士宮市立上野小学校
6年 佐野 心音 さん

予 防 行 政 の 概 要

1 防火対象物等の現況

富士宮市は広大な面積を有する中で、市街地とその周辺の宅地化が進み、建築物の高層化や大型工場の進出が増えつつあります。

これらに対応するため、建築物の予防指導は特に重要なものであります。市民が安全で安心して暮らせる消防対策・予防対策に積極的に取り組んでいます。

なお、管内の防火対象物(150㎡以上)は5,071件、危険物許可施設は381件あります。
(令和7年3月31日現在)

2 予防指導目標

- (1) 査察体制の強化と防火指導の推進
- (2) 防火対象物及び危険物施設の出火防止体制の強化
- (3) 住宅用防災機器の設置推進指導
- (4) 防火意識の高揚と防火協力団体の育成

建築確認消防同意等件数

令和6年度

区分 月	総 数	新 築	増 築	用途変更	計画変更	改 築	総数の内	
							計画通知	許 可 同 意
4	9	9					1	
5	16	14	1		1		2	2
6	10	9			1			1
7	5	5						1
8	12	11	1					3
9	11	9	1		1		2	
10	14	13	1				1	1
11	11	10	1					
12	6	3	1		2			
1	17	15	1		1		3	
2	7	6	1				1	1
3	6	5			1		2	
合 計	124	109	8	0	7	0	12	9

概
要

総
務

火
災

予
防

警
防

通
信・指
令

救
助

救
急

応
援協
定

消
防団

防
火協
力団
体

防火対象物に関する調べ（延面積150㎡以上）

令和7年3月31日現在

項	用 途 別	数	中・高層建築物状況							計	
			150㎡以上	3階	4階	5階	6階	7階	8階以上		内31m超
1	イ 劇場・映画館	4		1							1
	ロ 公会堂・集会場	99		3			1			2	4
2	イ キャバレー・ナイトクラブの類										
	ロ 遊技場・ダンスホール	7			1	1					2
	ハ 性風俗関連特殊営業を営む店舗等										
	ニ カラオケボックス(個室)・インターネットカフェ・マンガ喫茶(個室)	2									
3	イ 待合・料理店の類										
	ロ 飲食店	122		9							9
4	百貨店・マーケット・物品販売業を営む店舗又は展示場	266		11	2						13
5	イ 旅館・ホテル・宿泊所	143		13	5	2	1		3	1	24
	ロ 寄宿舎・下宿・共同住宅	1,185		240	57	34	4	1	7	1	343
6	イ 病院・診療所・助産所	92		13	2	1					16
	ロ 老人短期入所施設・養護老人ホーム・特別養護老人ホーム(主に入所施設)	64		11	5						16
	ハ 老人デイサービス・軽費老人ホーム・老人福祉センター・知的障害者通園施設・保育所・助産施設・障害支援施設等(主に通所施設)	85		3							3
	ニ 幼稚園・特別支援学校	12									
7	小・中・高等・各種各学校	153		44	12						56
8	図書館・博物館・美術館	8		2		1					3
9	イ サウナ等										
	ロ イ以外の公衆浴場	4									
10	車両の停車場・船舶・航空機の発着場	3									
11	神社・寺院・教会の類	92		2	1						3
12	イ 工場・作業場	906		76	22	17	9	2	1	1	127
	ロ 映画スタジオ・テレビスタジオ	1		1							1
13	イ 自動車車庫・駐車場	16		1	1	1					3
	ロ 飛行機・回転翼航空機の格納庫										
14	倉庫	384		6	2	4	1				13
15	前各号に該当しない事業場	621		48	9	2	1		1	1	61
16	イ 複合用途防火対象物のうち特定防火対象物を有するもの	526		142	16	3	4		1	1	166
	ロ イ以外の複合用途防火対象物	267		77	5	1					83
16の2	地下街										
16の3	準地下街										
17	文化財等	6				1				1	1
18	延長50m以上のアーケード	3									
19	市町村長の指定する山林										
20	総務省令で定める舟車										
合	計	5,071		703	139	68	22	3	13	8	948

防火対象物査察及び防火管理者選任届出状況

令和7年3月31日現在

項	用 途 別	消防法第8条 対象物数	令和6年度 査察実施数	令和6年度 査察指示書	重大違反 対象物	防火管理者 選任届出件数
1	イ 劇場・映画館、演舞場、又は観覧場	3				3
	ロ 公会堂又は集会場	214	13	1		143
2	イ キャバレー、カフェー、ナイトクラブの類					
	ロ 遊技場又はダンスホール	6	1			6
	ハ 性風俗関連特殊営業を営む店舗等					
3	二 カラオケボックス(個室)・インターネットカフェ・マンガ喫茶(個室)	2				2
	イ 待合、料理店の類					
4	ロ 飲食店	133	22	12		98
	百貨店、マーケットその他の物品販売を営む店舗又は展示場	208	45	4		160
5	イ 旅館、ホテル又は宿泊所	77	41	22		70
	ロ 寄宿舎、下宿又は共同住宅	73	1	1		33
6	イ 病院、診療所又は助産所	28	28	2		26
	ロ 老人短期入所施設・養護老人ホーム・特別養護老人ホーム (主に入所施設)	50	8	1		47
	ハ 老人デイサービス・軽費老人ホーム・老人福祉センター・知的障害者通園施設・保育所・助産施設・障害支援施設等 (主に通所施設)	53	16	3		51
7	二 幼稚園・特別支援学校	10				10
	小学校、中学校、高等学校、大学、各種学校	52	7	1		48
8	図書館、博物館、美術館	7	2			7
9	イ サウナ等					
	ロ イ以外の公衆浴場	4	2			4
10	車両の停車場、船舶、航空機の発着場					
11	神社、寺院、教会の類	41	6			21
12	イ 工場、作業場	97	30	19	6	88
	ロ 映画スタジオ、テレビスタジオ					
13	イ 自動車車庫、駐車場	1				1
	ロ 飛行機、回転翼航空機の格納庫					
14	倉庫	5	10	2		4
15	前各号に該当しない事業所	73	32	13		52
16	イ 複合用途防火対象物のうち特定防火対象物を有するもの	194	29	15	1	138
	ロ イ以外の複合防火対象物	10	1			8
16の2	地下街					
16の3	準地下街					
17	文化財等	1	7			1
18	延長50m以上のアーケード					
19	市町村長の指定する山林					
20	総務省令で定める舟車					
合 計		1,342	301	96	7	1,021

概 要

総 務

火 災

予 防

警 防

通信・指令

救 助

救 急

応援協定

消防団

防火協力団体

消防用設備着工・設置届出及び完成検査数

令和6年度

設備種別	処理種別	消防用設備検査等		
		着工届	設置届	完成検査
消 火 器			270	44
屋 内 消 火 栓		7	9	10
スプリンクラー設備		2	4	2
屋 外 消 火 栓		2	4	1
水噴霧消火設備等				
漏電火災警報器			1	
非常警報設備		9	19	11
自動火災報知設備		71	329	93
避難器具		5	18	11
誘 導 灯		1	125	32
連結送水管		1	2	2
消防機関へ通報する火災報知設備		8	9	12
そ の 他		2	43	38
合 計		108	833	256

防火・防災管理届出・消防計画届出・各点検結果報告数

令和6年度

届出・報告	月別												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
防火管理者 選解任届	38	44	11	31	17	8	20	8	4	4	8	12	205
防災管理者 選解任届	1												1
自衛消防組織 設置届	1	1	1					1					4
防火対象物点検 結果報告	2	2	4	5	2	4	7	7	6	2	3	7	51
防災管理点検 結果報告								2	1		1	4	8
消防計画作成 (変更)届	56	56	15	30	17	12	17	12	4	5	11	13	248
消防用設備等 点検結果報告	178	107	116	132	84	156	106	116	112	81	88	110	1,386

煙火消費許可件数

令和6年度

許可数	月別												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
煙火消費許可			1	1	5	1		2			1		11

各種届出件数

令和6年度

種 別	月 別													合 計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
防火対象物使用開始届	12	14	15	11	7	8	8	8	14	12	10	13	132	
少量危険物貯蔵取扱届	1	1				1	2		1	4	3	2	15	
ボ イ ラ ー 設 置 届		2	2			2	1	1				1	9	
変 電 設 備 届		3	2	1		3	2	1	3	4	2		21	
発 電 設 備 設 置 届			2	1				1	2	1		2	9	
蓄 電 設 備 設 置 届	2						1	2		2			7	
炉 設 置 届									1				1	
乾 燥 設 備 設 置 届		1	1							1			3	
給 湯 湯 沸 設 備		1										1	2	
指 定 可 燃 物												1	1	
少量危険物廃止届							1		1			1	3	
催 物 開 催 届	2					2	1		3		1		9	
煙 火 打 上 届	3	1	2	9	6	2	5	3	3	2	3	3	42	
断 水 等 届	2			1		1	1	2	2	3	7	4	23	
道 路 工 事 届	40	54	70	51	37	67	80	45	55	33	41	29	602	
た き 火 届	6	10	11	8	9	20	26	22	40	38	14	12	216	
圧縮アセチレンガス等	11	4	1		5	2	4	2	3	1	4	3	40	
液化石油ガス設備工事届			2								1	2	5	
露 店 等 の 開 設 届	9	9	6	17	14	21	23	28	3	8	14	9	161	
合 計	88	100	114	99	78	129	155	115	131	109	100	83	1,301	

概 要

総 務

火 災

予 防

警 防

通 信 ・ 指 令

救 助

救 急

応 援 協 定

消 防 団

防 火 協 力 団 体

防火管理新規講習実施状況

年 度	資 格 種 別	資 格 取 得 者 数
令 和 2 年 度	甲 種	98 人
令 和 3 年 度	甲 種	68 人
令 和 4 年 度	甲 種	81 人
令 和 5 年 度	甲 種	138 人
令 和 6 年 度	甲 種	129 人

防火管理再講習

年 度	資 格 種 別	資 格 取 得 者 数
令 和 5 年 度	甲 種	20 人
令 和 6 年 度	甲 種	15 人

火災予防広報

令和6年度

項 目	総 数	春の火災 予防運動	秋の火災 予防運動
新 聞 報 道	2 回	1 回	1 回
協 力 ・ 通 知 文	1,066 件	533 件	533 件
ポスター配布・掲示	1,066 件	533 件	533 件
消 防 だ よ り	1 回	回	1 回
庁内放送(市役所)	10 回	5 回	5 回

対象物 指導区分		総 数		自主防災組織 (区会・自治会含む)		その他の団体 (各種学校等)		事 業 所	
		回数	参加人員	回数	参加人員	回数	参加人員	回数	参加人員
訓 練	消火訓練	38	2,379	6	833	15	811	17	735
	避難通報 訓 練	20	2,868	3	365	5	748	12	1,020
教 育	防火防災 教 育 (花火教室含む)	33	2,274			33	2,274		
そ の 他	防火相談 (空家・枯草)								
	署内見学	27	1,105			27	1,105		
合 計		118	8,626	9	1,198	80	4,938	29	1,755

2025年度 全国統一防火標語

急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし

概
要

総
務

火
災

予
防

警
防

通
信・指
令

救
助

救
急

応
援協
定

消
防団

防
火協
力団
体

製造所等の許可、完成検査及び廃止届等の数

令和6年度

区分		製造所等		小計	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所	
		合計	製造所															
許可	設置	1		1					1			0						
	変更	47	3	10	3	5		1		1		34	5				29	
	常置場所の変更	転出	0		0								0					
		転入	0		0								0					
完成	設置	3		3		2			1			0						
	変更	40	3	9	3	4		1		1		28	5				23	
	当市に転入	0		0								0						
廃止等	廃止	5		4	2		1			1		1	1					
	設置許可取消	0		0								0						
前年度比増減数	設置	-4	0	-3	-2	0	-1	0	1	-1	0	-1	-1	0	0	0	0	
	設置完成検査	-2	0	-1	-2	2	-1	0	1	-1	0	-1	-1	0	0	0	0	

危険物施設立入検査等件数

令和6年度

製造所等	月別													合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
製造所												1	2	3
屋内貯蔵所		3	5	1			1		2	1	1	5	19	
屋外タンク貯蔵所		3	8						1				12	
屋内タンク貯蔵所										1	1		2	
地下タンク貯蔵所	5		4				2	1					12	
簡易タンク貯蔵所							1						0	
移動タンク貯蔵所		3	5	1	3				3			1	4	20
屋外貯蔵所			3										3	
給油取扱所	1		2		7	1	1	3		1	1	1	18	
一般取扱所	2	2	7			2			2	2		4	21	
販売取扱所												1	1	
危険物運搬車両													0	
合計	8	11	34	2	10	6	3	6	5	5	5	17	112	

数量別危険物施設数

令和7年3月31日現在

製造所等	合計	製造所	貯蔵所								取扱所					
			小計	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第1種販売取扱所	第2種販売取扱所	一般取扱所	
設置許可施設	合計	381	4	250	65	69	16	68	2	24	6	127	62	2	0	63
	5倍以下	119		97	16	15	14	27	2	20	3	22	5	2		15
	5倍を超え10倍以下	88		53	18	13	1	18		1	2	35	6			29
	10倍を超え50倍以下	117	3	81	26	31	1	20		2	1	33	17			16
	50倍を超え100倍以下	20		13	3	7		2		1		7	6			1
	100倍を超え150倍以下	15		4	2	1		1				11	11			
	150倍を超え200倍以下	7		0								7	7			
	200倍を超え1,000倍以下	15	1	2		2						12	10			2
	1,000倍を超え5,000倍以下	0		0								0				
	5,000倍を超え10,000倍以下	0		0								0				
	10,000倍を超えるもの	0		0								0				
完成検査済証交付施設	合計	381	4	250	65	69	16	68	2	24	6	127	62	2	0	63
	5倍以下	119		97	16	15	14	27	2	20	3	22	5	2		15
	5倍を超え10倍以下	88		53	18	13	1	18		1	2	35	6			29
	10倍を超え50倍以下	117	3	81	26	31	1	20		2	1	33	17			16
	50倍を超え100倍以下	20		13	3	7		2		1		7	6			1
	100倍を超え150倍以下	15		4	2	1		1				11	11			
	150倍を超え200倍以下	7		0								7	7			
	200倍を超え1,000倍以下	15	1	2		2						12	10			2
	1,000倍を超え5,000倍以下	0		0								0				
	5,000倍を超え10,000倍以下	0		0								0				
	10,000倍を超えるもの	0										0				

概要
 総務
 火災
 予防
 警防
 通信・指令
 救助
 救急
 応援協定
 消防団
 防火協力団体

類別危険物施設数

令和7年3月31日現在

類別	製造所等	合計	製造所	貯蔵所								取扱所					
				小計	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第1種販売取扱所	第2種販売取扱所	一般取扱所	
設置許可施設	合計	381	4	250	65	69	16	68	2	24	6	127	62	2	0	63	
	単独	第1類	0		0								0				
		第2類	0		0								0				
		第3類	0		0								0				
		第4類	372	4	243	58	69	16	68	2	24	6	125	62	2		61
		第5類	1		1	1							0				
		第6類	0		0								0				
混在	8		6	6							2					2	
完成検査済証交付施設	合計	381	4	250	65	69	16	68	2	24	6	127	62	2	0	63	
	単独	第1類	0		0								0				
		第2類	0		0								0				
		第3類	0		0								0				
		第4類	372	4	243	58	69	16	68	2	24	6	125	62	2		61
		第5類	1		1	1							0				
		第6類	0		0								0				
混在	8		6	6							2					2	

2025年度 危険物安全週間推進標語

危険物 無事故へ挑む ゴング鳴る

警 防



令和6年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練
大規模火災消火訓練

近年、社会経済情勢の変化の中で、火災等の災害形態も複雑、多様化してきており、その対応はますます困難を極めています。

こうした状況の中で、地域住民の生命、身体、財産を守り、生活の安全を図るため、消防機械器具の近代化、消防水利の整備を積極的に推進し、限られた現有消防設備を有効かつ最大限に活用し、いかなる災害にも即応することが消防に課せられた使命であります。

これらの任務を遂行する職員の知識、技術の向上を図るべく日夜教育、訓練に励み地域の安全確保に努めています。

各種出動状況

令和6年中

種別	出動件数(回)			出動車両(台)			出動人員(人)			
	合計	中央消防署管内	西消防署管内	合計	中央消防署管内	西消防署管内	合計	中央消防署管内	西消防署管内	
火災出動	建物火災	60	36	24	102	53	49	312	163	149
	林野火災	2	1	1	4	1	3	12	2	10
	車両火災	5	2	3	9	2	7	26	4	22
	航空機火災									
	船舶火災									
	その他の火災	40	22	18	64	30	34	190	91	99
	火災出動小計	107	61	46	179	86	93	540	260	280
警戒出動	怪煙	26	6	20	26	6	20	100	24	76
	自火報等	31	16	15	31	16	15	118	63	55
	自然災害	6	5	1	6	5	1	20	16	4
	ガス事故	1	1		4	4		28	28	
	救急応援	442	199	243	450	204	246	1,732	813	919
	一般事故	2		2	2		2	6		6
	警戒出動小計	508	227	281	519	235	284	2,004	944	1,060
応援出動	4	4		5	5		39	26	13	
集団救急出動										
危険排除出動	33	9	24	35	9	26	127	35	92	
合計	652	301	351	738	335	403	2,710	1,265	1,445	

教育・訓練状況

令和6年中

種別	中央消防署管内	西消防署管内	合計
演習訓練	17	16	33
操縦訓練	180	282	462
機械器具取扱訓練	96	62	158
放水訓練	196	197	393
火災防ぎょ訓練	211	140	351
救急訓練	136	128	264
救助訓練	511	542	1,053
規律訓練	72	72	144
学科教養	1,289	526	1,815
山岳訓練	9	1	10
計(回)	2,717	1,966	4,683

消防車両配置状況

令和7年4月1日現在

配置区分	車 両 別	登録番号	会 社 名	年式	ポンプ等 製造所名	購入年月日	備 考	
消 防 本 部	指令車	富士山803 さ 1053	トヨタ	2012		H 24. 2. 2	エステイマ	
	指揮車	富士山840 せ 5 2	トヨタ	2021		R 3. 3. 1	プリウスα	
	団指揮広報車	富士山803 さ 2456	三菱	2018		H 30. 2. 8	デリカ	
	広報車	富士山803 さ 1081	トヨタ	2012		H 24. 3. 8	ハイエース	
	査察車	富士山803 さ 4 1	トヨタ	2008		H 20. 8. 22	サクシード	
	連絡車	富士山481 い 4758	ダイハツ	2012		H 24. 4. 6	ハイゼット	
中 央 消 防 署	中央山岳救助車	富士山803 さ 278	トヨタ	2006		H 18. 12. 25	ランドクルーザー	
	中央資機材車	富士山803 さ 974	いすゞ	2011		H 23. 12. 1	エルフ	
	中央梯子車	富士山840 さ 845	日 野	2004	モリタ	H 16. 12. 20	30メートル級 水管付先端屈折型	
	中央工作車	富士山840 さ 4 1	日 野	2017	モリタ	H 29. 2. 27	Ⅲ型	
	中央タンク車	富士山840 む 3776	いすゞ	2013	日本機械	H 25. 3. 26	水槽付ポンプ	
	中央救急車	富士山840 さ 1191	トヨタ	2023		R 5. 3. 17		
	中央指揮車	富士山840 せ 5 1	トヨタ	2017		H 29. 3. 21		
中 央 消 防 署	芝川分署	芝川タンク車	富士山840 さ 1219	いすゞ	2015	日本機械	H 27. 2. 20	水槽付ポンプ
		芝川救急車	富士山840 す 1193	トヨタ	2024		R 6. 3. 18	
		連絡車	富士山881 あ 4 8	スズキ	2023		R 6. 2. 9	エブリイ
中 央 消 防 署	東分署	東タンク車	富士山840 さ 8880	いすゞ	2016	日本機械	H 28. 2. 17	水槽付ポンプ
		東救急車	富士山840 す 8880	トヨタ	2019		H 31. 3. 22	
		連絡車	富士山481 あ 2703	スズキ	1997		H 9. 3. 10	軽トラック
西 消 防 署	西分署	西水槽車	富士山840 て 119	日 野	2011	日本機械	H 23. 3. 14	水槽Ⅱ型
		西化学車	富士山840 つ 2 4	日 野	2019	モリタ	H 31. 2. 19	化学車Ⅱ型
		西救急車	富士山840 そ 1 9	トヨタ	2018		H 30. 3. 26	
		西指揮車	富士山803 さ 269	日 産	2002		H 14. 7. 12	ADバン
西 消 防 署	北分署	北タンク工作車	富士山840 さ 1194	日 野	2023	モリタ	R 5. 8. 28	水槽付ポンプ
		北救急車	富士山840 さ 2256	トヨタ	2022		R 4. 2. 24	
		連絡車	富士山481 あ 2704	スバル	2004		H 16. 3. 3	軽トラック
		支援車	富士山840 ま 2 2 3	いすゞ	2024		R 6. 11. 6	Ⅲ型
西 消 防 署	上野分署	上野タンク車	富士山840 さ 1119	いすゞ	2018	畠山ポンプ	H 30. 3. 16	水槽付ポンプ
		上野救急車	富士山840 さ 1403	日 産	2019		H 31. 2. 25	
		連絡車	富士山481 あ 2705	スバル	2004		H 16. 3. 3	軽トラック
予 備		非常用タンク車	富士山840 に 119	いすゞ	2015	日本機械	H 27. 2. 18	水槽付ポンプ
		非常用救急車	富士山840 す 1219	トヨタ	2016		H 28. 1. 20	

消火薬剤備蓄状況

令和7年4月1日現在

署 別		設 置 場 所 等		数 量	品 名
中央消防署	中央	中央タンク車	ポリ容器20ℓ×2	40 ℓ	合成界面活性剤
		備蓄	ポリ容器20ℓ×8	160 ℓ	合成界面活性剤
	芝川	芝川タンク車	ポリ容器20ℓ×2	40 ℓ	合成界面活性剤
		備蓄	ポリ容器20ℓ×3	60 ℓ	合成界面活性剤
	東	東タンク車	ポリ容器20ℓ×2	40 ℓ	合成界面活性剤
		備蓄	ポリ容器20ℓ×4	80 ℓ	合成界面活性剤
	計			420 ℓ	
西消防署	西	西化学車	薬剤タンク	460 ℓ	合成界面活性剤
			ポリ容器20ℓ×2	40 ℓ	合成界面活性剤 (CAFS)
			ポリ容器20ℓ×2	40 ℓ	合成界面活性剤
		非常用タンク車	ポリ容器20ℓ×2	40 ℓ	合成界面活性剤
		備蓄	ポリ容器20ℓ×7	140 ℓ	合成界面活性剤
	北	北タンク工作車	ポリ容器20ℓ×2	40 ℓ	合成界面活性剤
		備蓄	ポリ容器20ℓ×3	60 ℓ	合成界面活性剤
	上野	上野タンク車	ポリ容器20ℓ×3	60 ℓ	合成界面活性剤
		備蓄	ポリ容器20ℓ×3	60 ℓ	合成界面活性剤
	計			960 ℓ	
	合 計			1,360 ℓ	

概 要

総 務

火 災

予 防

警 防

通 信・指 令

救 助

救 急

応 援 協 定

消 防 団

防 火 協 力 団 体

消防水利の現況

令和7年4月1日現在

区分 分団	防 火 水 槽						消 火 栓			その他	合計	
	100m ³ 以上		40~100m ³ 未満		40m ³ 未満		小 計 (耐震性)	公設	私設			小計
	公設	私設	公設	私設	公設	私設						
1	2		12	2			16 (11)	42	1	43		59
2	1		11	7	1		20 (17)	47		47	2	69
3	2		20	7	1		30 (23)	46	1	47	3	80
4	1		3				4 (4)	23		23	1	28
5	1		27	3			31 (22)	53	1	54	4	89
6	3		68	13	2		86 (68)	176		176	12	274
7	1		10	1		1	13 (11)	34	3	37	1	51
8		1	38	9	3		51 (33)	60		60	9	120
9	1		14	2	1	2	20 (16)	26		26	1	47
10			17	3	4	1	25 (17)	7		7	1	33
11	1		30	7			38 (28)	37		37	1	76
12	3		42	9	1		55 (37)	69	1	70		125
13	1		26	4	15	1	47 (20)	28		28		75
14	2		47	5	6		60 (44)	98		98	3	161
15	1		62	4	15	8	90 (53)	30	5	35	4	129
16			30	21	9	1	61 (42)	48	6	54	3	118
17		1	34	38	3	9	85 (64)	51	2	53	4	142
18			7	8			15 (14)	12	8	20	1	36
19			10	3			13 (10)	19		19	2	34
20		2	23	21	1	3	50 (29)	31	34	65	11	126
21	1	1	11	28	3	3	47 (27)	18	14	32	8	87
22			23	6		1	30 (25)	17	8	25	1	56
23			26	3	1		30 (28)	60	7	67	1	98
24			14		4		18 (14)	13		13	1	32
25			9		11		20 (10)	26		26	2	48
26			9	6	3		18 (14)	26		26	1	45
27			31	8	24		63 (36)	66	2	68	4	135
28			15	7	4	1	27 (23)	37	2	39	6	72
合計	21	5	669	225	112	31	1,063 (740)	1,200	95	1,295	87	2,445

令和6年度新設基数

区分 分団	防 火 水 槽						消 火 栓			その他	合計	
	100m ³ 以上		40~100m ³ 未満		40m ³ 未満		小 計 (耐震性)	公設	私設			小計
	公設	私設	公設	私設	公設	私設						
富士宮			1	2			3 (3)	6		6		9

通信・指令



富士市・富士宮市消防指令センター
(警防救急課 情報指令室)

119番の受信状況

令和6年中

内容 月	火 災	救 急	救 助	その 他 災 害	病 院 照 会	ま ち が い	い た ず ら	問 合 せ	訓 練 ・ 試 験	そ の 他	N E T 119	合 計	
1	11	710	4	3		16		27	26	81	1	879	(432)
2	15	496	3	3		18		25	37	80		677	(311)
3	22	499	5	5		19	1	35	61	66		713	(373)
4	20	479	5	4		28		17	54	84		691	(307)
5		481	6	2	1	27		19	57	75		668	(367)
6	3	517	6	5		25	3	18	51	138		766	(426)
7	1	647	1	4		26		38	32	92	1	842	(486)
8	2	641	7	6	1	21	1	41	34	102	1	857	(460)
9	7	526	4	7		25	1	26	55	61		712	(365)
10	2	499	3	2		16		30	62	53		667	(337)
11	3	568	3	5		15	1	30	64	55		744	(357)
12	15	724	6	6		15		41	48	77	1	933	(485)
合計	101	6,787	53	52	2	251	7	347	581	964	4	9,149	(4,706)

※（ ）内の数字は携帯電話からの受信件数を表す

富士市・富士宮市消防指令センター 応援指令状況

令和6年中

種 別	富士市 へ応援	富士市 から受援	富士市以外 へ応援	富士市以外 から受援	合計
火 災		1			1
救 急	1	5			6
救 助					0
その他					0
合 計	1	6	0	0	7

映像通報システム（Live119）使用件数

令和6年中

内容 月	出 動 別 件 数							実施区分内訳		
	火災	救急	救助	警戒	危険排除	その他	合計	映像 通話	位置 情報	ファイル 送信
1										
2										
3										
4	1	1	2				4	3	1	
5		2	4				6	6	1	
6	2	2	1				5	5		2
7		1	2	1		1	5	5	2	
8		7	2	1			10	10	1	1
9	1	5	4				10	10	1	
10	1	4	3				8	8	1	
11	2	1	2				5	3	1	
12	2	1		1			4	4	3	
合計	9	24	20	3	0	1	57	54	11	3

概
要

総
務

火
災

予
防

警
防

通
信
・
指
令

救
助

救
急

応
援
協
定

消
防
団

防
火
協
力
団
体

通信施設の状況

・消防指令センター(富士市消防防災庁舎内)

指 令 装 置	指 令 台	通常時は5回線受信体制をとっていますが、大災害時等、119番通報が殺到する場合(大輻輳時)には最大15回線の同時受信が可能です。
	統合型位置情報通知システム	携帯電話・IP電話及び固定電話からの119番通報に対し、通報場所を特定することが可能です。
	出動車両運用管理装置	GPS(測位衛星)を活用し、災害発生場所により近い車両を選別、更には、その災害に応じた車両種別及び台数を自動的に編成します。
	メール指令設備	消防団員が所持している携帯電話やスマートフォンに、火災発生時の出動指令をEメールで配信します。
	NET119及びFAX119受信設備	聴覚や言語に障がいがあり、通話による119番通報が困難な方のために、携帯電話やスマートフォンのアプリケーション及びファックスを使用し119番通報することができます。
	119番映像通報システム(Live119)	119番通報受信時、通報者が場所や災害状況の説明に苦慮する場合、Live119を使用する事により動画で把握でき、出動隊が現場到着前に情報共有する事が可能です。また、口頭指導内容を動画で送信し、通報者に分かりやすく伝える事ができます。※令和6年4月から運用開始
	外国語三者通話	119番通報、災害現場などで、日本語での会話が困難な外国人をサポートするため、英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語他32か国語について、電話による通訳者を交えた24時間対応の電話通訳体制で運用しています。
車両運用端末装置(AVM)		車両から活動状況を指令センターに送るとともに、指令情報や地図情報、水利情報等の支援情報を出動中の車両内で閲覧することができます。
現場映像伝送装置		指揮隊に配備されており、ビデオハンディカメラで撮影した現場映像を消防本部及び指令センターで閲覧することができ、迅速な災害対策指揮に役立っています。
消防用高所監視装置		富士宮市役所及び富士市金丸山に設置されている監視カメラにより、災害現場の状況を瞬時に把握することができます。
気象観測システム		富士宮市役所に設置されており、天気、風向、風速、雨量、気温等を常時観測し、消防活動に役立っています。

・消防指令センター サポート室(富士宮市役所消防本部内)



大規模災害発生時には、富士宮市消防本部の消防指揮本部として運用するとともに、消防指令センターが機能しなくなった場合には、両市の119番回線を本施設に迂回させ、通信指令業務を富士宮市で継続することができます。

無線配置状況

令和7年4月1日現在

所属	呼出名称	区分	出力(W)	免許番号	
消防指令センター	かなまるやまきちきよく	基地局	5	海基第	2272250
	おおづもりさちきよく	基地局	2	海基第	2272251
	みやきょうどう 1	車載予備機	5	海移第	20260178
中央消防署	みやちゅうおう 11	タンク車	5	海移第	20260225
	みやちゅうおう 31	梯子車	5	海移第	20260227
	みやちゅうおう 41	救助工作車	5	海移第	20260228
	みやちゅうおう 42	山岳救助車	5	海移第	20260229
	みやちゅうおう 43	資機材搬送車	5	海移第	20260230
	みやちゅうおう 51	指揮車	5	海移第	20260231
	みやきゅうきゅうちゅうおう 1	救急車	5	海移第	20260240
	みやきゅうきゅうちゅうおう 2	非常用救急車	5	海移第	20260241
	みやちゅうおう 101	携帯	2	海移第	20260388
	みやちゅうおう 102	携帯	2	海移第	20260389
	みやちゅうおう 103	携帯	2	海移第	20260390
	みやちゅうおう 104	携帯	2	海移第	20260391
	みやちゅうおう 105	携帯	2	海移第	20260392
	みやちゅうおう 106	携帯	2	海移第	20260393
	みやちゅうおう 107	携帯	2	海移第	20260394
	みやちゅうおう 108	携帯	2	海移第	20260395
	みやちゅうおう 109	携帯	2	海移第	20260396
	みや 106	携帯	2	海移第	20260425
	みやちゅうおうこてい 1	卓上	5	海移第	20259655
	芝川分署	みやしばかわ 11	タンク車	5	海移第
みやきゅうきゅうしばかわ 1		救急車	5	海移第	20260243
みやしばかわ 101		携帯	2	海移第	20260397
みやしばかわ 102		携帯	2	海移第	20260398
みやしばかわ 103		携帯	2	海移第	20260399
みやしばかわ 104		携帯	2	海移第	20260400
みやしばかわこてい 1		卓上	5	海移第	20259656
東分署	みやひがし 11	タンク車	5	海移第	20260237
	みやきゅうきゅうひがし 1	救急車	5	海移第	20260244
	みやひがし 101	携帯	2	海移第	20260401
	みやひがし 102	携帯	2	海移第	20260402
	みやひがし 103	携帯	2	海移第	20260403
	みやひがし 104	携帯	2	海移第	20260404
	みやひがしこてい 1	卓上	5	海移第	20259657

所属	呼出名称	区分	出力(W)	免許番号
西消防署	みやにし 21	化学車	5	海移第 20260226
	みやにし 51	指揮車	5	海移第 20260234
	みやにし 71	水槽車	5	海移第 20260235
	みやきゆうきゆうにし 1	救急車	5	海移第 20260242
	みや 1	非常用タンク車	5	海移第 20287043
	みやにし 101	携帯	2	海移第 20260405
	みやにし 103	携帯	2	海移第 20260407
	みやにし 104	携帯	2	海移第 20260408
	みやにし 105	携帯	2	海移第 20260409
	みやにし 106	携帯	2	海移第 20260410
	みや 105	携帯	2	海移第 20260424
	みやにしこてい 1	卓上	5	海移第 20259658
北分署	みやきた 11	人員搬送車	5	海移第 20260238
	みやきた 41	救助工作車	5	海移第 20260233
	みやきゆうきゆうきた 1	救急車	5	海移第 20260245
	みやきた 101	携帯	2	海移第 20260411
	みやきた 102	携帯	2	海移第 20260412
	みやきた 103	携帯	2	海移第 20260413
	みやきた 104	携帯	2	海移第 20260414
	みやきた 105	携帯	2	海移第 20260415
	みやきたこてい 1	卓上	5	海移第 20259659
上野分署	みやうえの 11	タンク車	5	海移第 20260239
	みやきゆうきゆううえの 1	救急車	5	海移第 20260246
	みやうえの 101	携帯	2	海移第 20260416
	みやうえの 102	携帯	2	海移第 20260417
	みやうえの 103	携帯	2	海移第 20260418
	みやうえの 104	携帯	2	海移第 20260419
	みやうえのこてい 1	卓上	5	海移第 20259660
消防本部	みや 51	指令車	5	海移第 20260220
	みや 52	指揮車	5	海移第 20260221
	みや 61	団指揮広報車	5	海移第 20260222
	みや 62	広報車	5	海移第 20260223
	みや 71	査察車	5	海移第 20260224
	みや 101	携帯	2	海移第 20260420
	みや 102	携帯	2	海移第 20260421
	みや 103	携帯	2	海移第 20260422
	みや 104	携帯	2	海移第 20260423
	みやけいぼうこてい 1	卓上	5	海移第 20259661

概要
総務
火災
予防
警防
通信・指令
救助
救急
応援協定
消防団
防火協力団体

富士宮市気象観測結果

令和6年中

種別 月	月平均風速(m/s)		月最大瞬間風速(m/s)		気 温(°C)			湿度(%)	月降雨量 (mm)
	風 速	風 向	風 速	風 向	月平均	月最高	月最低	月平均	
1	2.1	北西	25.8	北北西	6.8	17.5	-2.9	57.3	63.5
2	2.3	北西	24.9	北北西	8.2	20.7	0.2	71.7	180.0
3	2.4	北西	31.9	北北西	9.3	26.9	0.2	61.9	354.0
4	1.8	南南東	24.3	北	16.4	26.1	6.8	74.9	161.5
5	2.0	南南東	23.3	南	18.6	27.1	8.8	78.2	315.0
6	1.7	南南東	14.3	北西	21.8	33.0	14.0	82.7	388.5
7	1.7	南南東	14.8	南南東	27.3	35.8	21.3	85.7	177.0
8	1.7	南南東	21.8	北西	28.0	36.2	22.5	84.2	432.5
9	1.6	南南東	14.8	北東	26.2	34.7	17.2	83.8	100.0
10	1.6	北西	16.3	北西	20.5	29.2	10.5	82.8	273.5
11	1.5	北西	15.6	北	13.8	24.9	3.2	75.2	234.5
12	1.9	北西	21.1	北北西	7.1	19.5	-1.4	56.9	0.0
	年平均 1.9	年平均 南南東	年最大 31.9	年最大 北北西	年平均 17.0	年最高 36.2	年最低 -2.9	年平均 74.6	年間雨量 2680.0

警報・注意報等

令和6年中

種別 月	警 報					注 意 報 等													
	大雨	洪水	暴風	大雪	浸水	大雨	洪水	強風	風雪	大雪	雷	濃霧	乾燥	なだれ	低温	霜	着氷 (雪)	浸水	火災気象通報
1										1	3	2			2		1		
2						2				1	6			2			1		
3	1					2	1	2			6	2		2		12			3
4						1		1			5	1		3		3			1
5						3		1			5	2							1
6						3	2				13	2							
7						2	2				13	2							
8	1					2	5	1			14								2
9						1		1			9								
10						1	1				8	1							
11	1	1				3	4	2			3								3
12																			
合計	3	1	0	0	0	20	15	8	0	2	85	12	0	7	2	15	2	0	10

救 助



雪山山岳救助訓練（富士山）
中央消防署救助隊

救助業務

消防機関の行う人命救助は、自然災害、人為的災害を問わず広く一般の災害事象により、要救助者の生命又は身体に現実の危険が及んでいる場合で、要救助者の生存が確認又は予想される状況下において人力、機械力等を用いて、その危険を排除し安全な場所に救出することをいい、隊員は救助知識、高度の技術習得、練磨に励み、人命救助に全力を注いでいる。

発生場所別事故件数

令和6年中

種別 発生場所		火災		交通 事故	水難 事故	風水害 等自然 災害	機 械 による 事故	建物等 による 事故	ガス及 び酸欠 事故	爆 発 事故	山 岳 事故	その他 の 事故	計
		建物	建物 以外										
屋内	住 居	9						9				1	19
	その他の屋内	7					3	1				1	12
屋 道 路	高速自動車道												0
	その他の道路		1	21		1						2	25
水 面	内 水 面				9							1	10
	外 水 面												0
外	山 岳										16		16
	その他の屋外	2	4	4								9	19
地 下													0
そ の 他												2	2
計		18	5	25	9	1	3	10	0	0	16	16	103

月別・事故別出動件数

令和6年中

種別 月 別		火災		交通 事故	水難 事故	風水害 等自然 災害	機 械 による 事故	建物等 による 事故	ガス及 び酸欠 事故	爆 発 事故	山 岳 事故	その他 の 事故	計
		建物	建物 以外										
1		1		3	1		1					1	7
2		2	2	1	1							2	8
3		3			2						1	1	7
4		3		2				1				3	9
5				2	1		1	1				1	6
6				4				1			2		7
7						1		1			5		7
8		1		4	1						3	3	12
9		2		1	1						3	3	10
10			2	3	1						1	2	9
11		2		2				4					8
12		4	1	3	1		1	2			1		13
計		18	5	25	9	1	3	10	0	0	16	16	103

事故別出動車両、出動・活動・救出人員

令和6年中

種 別 区 分		火災		交 通 事 故	水 難 事 故	風水害 等自然 災 害	機 械 による 事 故	建物等 による 事 故	ガス及 び酸欠 事 故	爆 発 事 故	山 岳 事 故	その他 の 事 故	計
		建物	建物 以外										
出 動 件 数		18	5	25	9	1	3	10	0	0	16	16	103
活 動 件 数		4		14	9		3	6			13	7	56
出 動 車 両	救助工作車	18	5	25	11	1	4	10			2	16	92
	消防タンク車	5		21	3	1	2	6				5	43
	梯子車												0
	化学車	2		6	6		1	3				6	24
	指揮車・指令車	4		25	9	1	3	10				12	64
	救急自動車	4		28	10	1	3	8				13	67
	その他	4			1						16	1	22
	計	37	5	105	40	4	13	37	0	0	18	53	312
出 動 人 員	専任救助隊員	60	12	51	28	4	11	32			55	40	293
	兼任救助隊員	6	6	39	9		3	3			6	13	85
	消防隊員	42		139	54	5	16	58				70	384
	救急隊員	12		84	31	3	9	24				39	202
	計	120	18	313	122	12	39	117	0	0	61	162	964
活 動 人 員	専任救助隊員	10		12	18		8	11			36	11	106
	兼任救助隊員	6		32	9		3				6	7	63
	消防隊員	21		51	50		13	33				11	179
	救急隊員	3		33	25		9	6				15	91
	計	40	0	128	102	0	33	50	0	0	42	44	439
救出人員		6		14	10		3	6			12	7	58
屋 内	住 居	9						9				1	19
	その他の屋内	7					3	1				1	12
屋 外	道 路	高速自動車道											0
		その他の道路		1	21		1					2	25
	水 面	内 水 面				9						1	10
		外 水 面											0
	山 岳										16		16
	その他の屋外		2	4	4								9
地 下													0
そ の 他												2	2

救助資機材の配置状況(省令指定物品等)

令和7年4月1日現在

品名	配置先			西消防署			予備車	合計	
	中央	芝川	東	西	北	上野			
一般救助用器具	かぎ付はしご	4	1	1	1	2	1	11	
	三連はしご	4		1	2	2	1	11	
	金属製折りたたみはしご	1			1			2	
	ワイヤはしご		1		2	1		4	
	空気式救助マット	1	1		1			3	
	救命索発射装置	1				1		2	
	サバイバースリング	1			1	1		3	
	救助用縛帯	3	3		1	5		12	
	平担架	2				1		3	
排除・切断・破壊用器具	大型油圧ジャッキ	1	1	1	1	1		5	
	アルミニウムジャッキ	1	1		1	1	1	5	
	大型油圧スプレッダー	2	1	1		1		5	
	マット型空気ジャッキ	1	1	1		1		4	
	レスキューエアークッション	1				1		2	
	可搬式ウインチ	3	2	1	2	1		9	
	簡易起重機				1			1	
	マンホール救助器具	1	1		1	1		4	
	大型油圧切断機	2	1	1		1		5	
	油圧切断機	1	1	1		1	1	5	
	レスキューバカッター	1	1	1			1	4	
	空気鋸	1	1			1		3	
	空気式切断機	1				3		4	
	鉄線カッター	7	2	1	4	2	2	18	
	エンジンカッター	1	1	2	1	2	1	1	9
	チェーンソー	4	2	2	2	2	3	1	16
	ガス溶断器	2	1	1	1	1	1		7
	酸素溶断器				1				1
	ハンマードリル	2	1	1	1	2			7
	削岩機	1	1		1				3
万能斧	9	1	1	1	1	1	1	15	
ハンマー	2	2	1	1	1	1		8	
携帯用コンクリート破壊器具	1	1	1	1	1		1	6	
チェーンブロック	3			1	1			5	
救助用支柱器具セット	1			1				2	
測定用具	複合型ガス測定器	5	1	1	2	1	1	12	
	有毒ガス測定器	1						1	
	放射線測定器	2						2	
呼吸保護器具	空気呼吸器	22	4	5	13	9	4	5	62
	酸素呼吸器	5				3			8
	防塵マスク	41	13	13	29	21	13		130
	エアラインマスク								0
	簡易呼吸器	5				3			8
	圧縮空気充填機	1							1
	送排風機	1		1		1			3
加圧排煙機	2							2	

概要

総務

火災

予防

警戒

通信・指令

救助

救急

応援協定

消防団

防火協力団体

品名	配置先	中央消防署			西消防署			非常用タンク車	合計
		中央	芝川	東	西	北	上野		
隊員保護用器具	安全帯	41	13	13	29	21	13	6	136
	防塵メガネ	41	13	13	29	21	13		130
	レスキューコール	10	3	3	7	5	3	4	35
	活線接近警報器	7			1	2			10
	耐電手袋	9	2	2	2	2	4	2	23
	耐電衣	9	2	2	2	2	4	2	23
	耐電ズボン	9	2	2	2	2	4	2	23
	耐電長靴	9	2	2	2	2	4	2	23
	防毒マスク	15				5			20
	陽圧式化学防護服	4				2			6
	化学防護服	26	4	4	6	11	4	4	59
	耐熱服	2	2	2	2	2	2		12
	放射線保護服	4							4
	除染剤散布器	2							2
除染シャワー	2							2	
水難救助器具	救命ボート	1	1		1	1	1		5
	救命胴衣	13	21	5	10	10	9	5	73
	救命浮環	8	5		2	3	1		19
	水中投光器	5							5
	ウェットスーツ	5	3			4	3		15
	ブーツ	20	3			4	3		30
	足ひれ(Cフィン)								0
	マスク	5							5
	シュノーケル	5							5
潜水用ヘルメット	5	3			5	3		16	
山器 岳具	登山器具	31							31
	バスケット担架	4	1	1	2	1	1	1	11
その他の救助用器具	投光器	6	1	2	6	2	1	1	19
	携帯投光器	31	7	7	7	5	8		65
	携帯拡声器	6	1	1	2	2	1	1	14
	応急処置用セット	2	1	1	1	1		1	7
	車両移動器具	1			1				2
	緩降機	1							1
	ロープ登降機	8			1	7			16
	ロープ降下機	10				6			16
	滑車	38	5	2	6	36	2		89
	発電機	5	1	2	4	2	1	1	16
	とび口	13	2	2	6	9	3	2	37
	斧	2	1	1	3	2	1	1	11
	なた	4	5	3	3	2	2	4	23
	金てこ(ボール)	28	5	5	10	16	2	2	68
	鎌	5	7	5	7	5	11	4	44
	鋸	4	7	3	7	5	8	4	38
	つるはし	3	2	1	2		1		9
掛け矢	2	6	1	6		3	1	19	
シャベル	6	20	1	19	10	12	2	70	
鍬		2	3	6	3			14	
鉄筋探知機	1							1	

品名		中央消防署			西消防署			予備車	合計
		中央	芝川	東	西	北	上野		
検 索 用 器 具	赤 外 線 ス コ ー プ		1					1	
	暗 視 ス コ ー プ							0	
	フ ァ イ バ ー ス コ ー プ		1					1	
	画 像 検 索 機							0	
	音 響 探 知 機							0	
支 援 資 器 材	エ ア ー テ ン ト	1			1	1		3	
	隊 員 用 テ ン ト	2				2		4	
	シ ュ ラ フ	16				8		24	
	携 帯 電 話 機	4	1	1	2	2	1	11	
	携 帯 受 信 機							0	
	折 り 畳 み 式 リ ヤ カ ー	1	2	1	1	1		6	
高 度 救 助 器 具	画 像 検 索 機 I 型	1						1	
	画 像 検 索 機 II 型	1						1	
	地 震 警 報 器	1						1	
	夜 間 用 暗 視 装 置	2						2	
	地 中 音 響 探 知 機	1						1	
	熱 画 像 直 視 装 置	2	1	1	1	3	1	9	

※ 地震対策用資機材を含む

概
要

総
務

火
災

予
防

警
防

通
信
・
指
令

救
助

救
急

応
援
協
定

消
防
団

防
火
協
力
団
体

救 急

7 1 1 9

「#」を押してから
「7119」だよ！



© 静岡県

救急安心 電話相談窓口

県内どこからでも利用できます！



© 富士宮市さくやちゃん

急なけがや病気で迷ったときに看護師の相談員がアドバイスしてくれます

【利用上の注意】この電話相談は、相談者の判断の参考としていただくものです

主なアドバイス内容

- 📞 けがや病気の緊急度、対応方法
- 📞 救急車の利用の案内
- 📞 受診できる医療機関の案内
- 📞 その他の相談窓口の紹介

富士宮市消防本部・静岡県

(当事業に関するお問い合わせ)
富士宮市 消防本部 消防総務課
TEL: 0544-22-1198

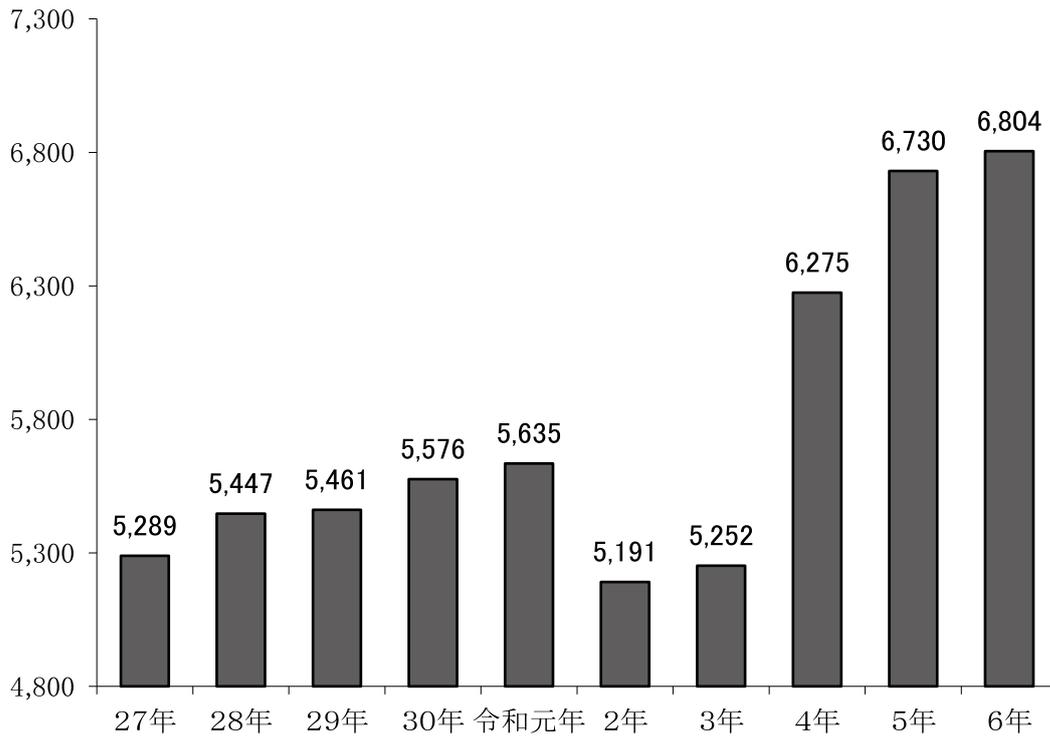
月別事故活動状況

令和6年中

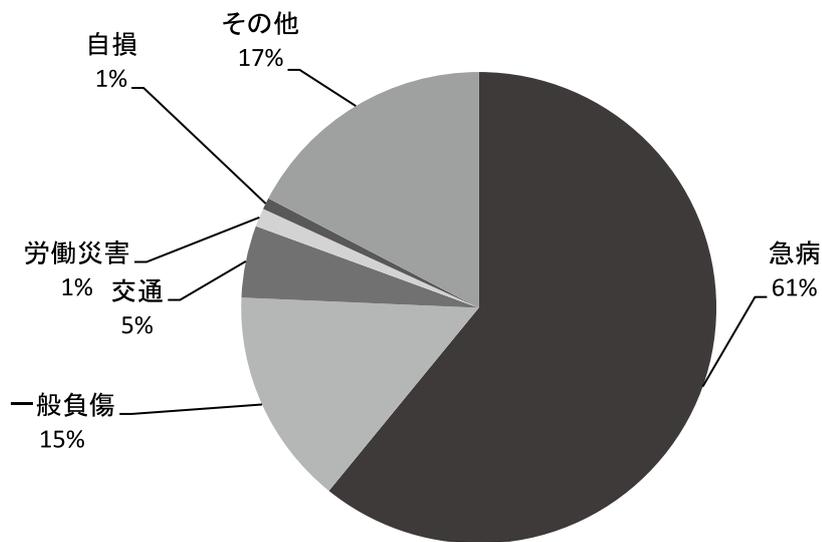
月別	種別		事故内容											その他			
			火災	自然	水難	交通	労働	運動	一般	加害	自損	急病	転院	医師	資材	その他	
	区分	計															
1	出動件数	691	2		1	31	4		103	1	5	415	120			9	
	搬送件数	624			1	25	3		97	1	2	375	120				
	搬送人員	628			1	26	3		97	1	2	378	120				
2	出動件数	502	4			17	4	2	82	1	3	299	88			2	
	搬送件数	448				13	4	2	73		1	267	88				
	搬送人員	450				15	4	2	73		1	267	88				
3	出動件数	500	3			23	4		70	2	1	310	83			4	
	搬送件数	448				21	4		60	2		278	83				
	搬送人員	451				23	4		60	2		279	83				
4	出動件数	488	3			24	8	1	83		5	270	89			5	
	搬送件数	450				20	8	1	77		3	253	88				
	搬送人員	451				20	8	1	77		3	254	88				
5	出動件数	487				22	7	3	74	3	1	300	72	1		4	
	搬送件数	452				22	7	3	67	3	1	277	72				
	搬送人員	452				22	7	3	67	3	1	277	72				
6	出動件数	522				28	6	3	67	1	8	310	93			6	
	搬送件数	483				27	6	3	60	1	4	289	93				
	搬送人員	484				28	6	3	60	1	4	289	93				
7	出動件数	646		1		34	14	2	82		5	425	82			1	
	搬送件数	599				34	14	2	74		4	389	82				
	搬送人員	601				36	14	2	74		4	389	82				
8	出動件数	643	1			34	12	3	83	1	1	408	94			6	
	搬送件数	594				29	12	3	79	1	1	375	94				
	搬送人員	603				37	12	3	79	1	1	376	94				
9	出動件数	538	3			31	8	5	90		8	323	67			3	
	搬送件数	503				27	8	5	85		7	304	67				
	搬送人員	503				27	8	5	85		7	304	67				
10	出動件数	503	3		1	27	6	2	84	3	6	292	75			4	
	搬送件数	473	1			25	6	2	80	3	6	275	75				
	搬送人員	475	1			27	6	2	80	3	6	275	75				
11	出動件数	567	2			33	2	5	71		7	359	86			2	
	搬送件数	532				31	2	5	63		5	340	86				
	搬送人員	535				34	2	5	63		5	340	86				
12	出動件数	717	5		1	32	11	2	120	1	4	430	106			5	
	搬送件数	659	2			30	11	2	110	1	2	395	106				
	搬送人員	659	2			30	11	2	110	1	2	395	106				
計	出動件数	6,804	26	1	3	336	86	28	1,009	13	54	4,141	1,055	1	0	51	
	搬送件数	6,265	3	0	1	304	85	28	925	12	36	3,817	1,054	0	0	0	
	搬送人員	6,292	3	0	1	325	85	28	925	12	36	3,823	1,054	0	0	0	
昨年 同期	出動件数	6,730	26	0	4	341	86	29	966	13	59	4,109	995	0	0	102	
	搬送件数	6,072	5	0	2	315	83	28	884	8	41	3,684	992	0	0	30	
	搬送人員	6,095	5	0	2	332	83	28	885	8	41	3,689	992	0	0	30	
昨年 比較	出動件数	74	0	1	△ 1	△ 5	0	△ 1	43	0	△ 5	32	60	1	0	△ 51	
	搬送件数	193	△ 2	0	△ 1	△ 11	2	0	41	4	△ 5	133	62	0	0	△ 30	
	搬送人員	197	△ 2	0	△ 1	△ 7	2	0	40	4	△ 5	134	62	0	0	△ 30	

概要
総務
火災
予防
警防
通信・指令
救助
救急
応援協定
消防団
防火協力団体

出動件数の推移



事故種別による出動割合

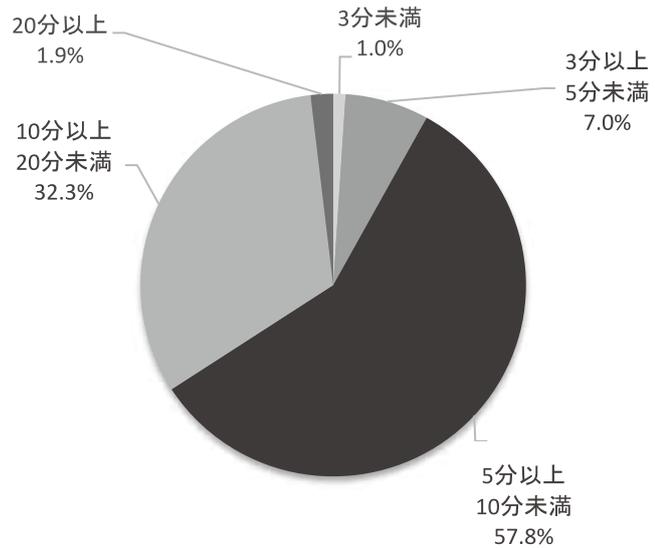


※その他(17%)のうち、転院搬送15%(医療機関から医療機関までの搬送)

出動から現場到着までの所要時間と出動件数

令和6年中

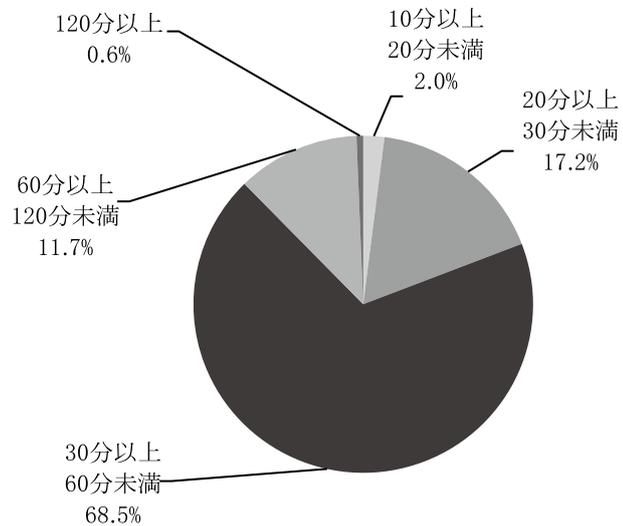
3分未満	70 件
3分以上5分未満	478 件
5分以上10分未満	3,931 件
10分以上20分未満	2,197 件
20分以上	128 件
合計	6,804 件
最短到着時間	0 分
最長到着時間	60 分



出動から医療機関収容までの所要時間と搬送人数

令和6年中

10分未満	0 人
10分以上20分未満	126 人
20分以上30分未満	1,080 人
30分以上60分未満	4,310 人
60分以上120分未満	736 人
120分以上	40 人
合計	6,292 人
最短収容時間	13 分
最長収容時間	423 分



救急講習件数・受講人員

令和6年中

受講団体等 講習名	一般市民 (自主防災会含む)		各種団体 (各種学校等)		事業所		総数	
	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
一般救急講習	9	329	60	1,602	18	303	87	2,234
普通救命講習	14	95	8	102	17	226	39	423

概要

総務

火災

予防

警防

通信・指令

救助

救急

応援協定

消防団

防火協力団体

応急処置別 事故種別実施数

令和6年中

処置別	種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	合計
止血		19	38	125	38	220
固定		8	119	107	31	265
人工呼吸		22		2	3	27
心臓マッサージ		23		3	1	27
心肺蘇生		139	2	16	5	162
酸素吸入		875	28	75	320	1,298
気道確保	※総数	183	2	30	8	223
	※1	4				4
	※2	3		1		4
	※3	28		3	1	32
	※4	3		2		5
保温		534	28	105	115	782
被覆		24	73	205	46	348
在宅療法継続	総数	73		7	1	81
	※A	2				2
	※B					0
	※C	71		7	1	79
ショックパンツ						0
除細動		16			1	17
静脈路確保	CPA前	10	1		4	15
	CPA後	59		10	1	70
薬剤投与		53		11	2	66
その他の処置		4,099	345	985	1,242	6,671
血圧測定		3,855	342	958	1,226	6,381
心音・呼吸音等の聴診		382	29	39	50	500
血中酸素飽和度の測定		3,991	347	978	1,234	6,550
心電図		3,343	134	479	836	4,792
血糖測定		92		1		93
エピペン投与		1				1
ブドウ糖投与		19				19
計		17,820	1,488	4,136	5,164	28,608

※総数・・・下記※1～※4を含め、用手、吸引等による気道確保数を計上。

※1 経鼻エアウェイ、経口エアウェイ

※2 喉頭鏡・鉗子使用

※3 LM等

※4 気管挿管

※A 在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴が施されている傷病者に対して応急処置等を行った件数を内数として記載

※B 気管切開孔又は気管瘻・人工肛門等の外瘻が施されている傷病者に対して応急処置を行った件数を内数として記載

※C ※A・※B以外の在宅療法継続中の傷病者に対して応急処置を行った件数を内数として記載

覚知時間別 事故種別出動回数

令和6年中

種別 時刻	火災	自然 災害	水難	交通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	転院 搬送	医師 搬送	資機 材等	その他	合計
00 時台				1			16	2	4	92	11				126
01 時台				2	1		10		1	65	18			6	103
02 時台	1			2			15	1		82	6			2	109
03 時台				1			10		2	69	16			1	99
04 時台				1	1		8		2	82	9			2	105
05 時台				4	1		14			125	7			2	153
06 時台				8	2		21		2	138	8			2	181
07 時台	2			29	1		37		4	227	12			1	313
08 時台	1			17	1	1	78		4	260	27			3	392
09 時台	4			22	10	3	68	1	3	281	67			3	462
10 時台	1			31	10	4	79	2	1	259	114	1		3	505
11 時台	4			28	9	3	80			243	112			2	481
12 時台	3		1	20	10	3	70	1		233	126			1	468
13 時台	1			22	11	3	62		2	234	68			3	406
14 時台	2			25	9	3	52	3	3	207	48				352
15 時台	1	1		21	7	2	50		2	173	61				318
16 時台	3		1	17	8	3	52		4	207	92			3	390
17 時台	1			22	2		54		3	223	51			4	360
18 時台				20		1	70		3	199	54			3	350
19 時台	1		1	12	1	1	44	2	3	171	39			3	278
20 時台	1			11	1	1	37		2	176	34			1	264
21 時台				6	1		32		5	144	36			1	225
22 時台				10			22	1	3	125	21			3	185
23 時台				4			28		1	126	18			2	179
合 計	26	1	3	336	86	28	1,009	13	54	4,141	1,055	1	0	51	6,804

概要
総務
火災
予防
警防
通信・指令
救助
救急
応援協定
消防団
防火協力団体

曜日別救急出動件数

令和6年中

種別 曜日別	火災	自然 災害	水難	交通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	転院 搬送	医師 搬送	資機 材等	その他	合計
月	3	1		54	16	3	153	4	10	643	167			10	1,064
火	6		1	50	12	3	153	1	9	586	152			7	980
水	3			46	17	2	123	1	8	610	169			5	984
木	5			41	16	6	129		7	558	149			5	916
金	4		1	52	8	4	146	1	7	604	167			4	998
土	2			59	11	3	152	4	5	582	127	1		11	957
日	3		1	34	6	7	153	2	8	558	124			9	905
合計	26	1	3	336	86	28	1,009	13	54	4,141	1,055	1	0	51	6,804

月別救急出動件数

令和6年中

種別 月別	火災	自然 災害	水難	交通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	転院 搬送	医師 搬送	資機 材等	その他	合計
1	2		1	31	4		103	1	5	415	120			9	691
2	4			17	4	2	82	1	3	299	88			2	502
3	3			23	4		70	2	1	310	83			4	500
4	3			24	8	1	83		5	270	89			5	488
5				22	7	3	74	3	1	300	72	1		4	487
6				28	6	3	67	1	8	310	93			6	522
7		1		34	14	2	82		5	425	82			1	646
8	1			34	12	3	83	1	1	408	94			6	643
9	3			31	8	5	90		8	323	67			3	538
10	3		1	27	6	2	84	3	6	292	75			4	503
11	2			33	2	5	71		7	359	86			2	567
12	5		1	32	11	2	120	1	4	430	106			5	717
合計	26	1	3	336	86	28	1,009	13	54	4,141	1,055	1	0	51	6,804

救急関係資器材の配置状況

令和7年4月1日現在

資器材名		所属配置			中央消防署			西消防署			予備車	合計
		中央	芝川	東	西	北	上野					
救急救命 士用器材	半自動除細動器	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
	全自動除細動器	3	1	1	2	2	1			10		
	ビデオ喉頭鏡	1	1	1	2	1	2	1	1	9		
	特定行為用資器材バッグ	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
救命処置 資器材	患者監視モニター	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
	自動心マッサージ器	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
	自動人工呼吸器	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
	血糖値測定器	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
	聴診器	1	2	2	2	1	2	1	1	11		
	血圧計	2	1	2	2	1	1	1	1	10		
	吸引器	2	1	2	1	1	1	1	1	9		
搬送器具	メインストレッチャー	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
	スクープストレッチャー	5	2	2	3	2	2	1	1	17		
	感染症患者搬送装置	2	1	1	1	1	1			7		
一般救急 用器材	酸素吸入蘇生装置	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
	手動式人工呼吸器	1	1	2	1	1	1	1	1	8		
	心肺蘇生用背板	1		1	1	1	1	1	1	6		
	骨折等固定用具	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
	リングカッター	3	1	1	2	1	1	1	1	10		
	分娩セット	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
	バックボード	6	3	4	4	4	3	1	1	25		
	脊椎固定器具		1	1	1	1				4		
破器具 壊具	万能斧	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
	金てこ(ボール)	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
消毒・滅菌 用器材	車内消毒装置(設置型)	1	1						1	3		
	滅菌器	1	1	1	1	1	1	1		6		
	滅菌包装器	1	1	2	1	1	1	1		7		
	オゾン消毒器	1	1	1	1	1	1	1		6		
	UVロッカー	2	1	1	2	1	1	1		8		
教育用 器材	心肺蘇生訓練用人形(成人)	5	3	3	5	3	2			21		
	心肺蘇生訓練用人形(ジュニア)	1			1					2		
	心肺蘇生訓練用人形(ベビー)	1	1	1	1	1	1			6		
	気道管理トレーナー			1		1	1			3		
	アンプ挿管トレーナー	1			1					2		
	静脈採血モデル	1			1	1	1			4		
	分娩介助モデル	1			1					2		
	高度救命訓練用人形		1	1		1	1			4		
	高度救命処置シミュレーター	1			1					2		
	救急関係DVD	2	1	1	1	1	1			7		
	訓練用AED	5	3	3	5	3	5			24		
通信器材	車載用携帯電話	1	1	1	1	1	1	1	1	7		
その他	テロ対策用防毒マスク	3	3	3	3					12		
	トリアージシート	3	3	3	3	1	2			15		

概要

総務

火災

予防

警防

通信・指令

救助

救急

応援協定

消防団

防火協力団体

応援協定関係



緊急消防援助隊指揮支援隊に被害状況を説明

(令和6年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練・消防本部)

1. 消防相互応援協定

各市町村個々の消防力の限界を超える大規模災害及び救急重大事故等に対処するため、消防組織法に基づき次のとおり消防相互応援協定を締結している。

協定名	締結年月日	協定種別	協定締結消防機関等
静岡県消防相互応援協定	平成29年3月10日 再締結	全ての災害	県下全市町
富士市・富士宮市消防相互応援協定	平成27年8月17日 再締結	全ての災害	富士市消防本部
富士宮市と静岡市における消防相互応援に関する協定	平成29年3月22日	全ての災害	静岡市消防局
富士宮市・峡南広域行政組合の消防管轄区域における相互応援に関する協定	令和元年10月1日	全ての災害	峡南広域行政組合消防本部
富士宮市・富士五湖広域行政事務組合消防相互応援協定	平成28年8月26日	全ての災害	富士五湖広域行政事務組合富士五湖消防本部
新東名高速道路における消防相互応援に関する協定	平成24年4月14日	全ての災害	富士市消防本部 静岡市消防局

2. 消防相互応援協定覚書

締結名	締結年月日	締結消防機関等
静岡県消防相互応援協定に基づく覚書	平成29年3月10日	県下全市町
富士市・富士宮市消防相互応援協定に基づく覚書	平成27年8月17日	富士市消防本部
富士宮市と静岡市における消防相互応援の細目に関する覚書	平成29年3月22日	静岡市消防局
富士宮市・峡南広域行政組合の消防管轄区域における相互応援の細目に関する覚書	令和元年10月1日	峡南広域行政組合消防本部
富士宮市・富士五湖広域行政事務組合消防相互応援協定に伴う覚書	平成28年8月26日	富士五湖広域行政事務組合富士五湖消防本部
新東名高速道路における消防相互応援に関する覚書	平成24年4月14日	富士市消防本部 静岡市消防局

3. その他の協定

協定名	締結年月日	協定種別	協定締結機関等
静岡県防災ヘリコプター応援協定	平成29年3月23日	全ての災害	静岡県
ガス爆発事故等防止対策に関する協定書	平成28年9月14日 再締結	ガス漏れ事故 ガス爆発事故等	富士宮警察署 静岡ガス(株)東部導管ネットワークセンター 静岡県LPガス協会富士宮地区会 東京電力パワーグリッド(株)富士支社 中部電力(株)清水営業所
静岡県立総合病院の所有するドクターカーの運用に関する協定	平成28年2月9日	救急事案	静岡県立総合病院
緊急消防援助隊受援計画に基づく施設利用に関する協定書	平成29年1月18日	災害時施設利用	宗教法人大石寺
災害時における支援に関する協定書	令和6年11月7日	消防用水の供給 建設機械の提供等	静岡県富士生コンクリート 協同組合

消防団



令和7年 富士宮市消防出初式

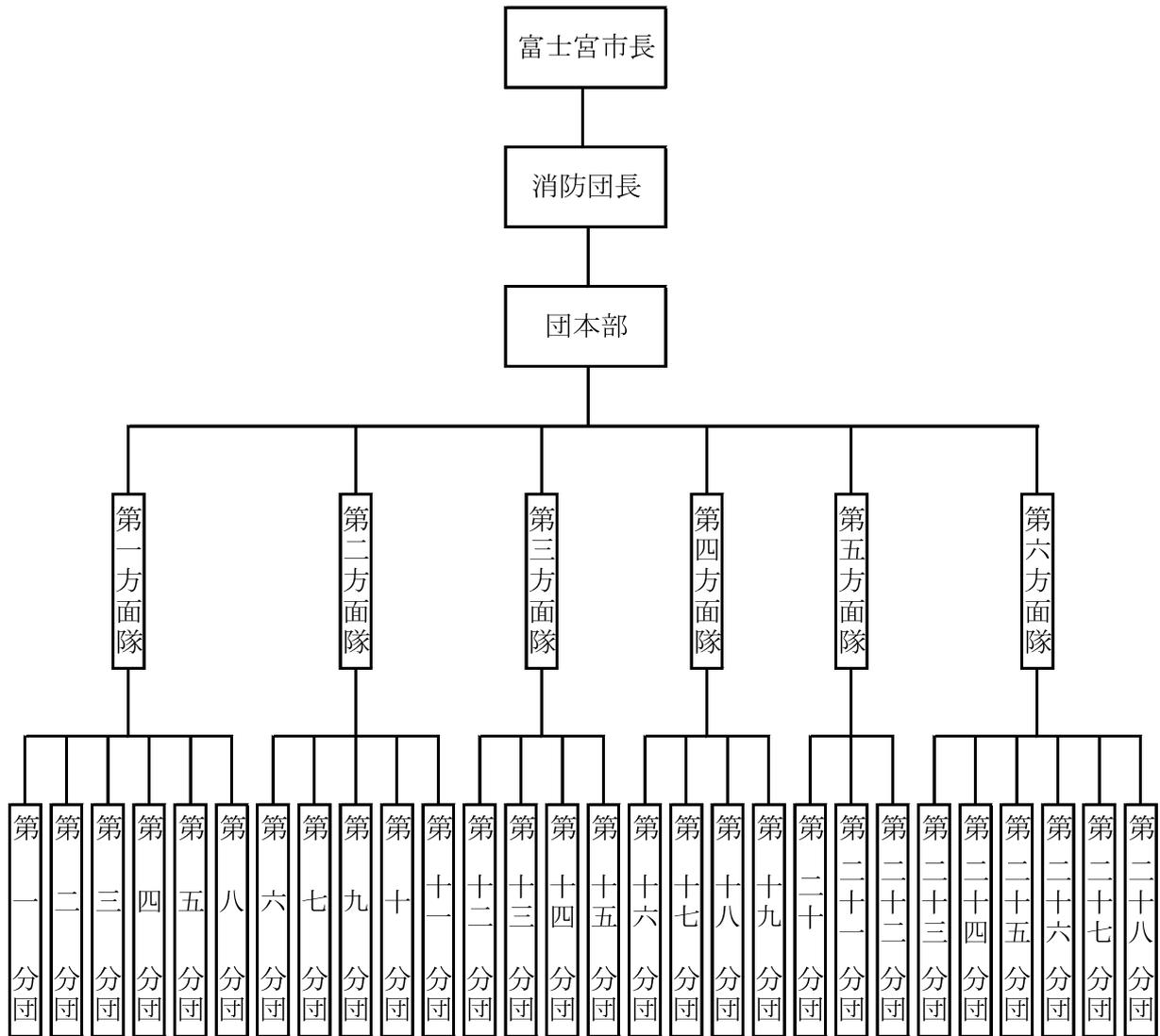


大正13年 大宮町城山防火隊

消防団は、地域の安心安全の中核的な担い手として、住民の生命、身体、財産を災害から守るという強い使命に燃え、勇敢かつ献身的に日々活動を行っています。また、今日発生する災害も社会構造や地球環境の変化、生活様式の多様化等により複雑化・特異化する傾向にあります。このような中で発生する災害に即応できるように組織を編成し効率化を図っています。

富士宮市消防団

組織図



消防団の定員及び実員

令和7年4月1日現在

区分	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員 (うち機能別団員)	合計
定員及び基準数	1	4	45	49	78	159	404 (60)	740
実員	1	4	51	49	75	143	344 (61)	667

歴代消防団長

富士宮市消防団

芝川町消防団

代	氏名	在任期間	代	氏名	在任期間
初代	市ノ瀬 康一	自 S22. 11. 1 至 S24. 3. 31	初代	後藤 勇	自 S32. 4. 1 至 S33. 12. 14
2代	角谷 憲	自 S24. 4. 1 至 S30. 3. 31	2代	風岡 一雄	自 S33. 12. 15 至 S36. 3. 31
3代	後藤 忠雄	自 S30. 4. 1 至 S46. 11. 30	3代	金子 兼治	自 S36. 4. 1 至 S38. 12. 31
4代	佐野 誠一	自 S46. 12. 1 至 S48. 12. 19	4代	風岡 栄	自 S39. 1. 1 至 S41. 12. 14
5代	寺田 銀蔵	自 S48. 12. 20 至 S57. 3. 31	5代	小泉 重利	自 S41. 12. 15 至 S44. 12. 14
6代	小笠原 登	自 S57. 4. 1 至 S61. 3. 10	6代	佐野 卓次郎	自 S44. 12. 15 至 S47. 2. 9
7代	保坂 亨	自 S61. 4. 1 至 H 4. 3. 31	7代	大内 幸雄	自 S47. 2. 10 至 S58. 12. 14
8代	塩川 金次郎	自 H 4. 4. 1 至 H 7. 3. 31	8代	宇佐美 章	自 S58. 12. 15 至 S61. 12. 14
9代	清 功	自 H 7. 4. 1 至 H15. 3. 31	9代	佐野 覚	自 S61. 12. 15 至 H 6. 3. 31
10代	佐野 公康	自 H15. 4. 1 至 H16. 3. 31	10代	望月 克己	自 H 6. 4. 1 至 H10. 3. 31
11代	佐野 貞男	自 H16. 4. 1 至 H20. 3. 31	11代	森 威多留	自 H10. 4. 1 至 H14. 3. 31
12代	佐野 禎彦	自 H20. 4. 1 至 H24. 3. 31	12代	渡邊 三千代	自 H14. 4. 1 至 H17. 3. 31
			13代	萩原 直樹	自 H17. 4. 1 至 H20. 3. 31
			14代	佐野 忠義	自 H20. 4. 1 至 H22. 3. 23

※平成22年3月23日 芝川町は、富士宮市に編入合併

富士宮市消防団

代	氏名	在任期間
12代	佐野 禎彦	自 H20. 4. 1 至 H24. 3. 31
13代	石川 英典	自 H24. 4. 1 至 H25. 3. 31
14代	清 厚博	自 H25. 4. 1 至 H28. 3. 31
15代	植松 昌裕	自 H28. 4. 1 至 H30. 3. 31
16代	佐野 泰信	自 H30. 4. 1 至 R 2. 3. 31
17代	風間 友明	自 R 2. 4. 1 至 現在

消防団員配置状況(実員数)

令和7年4月1日現在

		団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員	機能別団員	計
団 本 部		1	4	23			1	9		38
第1方面隊	第1分団			1	1	2	2	2	1	9
	第2分団			1	1	2	4	8	3	19
	第3分団			1	1	2	4	8	4	20
	第4分団			1	1	2	4	7	2	17
	第5分団			1	1	2	4	6	2	16
	第8分団			1	1	2	3	6	3	16
第2方面隊	第6分団			1	3	6	12	14	3	39
	第7分団			1	1	2	2	5		11
	第9分団			1	1	2	3	7		14
	第10分団			1	2	2	3	3	5	16
	第11分団			1	3	3	6	3	2	18
第3方面隊	第12分団			1	2	3	4	8	2	20
	第13分団			1	1	2	4	1	1	10
	第14分団			1	2	4	8	0	5	20
	第15分団			1	3	4	8	14	4	34
第4方面隊	第16分団			1	2	2	4	18	2	29
	第17分団			1	3	3	7	23	3	40
	第18分団			1	2	2	5	9	2	21
	第19分団			1	3	3	6	13	2	28
第5方面隊	第20分団			1	3	3	8	15	3	33
	第21分団			1	3	5	10	20	2	41
	第22分団			1	3	5	6	16	2	33
第6方面隊	第23分団			1	1	2	4	15	2	25
	第24分団			1	1	2	4	2	2	12
	第25分団			1	1	2	4	18		26
	第26分団			1	1	2	5	10	2	21
	第27分団			1	1	2	4	10		18
	第28分団			1	1	2	4	13	2	23
合 計		1	4	51	49	75	143	283	61	667

概 要

総 務

火 災

予 防

警 防

通 信・指 令

救 助

救 急

応 援 協 定

消 防 団

防 火 協 力 団 体

年度別消防団員入団及び退団の推移

令和7年3月31日現在

年度	定員	実員	入団	退団		退 団 者 内 訳						
				年度末	途中	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
H18	650	615	53	44				8	6	4	9	17
H19	650	611	36	44		1		11	3	3	6	20
H20	650	601	35	46				6	7	1	6	26
※H21	810	751	40	84		1	2	19	7	8	12	35
H22	810	744	53	55	3			6	7	7	9	27
H23	810	743	56	68	2	1	1	16	3	9	12	28
H24	810	721	49	38	3	1		6	3	6	9	16
H25	810	715	35	39	3			9	4	3	7	19
H26	810	727	55	36	4			4	4	4	9	19
H27	810	740	53	56	4	1	1	8	6	3	10	31
H28	810	733	53	60	4		1	3	2	5	9	44
H29	810	705	36	50	4	1		12	4	5	5	27
H30	810	696	42	38	1			2	1	5	9	22
R1	810	697	43	54	4	1	1	13	2	3	5	33
R2	810	666	26	30	3			4	2	3	3	21
R3	810	659	26	44	3			4	5	6	6	26
R4	740	679	69 (32)	35	5			4	2	4	6	25
R5	740	635	34 (7)	37	6 (1)		1	7	1	1	6	27 (1)
R6	740	688	41 (14)	45 (1)	3			4	1	4	10	29 (1)

【平成22年3月23日 芝川町消防団と統合】

()うち機能別

【実員については、3月31日付退団者は含まない。】

消防団員階級別年齢

令和7年4月1日現在

階級 \ 年齢	18	20	25	30	35	40	45	50	55	60	計
	 19	 24	 29	 34	 39	 44	 49	 54	 59	以上	
団 長										1	1
副 団 長									1	3	4
分 団 長						3	16	15	11	6	51
副 分 団 長					3	12	13	11	7	3	49
部 長				2	7	24	30	11	1		75
班 長		1	5	11	29	46	29	16	5	1	143
団 員		13	28	38	45	31	71	65	28	25	344
合 計	0	14	33	51	84	116	159	118	53	39	667

消防団員階級別在職年数

令和7年4月1日現在

階級 \ 年数	5年	5年以上	10年以上	15年以上	20年以上	25年以上	30年	計
	未満	10年未満	15年未満	20年未満	25年未満	30年未満	以 上	
団 長							1	1
副 団 長							4	4
分 団 長			2	6	21	14	8	51
副 分 団 長			10	21	10	6	2	49
部 長		4	25	35	11			75
班 長	3	45	53	30	8	4		143
団 員	117	86	26	36	44	26	9	344
合 計	120	135	116	128	94	50	24	667

概
要

総
務

火
災

予
防

警
防

通
信・指
令

救
助

救
急

応
援協
定

消
防団

防
火協
力団
体

消防団消防車両配置状況

令和7年4月1日現在

- ① マイクロバス 1 台
- ② 水槽付消防ポンプ自動車 8 台
- ③ 普通消防ポンプ自動車 26 台
- ④ 小型動力ポンプ付積載車(軽四輪) 2 台
- ⑤ 小型動力ポンプ付積載車 4 台
- ⑥ 資機材搬送車(軽4WDトラックタイプ) 5 台
- ⑦ 小型動力ポンプ 47 台

(B-2級 2台・B-3級 11台・C-1級 34台)

分 団	配置場所	登録番号	車 名	ポンプ性能	購入年月	製作会社	備 考
団本部	弓 沢 町	富士山240さ223	日 産		H18.1		マ イ ク ロ バ ス
				B 3 級	H21.8	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ (訓 練 用)
				B 2 級	H28.3	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ (訓 練 用)
第1分団	中 央 町	富士山804ひ1	いすゞ	A 2 級	R5.3	ジ-エムいちほら	普 通 消 防 ポ ン プ 自 動 車
				C 1 級	H16.10	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
第2分団	元 城 町	富士山840に2	いすゞ	A 2 級	R3.3	畠山ポンプ	普 通 消 防 ポ ン プ 自 動 車
				C 1 級	H12.7	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
第3分団	宮 町	富士山840ぬ3	いすゞ	A 2 級	R6.2	小川ポンプ	普 通 消 防 ポ ン プ 自 動 車 (4WD)
				C 1 級	H11.3	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
第4分団	西 町	富士山840そ4	いすゞ	A 2 級	H29.12	ジ-エムいちほら	普 通 消 防 ポ ン プ 自 動 車 (4WD)
				C 1 級	H13.8	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
第5分団	弓 沢 町	富士山840す5	いすゞ	A 2 級	H18.2	ジ-エムいちほら	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 自 動 車
				C 1 級	H19.10	マキタ沼津	小 型 動 力 ポ ン プ
第6分団	淀 師	富士山840す6	いすゞ	A 2 級	H21.2	ジ-エムいちほら	普 通 消 防 ポ ン プ 自 動 車 (4WD)
				C 1 級	H6.12	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
	青 木	富士山840て6	いすゞ	A 2 級	H24.1	日本ドライ	普 通 消 防 ポ ン プ 自 動 車 (4WD)
				C 1 級	H10.2	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
	外 神	富士山840ね6	いすゞ	A 2 級	H28.3	畠山ポンプ	普 通 消 防 ポ ン プ 自 動 車 (4WD)
				C 1 級	H26.10	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ
第7分団	大 中 里	富士山803な7	いすゞ	A 2 級	R2.3	日本ドライ	普 通 消 防 ポ ン プ 自 動 車
				C 1 級	H24.11	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ
第8分団	万 野 原	富士山803た8	いすゞ	A 2 級	H17.2	日本ドライ	普 通 消 防 ポ ン プ 自 動 車 (4WD)
	新 田			C 1 級	H31.1	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ

分 団	配置場所	登 録 番 号	車 名	ポンプ 性 能	購入年月	製 作 会 社	備 考
第9分団	野 中	富士山840せ9	いすゞ	A 2 級	H23. 1	ジー・エムいちほら	普通消防ポンプ自動車(4WD)
				C 1 級	H17. 10	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
第10分団	安 居 山	富士山840せ119	いすゞ	A 2 級	H16. 11	モリタ	水槽付消防ポンプ自動車
				C 1 級	H28. 3	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ
	沼 久 保	富士山840ち10	いすゞ	B 3 級	H26. 2	旭産業	小型動力ポンプ付積載車(4WD) (ト ー ハ ツ)
第11分団	黒 田	富士山840ね11	いすゞ	A 2 級	H29. 1	ジー・エムいちほら	普通消防ポンプ自動車(4WD)
				C 1 級	H29. 1	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ
	星 山	富士山840す11	いすゞ	A 2 級	H21. 2	ジー・エムいちほら	普通消防ポンプ自動車(4WD)
				C 1 級	H 9. 2	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
	貫 戸	富士山881あ21	スバル	B 3 級	H21. 2	マキタ沼津	小型動力ポンプ付積載車(軽四輪)
	第12分団	小 泉	富士山840て12	いすゞ	A 2 級	R5. 2	小川ポンプ
				C 1 級	H26. 10	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ
山 本		富士山840つ12	いすゞ	A 2 級	R4. 1	日本ドライ	水槽付消防ポンプ自動車
				C 1 級	H29. 1	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ
第13分団	杉 田	富士山840す13	いすゞ	A 2 級	H18. 2	日本ドライ	普通消防ポンプ自動車(4WD)
				C 1 級	H 2. 1	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
第14分団	小 泉	富士山840そ14	いすゞ	A 2 級	H26. 11	モリタ	普通消防ポンプ自動車(4WD)
				C 1 級	H23. 1	マキタ沼津	小 型 動 力 ポ ン プ
	大 岩	富士山840せ14	いすゞ	A 2 級	H23. 1	ジー・エムいちほら	普通消防ポンプ自動車(4WD)
				C 1 級	R1. 12	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ
第15分団	神 成	富士山840ぬ15	いすゞ	A 2 級	H29. 12	ジー・エムいちほら	普通消防ポンプ自動車(4WD)
				C 1 級	H14. 9	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
	二 又	富士山840せ15	いすゞ	A 2 級	H20. 2	日本ドライ	普通消防ポンプ自動車
				C 1 級	H 2. 1	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
	村 山	富士山840に15	いすゞ	B 3 級	H28. 3	畠山ポンプ	小型動力ポンプ付積載車(4WD) (ト ー ハ ツ)
	第16分団	山 宮	富士山803さ366	いすゞ	A 2 級	H20. 2	日本ドライ
				C 1 級	H25. 12	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ

概要

総務

火災

予防

警防

通信・指令

救助

救急

応援協定

消防団

防火協力団体

分 団	配置場所	登録番号	車名	ポンプ性能	購入年月	製作会社	備 考
第17分団	上 組	富士山840せ17	いすゞ	A 2 級	H24. 1	日本ドライ	普通消防ポンプ自動車(4WD)
		富士山488ほ17	スズキ		R5. 3	峰自動車	資 機 材 搬 送 車 (軽4WDトラックタイプ)
				C 1 級	S62. 12	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
第18分団	上 条	富士山840せ18	いすゞ	A 2 級	H25. 1	ジ-エムいちほら	普通消防ポンプ自動車(4WD)
				C 1 級	H31. 1	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ
		富士山488ね18	スズキ		R2. 1	峰自動車	資 機 材 搬 送 車 (軽4WDトラックタイプ)
第19分団	下 条	富士山840た19	いすゞ	A 2 級	H31. 2	日本ドライ	水槽付消防ポンプ自動車
		富士山481か568	スズキ		H31. 2	峰自動車	資 機 材 搬 送 車 (軽4WDトラックタイプ)
				C 1 級	H31. 1	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ
	妙蓮寺	富士山840せ19	いすゞ	B 3 級	H26. 2	旭産業	小型動力ポンプ付積載車(4WD) (ト ー ハ ツ)
第20分団	上井出	富士山840そ20	いすゞ	A 2 級	H29. 1	ジ-エムいちほら	水槽付消防ポンプ自動車(4WD)
				C 1 級	H12. 2	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
	東			B 3 級	H12. 7	富士ロビン	小型動力ポンプ(台車付)
	芝山			B 3 級	H18. 11	富士ロビン	小型動力ポンプ(台車付)
	人穴	富士山803さ368	いすゞ	B 3 級	H16. 2	日本ドライ	小型動力ポンプ付積載車 (富 士 ロ ビ ン)
第21分団	猪之頭	富士山840す21	いすゞ	A 2 級	H22. 2	ジ-エムいちほら	普通消防ポンプ自動車(4WD)
		富士山488た21	スズキ		R4. 3	峰自動車	資 機 材 搬 送 車 (軽4WDトラックタイプ)
				C 1 級	R1. 12	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ
	富士丘			B 3 級	H26. 10	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ
	麓	富士山888あ21	ダイハツ	B 2 級	H29. 1	トーハツ	小型動力ポンプ付積載車(軽四輪)
第22分団	原	富士山840せ22	いすゞ	A 2 級	H22. 2	ジ-エムいちほら	普通消防ポンプ自動車(4WD)
		富士山481き8670	スズキ		R6. 3	峰自動車	資 機 材 搬 送 車 (軽4WDトラックタイプ)
				C 1 級	H15. 9	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
	横手沢			B 3 級	H20. 9	富士ロビン	小 型 動 力 ポ ン プ
	半野			B 3 級	H9. 2	富士ロビン	小型動力ポンプ(台車付)
第23分団	下柚野	富士山840と23	いすゞ	A 2 級	R6. 2	小川ポンプ	普通消防ポンプ自動車(4WD)
				C 1 級	H20. 12	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ
第24分団	上稲子	富士山840ち24	いすゞ	A 2 級	H26. 11	モリタ	普通消防ポンプ自動車(4WD)
				C 1 級	H20. 12	トーハツ	小 型 動 力 ポ ン プ

分 団	配置場所	登 録 番 号	車 名	ポンプ性能	購入年月	製作会社	備 考
第25分団	尾 崎	富士山840ち25	いすゞ	A 2 級	H21.12	モリタ	普通消防ポンプ自動車
				C 1 級	H21.11	トーハツ	小型動力ポンプ
第26分団	巡 沢	富士山840ち26	いすゞ	A 2 級	R4.1	日本ドライ	水槽付消防ポンプ自動車
				C 1 級	H21.11	トーハツ	小型動力ポンプ
第27分団	川 合	富士山840て27	いすゞ	A 2 級	R3.3	小川ポンプ	水槽付消防ポンプ自動車
				C 1 級	H21.11	トーハツ	小型動力ポンプ
第28分団	西 山 下	富士山840た28	いすゞ	A 2 級	H25.1	ジ-ェムいちほら	普通消防ポンプ自動車(4WD)
				C 1 級	H21.11	トーハツ	小型動力ポンプ

概要

総務

火災

予防

警防

通信・指令

救助

救急

応援協定

消防団

防火協力団体

消 防 団 詰 所 一 覧 表

令和7年4月1日現在

分 団	建築物用途	構 造	階数	建築面積 ㎡	延床面積 ㎡	敷地面積 ㎡	建築年月日	所 在 地
1	詰所兼車庫	鉄骨造アスファルトシングル葺	2	51.4	102.8	164.15	H 9. 3	中央町9-10
2	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	38.35	76.7	194.44	H 5. 12	元城町3-4
3	詰所兼車庫	鉄骨造アスファルトシングル葺	2	55.15	102.8	327.47	H15. 8	宮町1-1
4	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	32.61	68.77	51.94	S60. 3	西町10-6
5	詰所兼車庫	鉄 骨 造 鋼 板 葺	2	65	117	219.5	H17. 2	弓沢町137
6 (外神)	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	38.4	76.8	132.08	H 7. 3	外神8-9
6 (淀師)	詰所兼車庫	鉄骨造アスファルトシングル葺	2	51.4	102.8	182.22	H21. 2	淀平町50
6 (青木)	詰所兼車庫	鉄骨造アスファルトシングル葺	2	51.4	102.8	330	H11. 3	青木1182-4
7	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	38.4	76.8	293.61	H 7. 3	大中里438-14
8	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	38.4	76.8	330	H 8. 3	万野原新田3287-11
9	詰所兼車庫	鉄骨造アスファルトシングル葺	2	56.15	102.8	217.76	H18. 2	野中町608
10 (沼久保)	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	32.1	64.2	321.89	H 6. 3	沼久保25-5
10 (安居山)	詰所兼車庫	鉄筋・鉄骨造カラーアルミ葺	2	65	117	201	H10. 3	安居山607-2
11 (貫戸)	詰所兼車庫	木 造 ト タ ン 葺	1	19.87	19.87	19.87	S56. 3	貫戸259-1
11 (黒田)	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	33.34	65.22	85	S56. 3	黒田270-3
11 (星山)	詰所兼車庫	鉄 骨 造 シ ン グ ル 葺	2	51.40	101.94	327.37	H27. 3	星山126-1
12 (小泉)	詰所兼車庫	鉄 骨 造 鋼 板 葺	2	65	117	231	H13. 2	小泉539-1
12 (山本)	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	38.7	77.4	333	H 2. 3	山本540-4
13	詰所兼車庫	鉄骨造アスファルトシングル葺	2	56.15	102.8	294	H19. 3	杉田1230-6
14 (小泉)	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	38.35	76.7	192.78	H 1. 3	小泉1864
14 (大岩)	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	51.4	101.94	361.66	H25. 3	大岩1477-4
15 (村山)	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	1	61.93	60.27	148.03	S57. 3	村山1242-3
15 (神成)	詰所兼車庫	鉄 骨 造 シ ン グ ル 葺	2	51.4	101.94	246.18	H29. 3	村山102-13
15 (二又)	詰所兼車庫	鉄骨造アスファルトシングル葺	2	51.4	102.8	337.66	H23. 3	栗倉918-6
16	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	41.3	77.63	163.15	S57. 6	山宮1591-3
17 (上組)	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	60	120	178.24	S60. 3	北山1529-4
18	詰所兼車庫	鉄骨造カラーステンレス鋼板横葺	2	90.48	165.02	298.82	R3. 3	上条232-1
19 (下条)	詰所兼車庫	鉄骨造カラーステンレス鋼板横葺	2	90.48	165.02	338.57	H31. 2	下条139-1
19 (妙蓮寺)	詰所兼車庫	鉄 骨 造 折 板 葺	1	52.31	52.31	214.94	S56. 3	下条719

分 団	建築物用途	構 造	階 数	建築面積 m ²	延床面積 m ²	敷地面積 m ²	建築年月日	所 在 地
20 (芝山)	機 具 置 場	木 造 ト タ ン 葺	1	19.87	19.87	19.87	S56. 3	上井出880-2
20 (東)	機 具 置 場	ブ ロ ッ ク 造 ト タ ン 葺	1	25.11	25.11	25.11	S50.	上井出2233-3
20 (人穴)	詰 所 兼 車 庫	鉄 骨 造 折 板 葺	1	52.3	52.3	190.05	S60. 11	人穴383-2
20 (上井出)	詰 所 兼 車 庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	89.3	162.1	863.11	S59. 3	上井出603-1
21 (猪之頭)	詰 所 兼 車 庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	73.22	146.44	304	S58. 3	猪之頭217-7
21 (麓)	車 庫	木 造 ト タ ン 葺	1	19.87	19.87		S60. 11	麓61
21 (富士丘)	機 具 置 場	ブ ロ ッ ク 造	1	6.3	6.3		S30. 頃	根原341-1
22 (内野・足形)	機 具 置 場	ブ ロ ッ ク 造	1	9.03	9.03		S43.	内野1030-5
22 (原)	詰 所 兼 車 庫	鉄 骨 造 折 板 葺	2	72.75	145.5	224.4	S63.	原1114-6
22 (狩宿)	機 具 置 場	ブ ロ ッ ク 造	1	6.12	6.12		S48. 11	狩宿78-4
22 (内野・横手沢)	機 具 置 場	ブ ロ ッ ク 造	1	9.76	9.76		S44. 4	内野22-1
22 (内野・川久保)	機 具 置 場	鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 造	1	6.3	6.3		H 9. 3	内野339
23 (柚野)	詰 所 兼 車 庫	鉄 骨 造 折 板 葺	1	76.58	76.58	387.48	H17. 12	下柚野336-1
24 (稲子)	詰 所 兼 車 庫	鉄骨造アスファルトシングル葺	2	39.59	79.18	45.87	H13. 1	上稲子3850-8
25 (内房3・4区)	詰 所 兼 車 庫	鉄 骨 造 折 板 葺	1	77.4	77.4	245.48	S61. 1	内房3142-2
26 (内房1・2区)	詰 所 兼 車 庫	鉄骨造アスファルトシングル葺	2	39.65	79.29	23	H10. 12	内房4058-4
27 (長貫・羽餅)	詰 所 兼 車 庫	鉄骨造アスファルトシングル葺	2	38.7	77.4	102.26	H17. 3	長貫1217-2
28 (西山・大久保)	詰 所 兼 車 庫	鉄骨造アスファルトシングル葺	2	38.7	77.4	131	H18. 2	西山1388-4

概要

総務

火災

予防

警防

通信・指令

救助

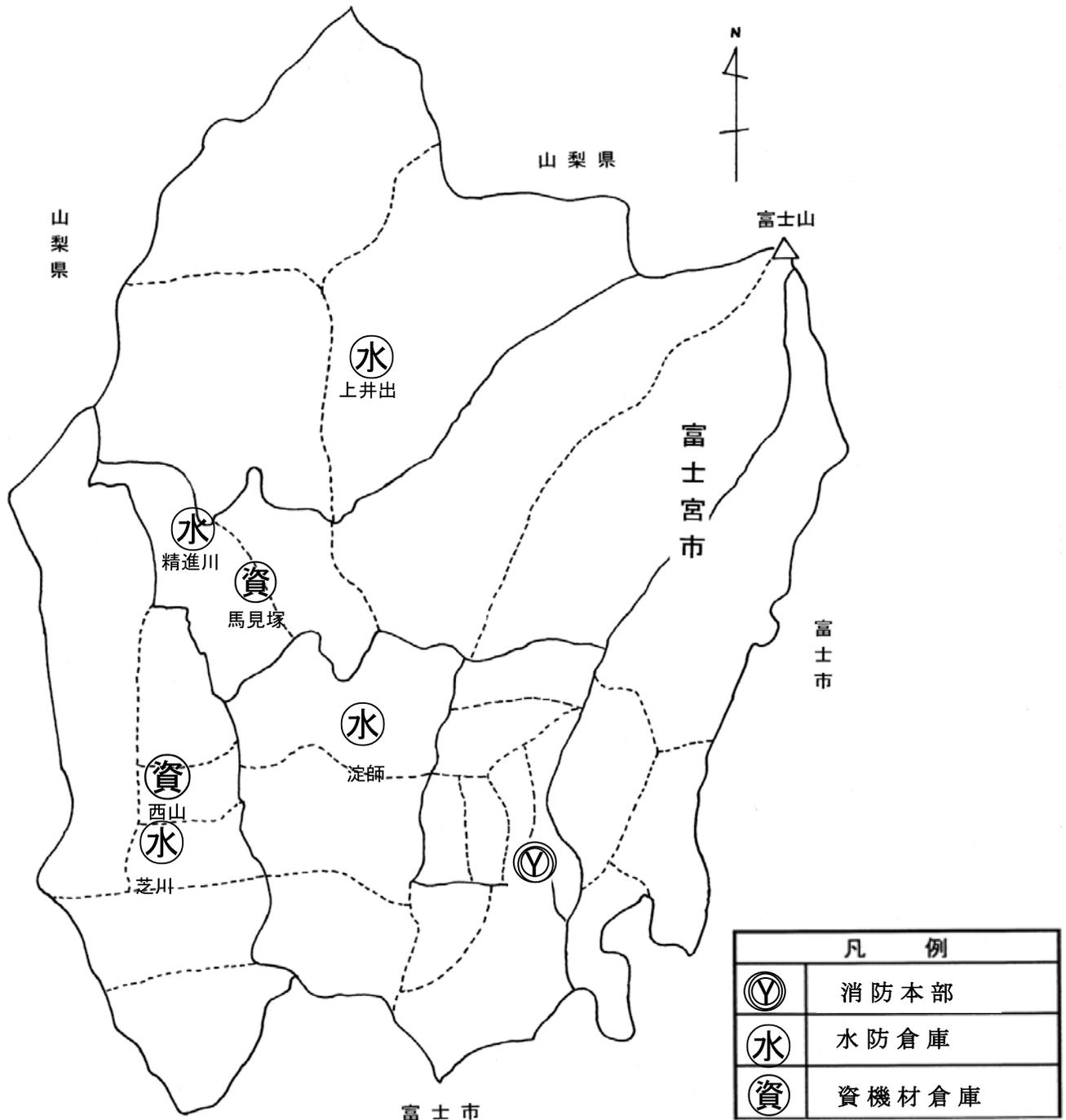
救急

応援協定

消防団

防火協力団体

水防倉庫・資機材倉庫配置図

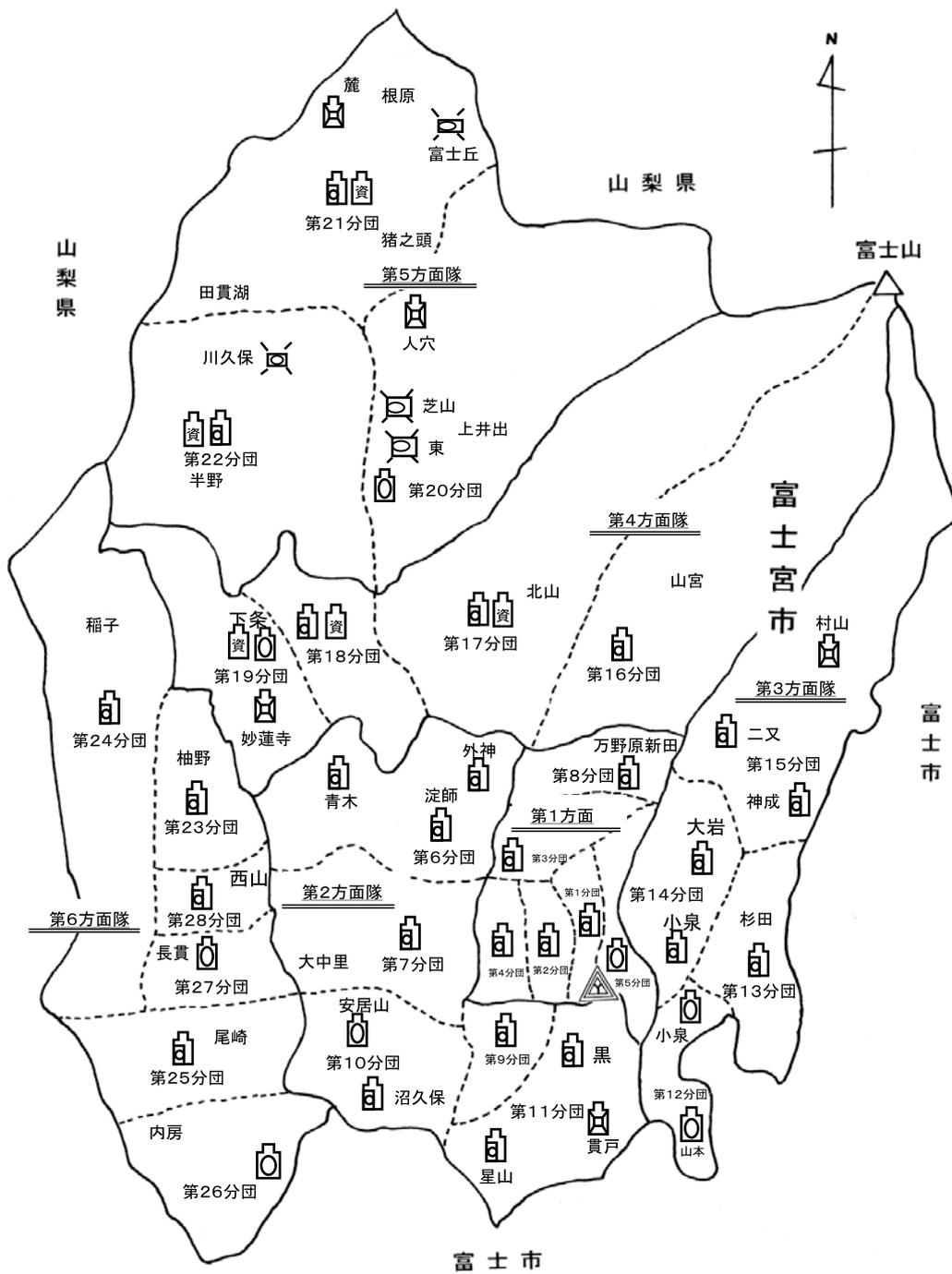


凡 例	
Ⓜ	消防本部
Ⓢ	水防倉庫
Ⓢ	資機材倉庫

水防倉庫・消防資機材倉庫一覧表

建物名称	構造	階数	延床面積	建築年月日	所在地
上井出水防倉庫	鉄骨造	1	16.52㎡	S59.3	上井出603-2
淀師水防倉庫	鉄骨造	1	95.30㎡	H2.3	穂波町4-11
精進川水防倉庫	鉄骨造	1	52.3㎡	S62.3	精進川419-2
芝川水防倉庫	鉄骨造	1	196.05㎡	H7.3	長貫753-1
馬見塚資機材倉庫	鉄骨造	1	52.3㎡	H4.3	馬見塚401-2
西山資機材倉庫	軽量鉄骨	1	14.00㎡	H12.9	西山895-1地先

消防団車両配置図



凡 例	
	消防団本部
	水槽付
	消防ポンプ自動車
	消防ポンプ自動車 小型動力ポンプ搭載
	小型動力ポンプ付積載車
	資機材搬送車
	小型動力ポンプ(台車付)

概要
 総務
 火災
 予防
 警戒
 通信・指令
 救助
 救急
 応援協定
消防団
 防火協力団体

消防団協力事業所表示制度により、表示証の交付を受けた団体(一覧)

	交付事業所名	初回表示	有効期限
1	株式会社 アマダ 富士宮事業所	H19.12	R9.3
2	富士伊豆農業協同組合 富士宮地区本部	H19.12	R9.3
3	富士フィルム株式会社マテリアル 生産本部富士宮事業場	H19.12	R9.3
4	東亜富士巧業株式会社	H20.12	R9.3
5	カナエ工業株式会社	H20.12	R9.3
6	富士設計株式会社	H23.2	R9.3
7	株式会社アリエ	H23.2	R9.3
8	有限会社後藤倉庫	H24.10	R9.3
9	芝川塗装株式会社	H25. 2	R9.3
10	山本ゲーゼル工業株式会社	H25. 2	R9.3
11	富士宮通運株式会社	H25.3	R9.3
12	かわむら呉服店	H25.3	R9.3
13	塗装工芸株式会社	H25. 9	R9.3
14	株式会社アスティー	H25. 12	R9.3
15	株式会社赤池商会	H27.4	R9.3
16	株式会社日之出商会	H27.11	R9.3
17	有限会社依田造園	H28.1	R9.3
18	風間建築	H28. 2	R9.3
19	株式会社伊東建築	H28.4	R9.3
20	宝造園	H28.5	R9.3
21	インテリアしのはら	H28.5	R9.3
22	大宮精機株式会社	H28.6	R9.3
23	税理士法人IBS	H28.8	R9.3
24	赤池造園株式会社	H28.8	R9.3
25	岡重株式会社	H28.11	R9.3
26	光陽建設株式会社	H29.1	R9.3
27	イマジン	H29.3	R9.3
28	スマヤ株式会社	H29.4	R9.3
29	安永左官工業	H29.5	R9.3
30	株式会社アミノ	H29.8	R9.3
31	株式会社寶屋	H30.5	R9.3
32	有限会社坪井組	H30.6	R9.3

	交付事業所名	初回表示	有効期限
33	株式会社藤弘工業	H30.7	R9.3
34	たいよう接骨院	H30.10	R9.3
35	株式会社渡邊自動車商会	H30.11	R9.3
36	株式会社新精工業	H31.3	R9.3
37	有限会社日東工機	H31.4	R9.3
38	株式会社秀工務店	R1.7	R9.3
39	有限会社スギヤマ制作	R1.7	R9.3
40	株式会社エージェントうさみ	R1.9	R9.3
41	株式会社ちゅら富士動物病院	R1.11	R9.3
42	保坂測量	R2.7	R9.3
43	花の店フロリダ	R2.7	R9.3
44	有限会社笹原自動車	R2.10	R9.3
45	セブンイレブン富士宮黒田店	R2.12	R9.3
46	株式会社エヌビー精密	R3.1	R9.3
47	富士コンクリートサービス株式会社	R3.4	R9.3
48	株式会社ランバーリング・カツマタ	R3.4	R9.3
49	株式会社江戸屋本店	R3.4	R9.3
50	日本製パン株式会社 富士宮工場	R3.4	R9.3
51	有限会社フジタ産業	R3.6	R9.3
52	株式会社日誠電工	R3.6	R9.3
53	ユウアンドアイ	R4.2	R9.3
54	Apex株式会社	R4.3	R9.3
55	有限会社大石	R4.5	R9.3
56	富士カプセル株式会社	R4.9	R9.3
57	株式会社ニッポー	R4.9	R9.3
58	清観光株式会社	R5.4	R9.3
59	立宿望月晷店	R5.12	R9.3
60	有限会社村松設備	R6.3	R9.3
61	有限会社石川住設	R6.4	R9.3
62	株式会社東海ヒット	R6.8	R9.3
63	株式会社上健	R6.9	R9.3

消防団協力事業所が、地域への社会貢献を果たしていることを、社会的に評価することにより協力事業所の信頼性の向上につながり、消防団と事業所等との連携・協力体制が一層強化されることによって、地域における消防・防災体制の充実強化を図ることを目的とする制度です。

令和7年4月1日現在、管内の63事業所に表示証が交付されています。

防火協力団体



防火安全協会



少年消防クラブ



婦人防火クラブ



幼年消防クラブ



富士宮市防火安全協会

沿革

昭和40年 7月15日	富士宮市危険物安全協会設立
昭和48年 4月 1日	富士宮市芝川町危険物安全協会に名称変更
昭和59年10月11日	富士宮市芝川町防火協会設立
昭和60年 3月 7日	第1回消火技術競技大会の実施 (市立上井出小学校グラウンド)
平成 4年 5月26日	富士宮市芝川町防火安全協会発足
平成22年 3月23日	富士宮市防火安全協会に名称変更

防火安全協会は、会員数533事業所（令和7年4月1日現在）で組織され事業所の防火、危険物管理の向上と火災予防の徹底を図ることを目的に、富士宮市の事業所が会員となり運営しております。

協会の事業としては、他の防火協力団体と共催し、春秋の火災予防運動期間中の広報活動や防火ポスター展の実施、機関誌「そなえ」の発行を行っており、さらに、毎年開催される消火技術競技大会では、迅速かつ適切な通報、伝達、消火方法及び火災初期に対応する技術の習得を目的に実施しており、多くの事業所に参加していただいております。

その他にも、普通救命講習会などを開催し、幅広い活動を行っています。



普通救命講習会



消火技術競技大会



防火ポスター表彰

概要

総務

火災

予防

警防

通信・指令

救助

救急

応援協定

消防団

防火協力団体



婦人防火クラブ

沿革

昭和57年4月 1日	富士宮市芝川町幼少年婦人防火委員会発足
昭和57年6月 9日	富士宮地区婦人防火クラブ結成
昭和63年4月22日	富士宮市芝川町婦人防火クラブに移行
平成22年3月23日	富士宮市婦人防火クラブに名称変更

婦人防火クラブは、会員数45人（令和7年4月1日現在）で組織され、家庭における火災等の災害を自ら守るという精神に基づき、火災予防の知識や地震等の対策について研究し、火災のない明るい家庭づくりと、安全な地域社会をめざし昭和57年に結成されました。

毎年、実施している視察研修では、県内外の施設に赴き、施設見学や講義を通じて防火・防災の意識高揚を図ることを目的としています。

また、静岡県消防学校体験入校では、ロープの結び方、傷病者の搬送方法及び放水体験を行っています。

その他、消火技術競技大会に出場、消防フェスティバルや消防出初式に参加する等、防火に関する幅広い活動を行っています。



視察研修 沼津港大型展望水門びゅうお



少年消防クラブ

沿革

昭和57年 4月 1日	富士宮市芝川町幼少年婦人防火委員会発足
昭和60年 4月 1日	富士宮市立大宮小学校少年消防クラブ結成
昭和63年 4月 1日	黒田学童クラブ少年消防クラブ結成
平成22年 3月23日	富士宮市幼少年婦人防火委員会に名称変更
平成24年 4月 1日	児童クラブ吉美少年消防クラブ、富丘学童少年消防クラブ結成
平成28年 4月 1日	貴船学童少年消防クラブ結成
平成30年 4月 1日	あおぞら児童少年消防クラブ結成

少年消防クラブの目的は、少年（少女）たちが火災を予防する方法や火についての問題を身近な生活の中に見出し、お互いに研究してその結果を自分自身で実行するとともに、クラブ員が防火・防災について地域のリーダーとなることを目的としています。

年間を通じて、少年消防クラブ結成式、一日消防署体験、視察研修、消火器の取扱い訓練、花火教室、防火ポスターの作成等を実施するとともに、消防フェスティバルにも積極的に参加し、防火・防災意識の高揚を図っています。



視察研修 米海兵隊キャンプ富士

概要

総務

火災

予防

警防

通信・指令

救助

救急

応援協定

消防団

防火協力団体



幼年消防クラブ

沿革

昭和57年	4月	1日	富士宮市芝川町幼少年婦人防火委員会発足
昭和59年	6月	1日	富士宮市内15幼稚園の幼年消防クラブ結成
平成3年	4月	1日	芝川町各保育園幼年消防クラブ結成
平成22年	3月	23日	富士宮市幼少年婦人防火委員会に名称変更

幼年消防クラブの目的は、幼年期を迎えた子供達に正しい火の取扱い方法と、消防の仕事をよく理解してもらうことで火遊び等による火災の減少を図り、更に幼年期に社会活動・集団活動を体験することによって自主性や協調性を養い、将来生命財産を守る能力と災害予防の意識を持つ大人となり、社会に貢献できる人間になることを期待するものであります。

現在、消防本部管内の幼稚園・保育園のうち、12園が同クラブを結成しています。6月～7月にかけて花火教室を開催し花火の正しい遊び方を学び、夏休みには防火ポスターを作成します。また、火災予防運動期間中には火災予防運動広報を実施し、その他にも消防フェスティバルに参加するなど積極的な活動を行っています。



令和6年度防火ポスター 幼年の部 金賞
認定こども園富丘こども園 鈴木 みあさん

あ と が き

この年報は、令和6年中の富士宮市における消防諸般の現況を収録したもので、合理的な運営と効果的な消防行政を推進するために編さんしました。

富士宮市消防本部

火事と救急は 119番

救急車を呼ぶべきか迷ったら
「#7119」

「消防年報」 令和6年版

編集・発行

富士宮市消防本部消防総務課

〒418-8601

静岡県富士宮市弓沢町150番地

電話 0544-22-1198

FAX 0544-22-1244

